NTT

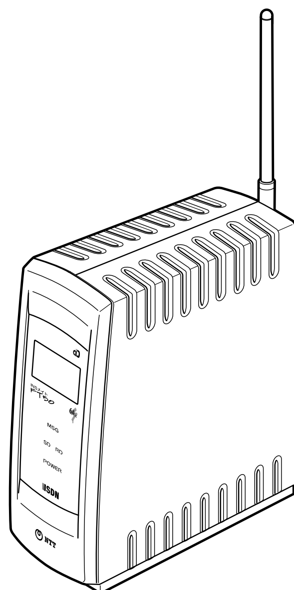
ISDN

ナンバー・ディスプレイ対応
キャッチホン・ディスプレイ

INSメイトFT50
取扱説明書

このたびは、INSメイトFT50をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

● ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
● お読みになったあとも、本商品のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。



技術基準適合認証品

安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店でお求めください。

本書中のマーク説明

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
STOP お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。
お知らせ	この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
ワンポイント	この表示は、本商品を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

ご使用にあたってのお願い

本商品のご利用にあたって、当社のレンタル電話機がご不要となった場合は、局番なしの116番または当社の営業所等にご連絡いただければ、「機器使用料金」は、不要となります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

●ご使用の際は取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
●本商品の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
●本商品のアナログポートは、電話網の仕様と完全には一致していないため、接続される通信機器によっては、正常に動作しないことがあります。
●本商品の付属ソフトウェアは、日本語版のOS上でご使用になることを前提としています。それ以外の環境では、動作を保証しておりません。
●本商品の付属ソフトウェアを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
●本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
●本商品を設置するための配線工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。
●本商品を分解したり改造したりすることは絶対に行わないでください。
●本書に、他社商品の記載がある場合、これは参考を目的としたものであり、記載商品の使用を強制するものではありません。
●本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申しつけください。
●この取扱説明書、ハードウェア、ソフトウェアおよび外観の内容について将来予告なしに変更することがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

⚠警告

●万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認して、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客さまによる修理は危険ですから絶対におやめください。

●万一、本商品を落としたり、キャビネットを破損した場合は、すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

●万一、内部に水などが入ったり、本商品をぬらした場合は、すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

●本商品の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

●本商品を分解・改造したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●本商品のキャビネットは外さないでください。感電の原因となることがあります。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、当社のサービス取扱所にご連絡ください。

⚠警告

●本商品のそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。

●ふろ場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは設置および使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ＡＣ１００ Ｖの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●差込口が2つ以上ある壁のコンセントに他の電気製品の電源アダプタ等を差し込む場合は、合計の電流値がコンセントの最大値を超えないように注意してください。火災・感電の原因となります。

●電源コードに傷をつけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源コードが傷んだら、電源アダプタをコンセントから抜き、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

●電源コードが傷んだ状態（芯線の露出、断線など）のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタを抜いて、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

●ぬれた手で本商品を操作したり、ぬれた手で乾電池や電池パックを交換しないでください。感電の原因となることがあります。

●ぬれた手で電源アダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

⚠警告

●テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●お客様がご用意された機器を本商品に接続してお使いになる場合は、あらかじめ当社のサービス取扱所に確認してください。確認できない場合は、絶対に接続して使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●本商品を移動させる場合は、電源アダプタをコンセントから抜き、電話機コードを差込口から抜いて、外部の接続線を外したことを確認のうえ、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●万一、漏電した場合の感電事故防止のため、必ずアース線を取り付けてください。また、アースをガス管に接続しないでください。爆発の原因となることがあります。

●電源アダプタをコンセント（ＡＣ１００Ｖ）に差し込むときは、確実に差し込んでください。電源アダプタの刃に金属などが触れると、火災・感電の原因となることがあります。

●電源アダプタをコンセントから抜くときは、必ず電源アダプタの本体を持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●電源アダプタは、ほこりが付着していないことを確認してからコンセントに差し込んでください。また半年から1年に1回は、電源アダプタをコンセントから抜いて点検、清掃をしてください。ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

お使いになる前に（設置環境）

●直射日光の当たるところや、ストーブ、ヒータなどの発熱器のそばなど、温度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

●調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所、鉄粉や有毒ガスが発生する場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本商品の上にものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

●振動・衝撃の多い場所に置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

●本商品をさかさまに置かないでください。

●本商品を重ね置きしないでください。重ね置きすると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

⚠注意

お使いのとき

- ●**近くに雷が発生したときは、電源プラグや電源アダプタをコンセントから抜いてご使用をお控えください。雷によっては、火災・感電の原因となることがあります。**
- ●**本商品や電源コードを熱器具に近づけないでください。キャビネットや電源コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。**
- ●**本商品の周囲約5 cm以内には、紙などの燃えやすいものを置かないでください。**
- ●**乾電池は正しくお使いください。使いかたを間違えると液漏れ、発熱、破裂により、けがや故障の原因となることがあります。以下のことを必ず守ってください。**
  - 保証期間内の単3アルカリ乾電池をお使いください。
    （アルカリ以外のマンガン電池などでの動作保証はしていません。）
  - 乾電池をショートさせたり、分解したりしないでください。
  - 乾電池のプラス（＋）、マイナス（－）の方向を確認して入れてください。
  - 新しい乾電池と古い乾電池、種類の異なる乾電池などを混用しないでください。
  - 外装ラベルがはがれたり、傷ついた乾電池を使用しないでください。
  - 使用済みの乾電池を火中に投げないでください。
- ●**停電がない場合でも1年に1回の割合で新しいアルカリ乾電池に交換してください。長期間乾電池を装着したままでご使用になると、液漏れによるトラブルが発生するおそれがあります。**

⚠注意

お使いのとき

- ●**乾電池のアルカリ液をなめた場合には、すぐにうがいをして医師に相談してください。**
- ●**乾電池のアルカリ液が皮膚や衣服に付着した場合には、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐに多量の水道水などのきれいな水で洗い流してください。**
- ●**本商品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと本商品の内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。**
  次のような使い方はしないでください。
  - じゅうたんや布団の上に置く。
  - テーブルクロスなどをかける。
  - 本棚、タンスの中、押入の中など風通しの悪い場所に置く。
  - さかさまに置く。
- ●**長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず乾電池を抜き、電源アダプタをコンセントから抜いてください。**
- ●**電源コードには、延長コードは使わないでください。火災の原因となることがあります。**
- ●**お手入れをするときは、安全のため必ず電源アダプタをコンセントから抜いてください。**
- ●**乾電池を取り外した場合は、小さなお子様が乾電池をなめたり、誤って飲むことがないようにしてください。乾電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。**
- ●**本商品に乗らないでください。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。壊れてけがの原因となることがあります。**

お願い

取り扱いについて

●ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。本商品の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。
●落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。

お願い

置き場所について

●製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本商品が正常に動作しないことがあります。
●電気製品・ＡＶ・ＯＡ機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。
- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音等が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
- テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 放送局や無線局などが近く、雑音等が大きいときは、本商品の設置場所を移動してみてください。

●金属製家具などの近くは避けてください。電波が飛びにくくなることがあります。
●周囲の環境（壁・家具など）によって使用範囲が狭くなることがあります。
●本商品を設置するときは、以下の点を留意してください。
- ワイヤレスパソコンアダプタやＰＨＳ対応電話機を増設した場合は、それぞれ、約2 m以上離してご使用ください。

●ＩＮＳメイトＦＴ５０のアンテナは床面に対して垂直に立ててください。準備のあと、ＩＮＳメイトＦＴ５０とワイヤレスパソコンアダプタやＰＨＳ対応電話機で通信をして使用できる場所かどうかを確かめてから設置してください。
●硫化水素が発生する場所（温泉地）などでは、本商品の寿命が短くなることがあります。

お願い

お使いのとき

●INSナンバー・ディスプレイのご利用に際しては、郵政省の定める「発信者情報通知サービスの利用における発信者個人情報の保護に関するガイドライン」を尊重してご利用願います。
●本商品プラスチック部品の一部に、光の具合によってはキズに見える部分があります。プラスチック部品の製作過程で生じることがあるものですが、構造上および機能上は問題ありません。安心してお使いください。
●コネクタに異物を差し込んだり、端子面をさわらないでください。故障の原因となることがあります。
●本商品は、ディジタル信号を利用した傍受されにくい商品ですが、電波を使用している関係上、通常の手段を超える方法がとられた場合には、第三者が故意に傍受するケースもまったくないとはいえません。この点に十分配慮してご使用ください。

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書の構成

■ 準備編

INSメイトFT50をご使用になる前に知っておいていただきたいことをまとめています。

■ INSメイトFT50活用編

1 お使いになる前に

INSメイトFT50の接続方法や日付・時刻の設定方法などについて説明しています。

2 アナログ通信機器の利用

INSメイトFT50に接続したアナログ通信機器で利用できる機能とその使いかたを説明しています。

3 INSネット64サービスの利用

各種のINSネット64サービスを利用するための手順を説明しています。

4 データ通信を行う

インターネットなど、INSメイトFT50で利用できるデータ通信について説明しています。

5 便利な機能

■ INSメイトFT50設定編

1 設定ユーティリティのインストール

Windows® 95／Windows® 98／Windows® Me／Windows® 2000／Windows NT® 4.0用、Mac OS用の設定ユーティリティのインストール方法を説明しています。

2 設定ユーティリティでの設定方法

設定ユーティリティの使いかたを説明しています。

3 汎用的な設定方法

INSメイトFT50がサポートしているATコマンドについて説明しています。

■ 付録

1 ご参考

INSメイトFT50で利用できるオプションについて説明しています。

2 こんなときは

故障かな？と思ったときの確認方法などを説明しています。

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書を読む順序

ご利用になりたい機能により、「INSメイトFT50活用編」を以下の順序でお読みください。「INSメイトFT50設定編」は、「INSメイトFT50活用編」の記述中でご案内する参照箇所を読んでいただくようになっています。

1 お使いになる前に
最初にお読みください。機器の接続方法、最初に行う日付、時刻の設定などを説明しています。

電話機やファクスを接続して使うとき

2 アナログ通信機器の利用
INSメイトFT50に接続した電話機やファクスで利用できる機能や操作について参照してください。また、アナログポートに関する設定を電話機から行う方法は、この章の「電話機から設定を行うには」で説明しています。

3 INSネット64サービスの利用
INSネット64サービスの各種サービスを利用する方、INSメイトFT50で利用できるINSネット64サービスについて知りたい方は、参照してください。

パソコンを接続してインターネット等のデータ通信を行うとき

「インターネット接続ガイド」（別冊）
INSメイトFT50を使用してインターネットに接続するまでのパソコン操作を、一般的な手順にのっとって説明しています。

3 INSネット64サービスの利用
ダイヤルイン、サブアドレスについては、この章の「複数の電話番号を使い分けるには」「サブアドレスで特定の電話機やパソコンを呼び出すには」を参照してください。

4 データ通信を行う
「インターネット接続ガイド」（別冊）に書かれていない、INSメイトFT50のデータ通信機能などについてさらに知りたい方は、参照してください。

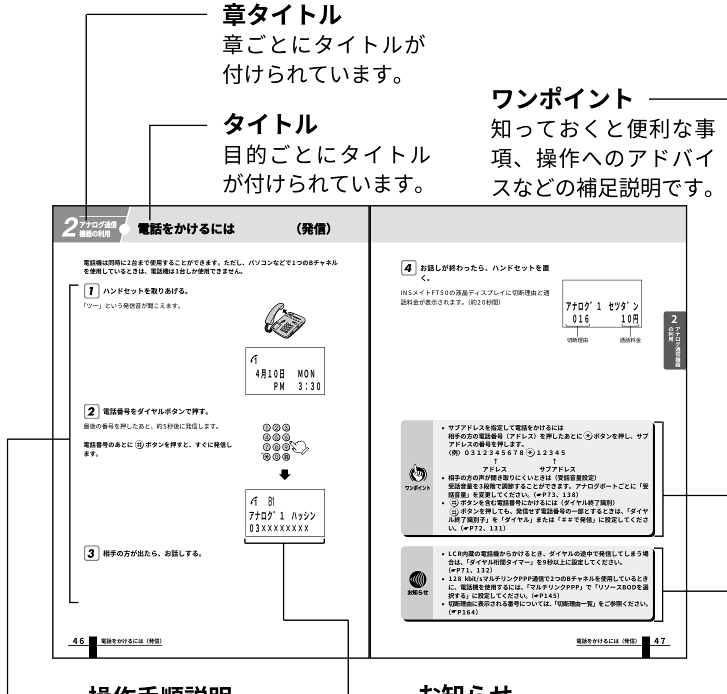
操作説明のページの構成

活用編を例に説明します。

章タイトル
章ごとにタイトルが
付けられています。

タイトル
目的ごとにタイトル
が付けられています。

ワンポイント
知っておくと便利な事
項、操作へのアドバイ
スなどの補足説明です。



2 アナログ通信機器の利用　電話をかけるには　（発信）

電話機は同時に2台まで使用することができます。ただし、パソコンなどで1つのBチャネルを使用しているときは、電話機は1台しか使用できません。

1 ハンドセットを取りあげる。
「ツー」という発信音が聞こえます。

2 電話番号をダイヤルボタンで押す。
最後の番号を押したあと、約5秒後に発信します。

電話番号のあとに ⊕ ボタンを押すと、すぐに発信します。

3 相手の方が出たら、お話しする。

46　電話をかけるには（発信）

4 お話しが終わったら、ハンドセットを置く。
INSメイトFT50の液晶ディスプレイに切断理由と通話料金が表示されます。（約20秒間）

ワンポイント
- サブアドレスを指定して電話をかけるには
  相手の方の電話番号（アドレス）を押したあとに ㊉ ボタンを押し、サブアドレスの番号を押します。
  〈例〉0312345678 ㊉ 12345
  ↑アドレス　↑サブアドレス
- 相手の方の声が聞き取りにくいときは（受話音量設定）
  受話音量を3段階で調節することができます。アナログポートごとに「受話音量」を変更してください。（☛P73、138）
- ⊕ ボタンを含む電話番号にかけるには（ダイヤル終了識別）
  ⊕ ボタンを押しても、発信せず電話番号の一部とするときは、「ダイヤル終了識別子」を「ダイヤル」または「＃＃で発信」に設定してください。（☛P72、131）

お知らせ
- LCR内蔵の電話機からかけるとき、ダイヤルの途中で発信してしまう場合は、「ダイヤル桁間タイマー」を9秒以上に設定してください。（☛P71、132）
- 128 kbit/sマルチリンクPPP通信で2つのBチャネルを使用しているときに、電話機を使用するには、「マルチリンクPPP」で「リソースBODを選択する」に設定してください。（☛P145）
- 切断理由に表示される番号については、「切断理由一覧」をご参照ください。（☛P164）

電話をかけるには（発信）　47

操作手順説明
順番に操作を説明します。

ディスプレイの表示やイラスト
アナログポートに接続した電話機からの操作は、TEL1ポートに接続した電話機を例に説明します。

お知らせ
この表示は、INSメイトFT50を取り扱ううえでの注意事項を示します。

お願い
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、INSメイトFT50本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示します。

目次

2 アナログ通信機器の利用

目次

5 便利な機能

INSメイトFT50 設定編

1 設定ユーティリティのインストール

2 設定ユーティリティでの設定方法

目次

3 INSメイトFT50の設定

4 汎用的な設定方法

付録

1 ご参考

2 こんなときは

準備編

INSネット64ならではの幅広いサービス

INSネット64には、いろいろなご利用形態があります。

INSネット64の月額料金が別途必要です。

INSネット64の基本料金の中に含まれるサービスです。

INSメイトFT50の設定が必要です。

INSメイトFT50の設定は不要です。

かけてきた方の電話番号を表示

接続した電話機に、かけてきた方の電話番号を表示することができます。

●INSナンバー・ディスプレイ（☛P80）

P80

こちらの電話番号を相手の方に通知

発信者番号を相手の方に通知することができます。通知しないようにすることもできます。

●発信者番号通知（☛P82）

P82

かけてきた方を音で識別

登録した相手の方からの電話は、通常と異なる着信音が鳴るようにすることができます。

●INSなりわけサービス（☛P95）

P95

お出かけ先への転送機能

無条件転送、無応答転送、話中転送の指定ができます。ボイスワープセレクトは、かかってきた相手によって転送先を変えられます。

●INSボイスワープ（☛P96）
●INSボイスワープセレクト（☛P96）

P96

有料サービス ¥　本体設定 要

1本の契約回線に複数の電話番号
1本の契約で、複数の電話番号を使い分けることができます。
電話とファクスなどを別々の番号で受けられます。

●i・ナンバー（☛P78）●ダイヤルイン（☛P76）

P78　P76

有料サービス ¥　本体設定 要

お話し中にかかってきた電話もキャッチ
お話し中にかかってきた電話に出ることができます。

●INSキャッチホン（☛P84）

P84

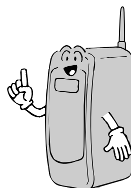
■その他ご利用になれる主なサービス

サービス名		料　金	設　定	参照ページ
フレックスホン	INSキャッチホン 通信中転送 三者通話 着信転送	有料サービス ¥	本体設定 要	（☛P83）
通信中着信通知サービス		無料サービス ¥	本体設定 要	——
代表取扱サービス		無料サービス ¥	本体設定 不要	——
INSマジックボックス		有料サービス ¥	本体設定 要	（☛P98）
発着信専用サービス		無料サービス ¥	本体設定 不要	——
Fネット		有料サービス ¥	本体設定 不要	——

サービスガイド

INSメイトFT50にできること

INSメイトFT50とINSネット64の組み合わせにより、今までお使いの電話機やファクスを接続していろいろ活用できます。また、パソコンを接続すれば、インターネットも簡単に使えます。



ワイヤレスでインターネットに接続

ケーブルでつながなくても、ワイヤレスパソコンアダプタに接続したパソコンから、INSメイトFT50を介してインターネットに接続できます。

●ワイヤレスでインターネットへ接続（☛P103）

P103

いろいろな設定は電話機からOK

パソコンを接続していなくても、電話機からいろいろな設定をすることができます。

●電話機からの設定（☛P64）

P64

2台で同時にインターネット

INSメイトFT50に接続したパソコン、ワイヤレスパソコンアダプタに接続したパソコンの2台で、同時にインターネットに接続できます。2台同時に接続する場合は、それぞれ1チャネルずつ使用します。

●インターネットへの接続
（☛別冊インターネット接続ガイド）

別冊

2台の電話機で内線を使う

接続した電話機どうしでお話ししたり、電話を転送することができます。

●内線通話（☛P62）
●内線転送（☛P63）

P62 P63

PHS対応電話機を子機として使える

PHS対応電話機をコードレス電話機として利用できます。

●PHS対応電話機をコードレス電話機として利用する（☛P106）

P106

かけてきた方を音で識別

登録した相手の方からの電話は、通常と異なる着信音が鳴るようにすることができます。識別するにはINSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。

●疑似なりわけ（☛P52）

P52

お話し中にかかってきた電話もキャッチ

2本分のチャネルを使用して、お話し中にかかってきた電話に出ることができます。

●疑似キャッチホン（☛P56）

P56

インターネットも快適

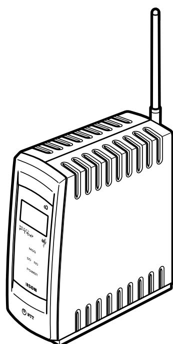
パソコンを接続して、インターネットに簡単にアクセスできます。

●インターネットへの接続
（☛別冊インターネット接続ガイド）

別冊

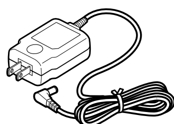
セットを確認してください

■ 本体



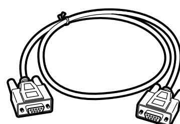
INSメイトFT50（1台）

■ 付属品

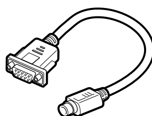


**INSメイトFT50用
電源アダプタ（1個）**

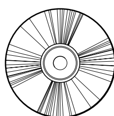
**電話機コード（6ピン）
（1本：約2 m）**



**RS-232Cケーブル
（D-SUB9ピン）（1本：約1.5 m）**



**Macintosh用変換ケーブル
（1本）**



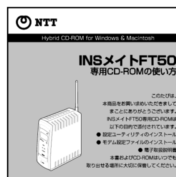
CD-ROM（1枚）

取扱説明書（1部）

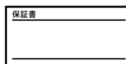
**インターネット接続ガイド
（1部）**

**接続早わかりガイド
（1枚）**

**サービスガイド
（1枚）**


NTT
Hybrid CD-ROM for Windows & Macintosh
INSメイトFT50
専用CD-ROMの使い方
このたびは、本商品をお買い求めいただきまして まことにありがとうございます。 INSメイトFT50専用CD-ROMは以下の目的で添付されています。
● 設定ユーティリティのインストール
● モデム設定ファイルのインストール
● 電子取扱説明書
本書およびCD-ROMはいつでも取り出せる場所に大切に保管してください。

**専用CD-ROMの使い方
（1部）**



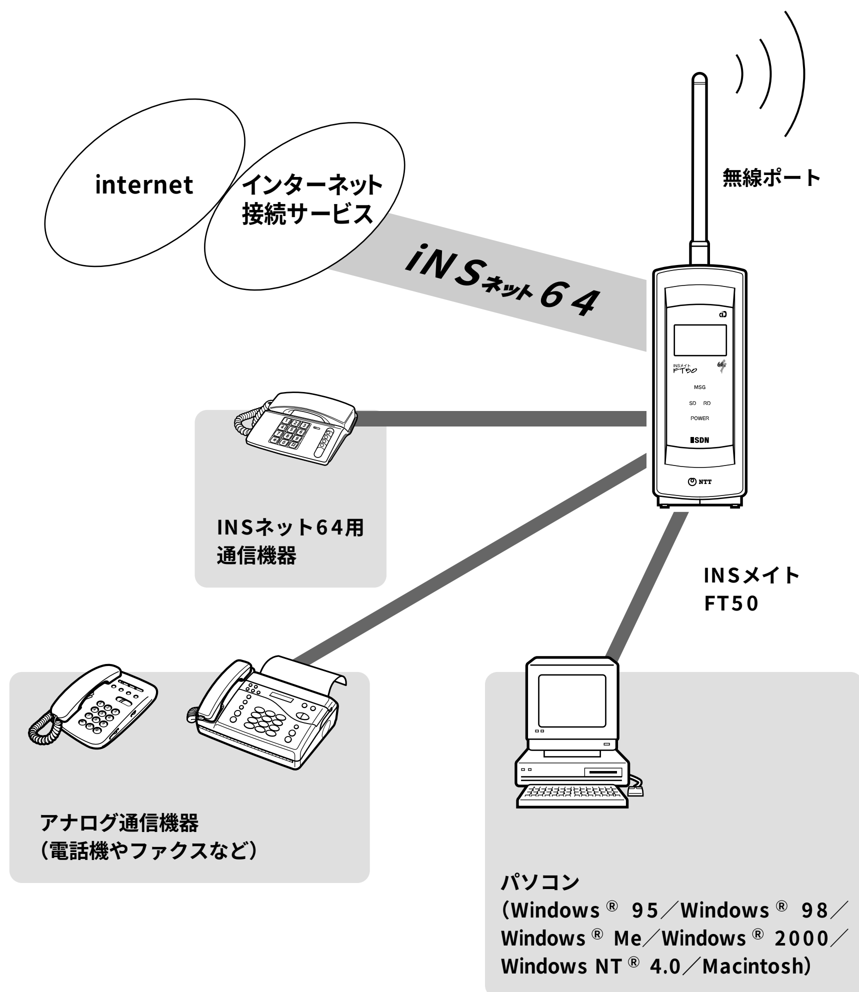
保証書（1枚）

**NTT通信機器
お取扱相談センタシール（1枚）**

●RS-232Cケーブル、Macintosh用変換ケーブルについてはイラストと多少、形状の異なることがありますが、機能的には同等のものです。
●セットに足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁・落丁があった場合などは、当社のサービス取扱所へご連絡ください。

INSメイトFT50の利用形態

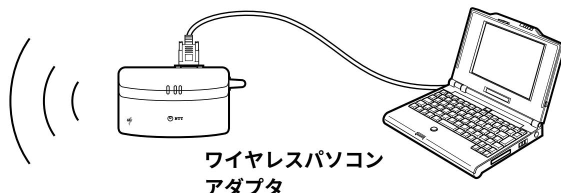
INSメイトFT50にワイヤレスパソコンアダプタやPHS対応電話機を登録して、いろいろな利用形態に合わせて、ご利用できます。



※INSメイトFT50に無線で接続するポートを無線ポートと表記しています。

ワイヤレスパソコンアダプタを使う

ワイヤレスでインターネットをご利用できます。（☛P103）

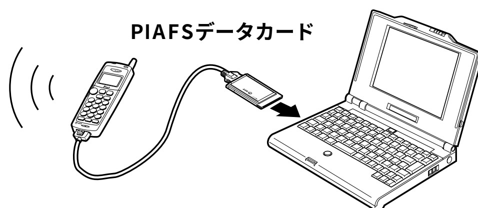


PHS対応電話機を子機として使う

PHS対応電話機をコードレス電話機としてご利用できます。（☛P106）

PIAFSデータカードを使う

登録したPHS対応電話機を利用して、ワイヤレスでインターネットをご利用できます。（☛P103）



ワンポイント

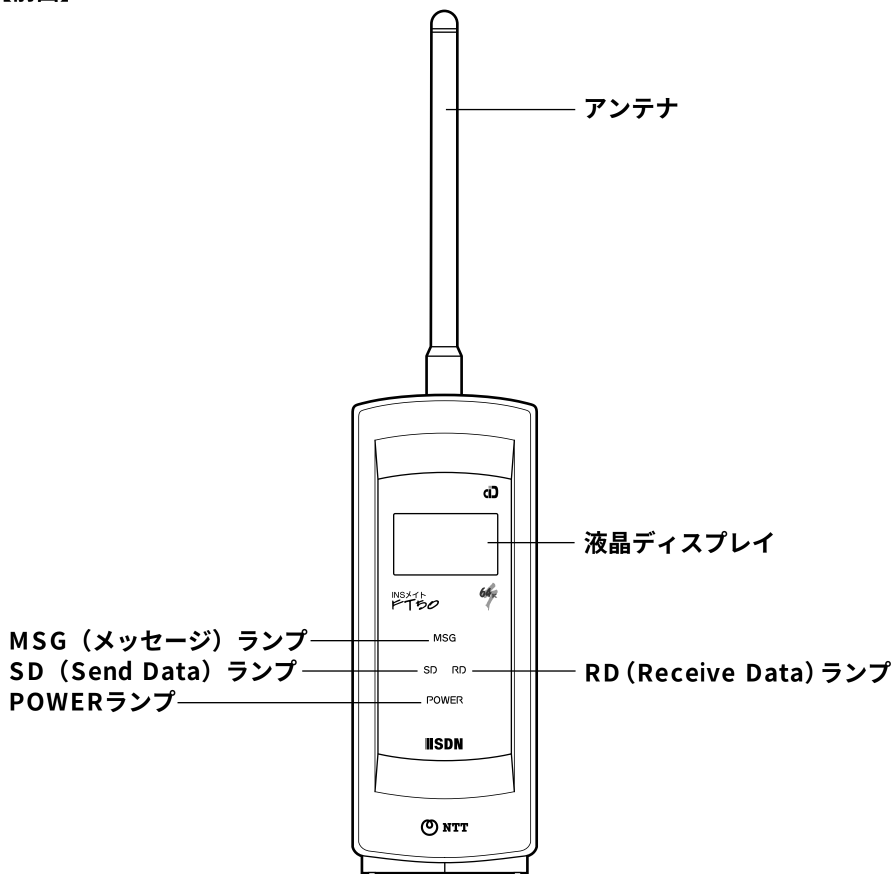
- **INSメイトFT50に登録できる無線機器の最大数**
  ・ワイヤレスパソコンアダプタ……………最大2台
  ・PHS対応電話機 …………………………最大4台
  合計6台まで登録できます。

お知らせ

- **PHS対応電話機をご利用になる場合は、INSメイトFT50への増設登録と工事費が必要となります。**
  局番なしの116番または、当社の営業所等へご相談ください。
- **利用できるPHS対応電話機やサービス機能動作等については、局番なしの116番または、当社の営業所等へご相談ください。**

各部の名前（INSメイトFT50）

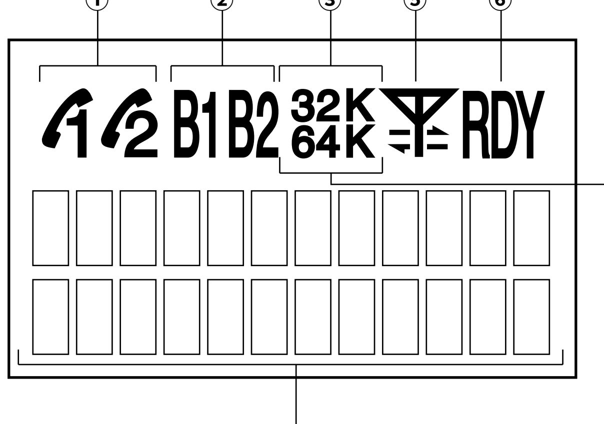
【前面】



【ランプ表示】

ランプの種類	ランプのつき方（色）	INSメイトFT50の状況
MSGランプ	点灯（緑）	メッセージ受信サービスで使用する予定 （平成12年10月現在未提供です）
SDランプ	点灯（緑）	パソコンからINSメイトFT50にデータを送信しているとき
RDランプ	点灯（緑）	INSメイトFT50からパソコンにデータを送信しているとき
POWERランプ	点灯（緑）	電源が入っているとき
	速い点滅（緑）	自己診断中のとき（☛P212） INSメイトFT50に異常があったとき
	遅い点滅（緑）	電池動作モードで動作しているとき

【液晶ディスプレイの見かた】

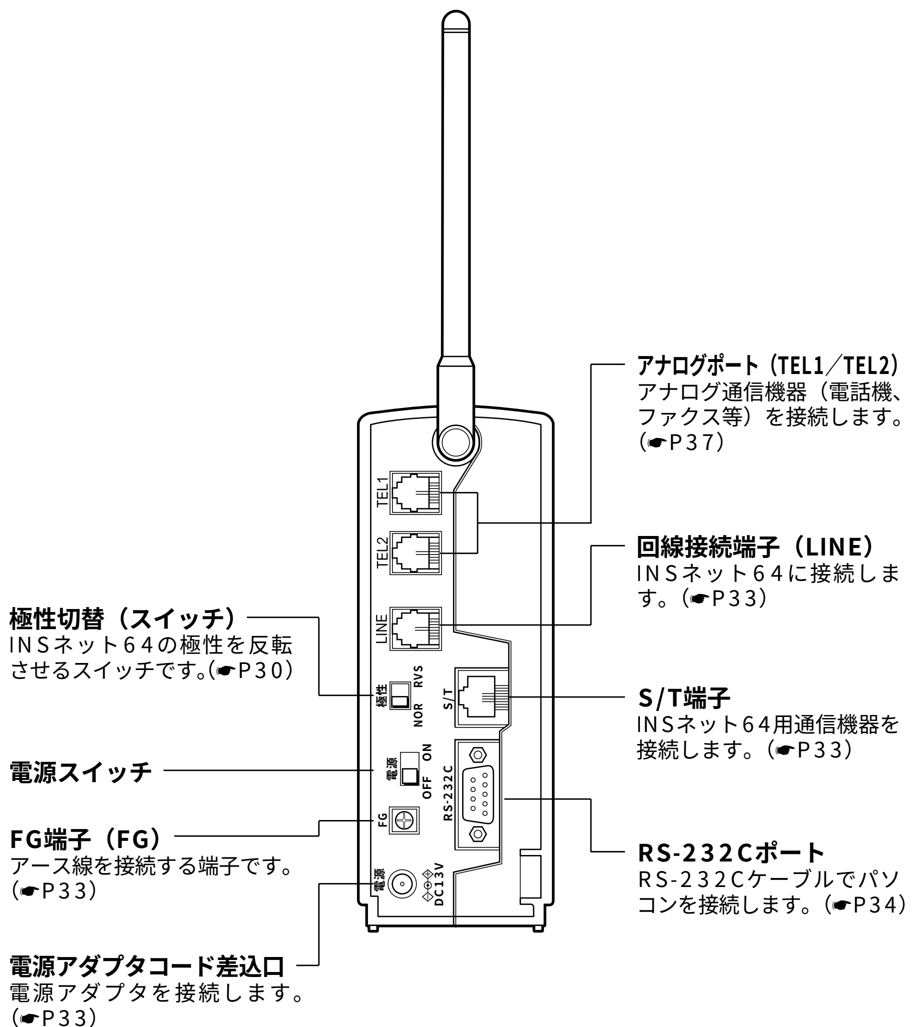


■こんなとき表示されます

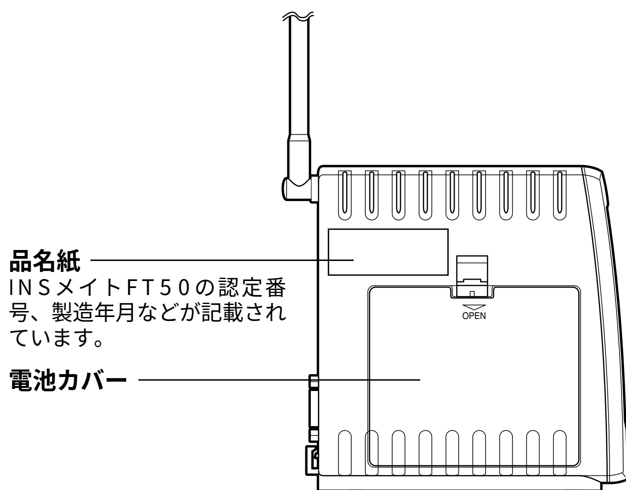
①		アナログ通信機器を使用しているとき （ はTEL1ポート、 はTEL2ポート）
② B1 B2		使用しているBチャネル
③32K		ワイヤレスパソコンアダプタまたはPHS対応電話機でデータ通信中のとき（32 kbit/s）2台同時に利用中は点滅します
④64K		ワイヤレスパソコンアダプタまたはPHS対応電話機でデータ通信中のとき（64 kbit/s）
⑤		PHS対応電話機でお話し中または32Kデータ通信中（1スロット）
		2台のPHS対応電話機、ワイヤレスパソコンアダプタで使用中または64Kデータ通信中（2スロット）
⑥RDY		パソコンのER信号がONのとき
⑦文字や数字		日付、時刻、発信番号、着信番号、INSメイトFT50の状態などの表示

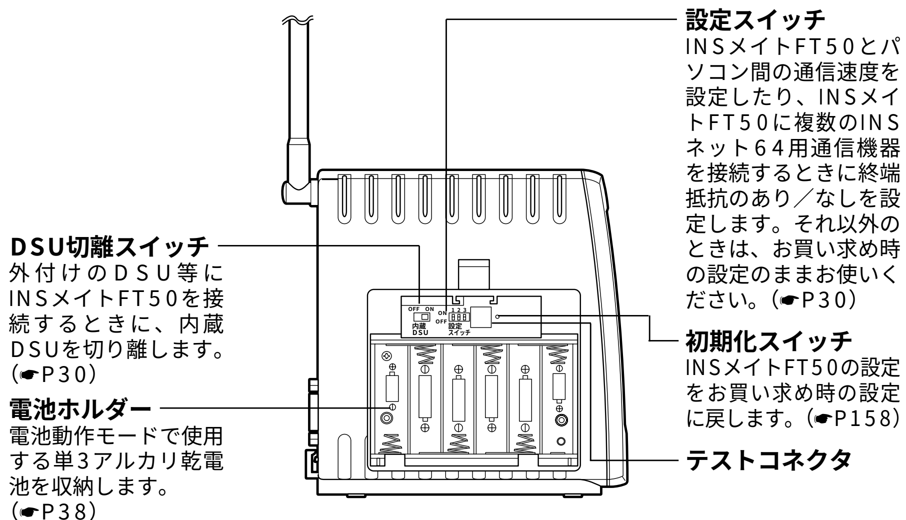
各部の名前（INSメイトFT50）

【背面】



【左側面】





STOP
お願い

- テストコネクタのキャップは外さないでください。テストコネクタに触れた場合、破損するおそれがあります。

各種スイッチ（INSメイトFT50）

INSメイトFT50の電池カバー内にあるDSU切離スイッチや設定スイッチで、各種設定を変更することができます。スイッチを切り替えるときは必ず本体の電源を「OFF」にしてください。

DSU切離スイッチの内容

お買い求め時の設定	設定内容	説　明
ON	内蔵DSU ON　内蔵DSUを使用するときに設定 OFF　内蔵DSUを使用しないに設定	INSメイトFT50に内蔵のDSUを使用する／使用しないを設定します。(☛P36)

設定スイッチの内容

ON 1 2 3
OFF
設定
スイッチ

番　号	お買い求め時の設定	設定内容	説　明
1	ON	終端抵抗 1　2 ON　ON 終端抵抗ありに設定 OFF　OFF終端抵抗なしに設定	終端抵抗のあり／なしを設定します。(☛P36)
2	ON		
3	ON	速度設定 ON　9.6〜115.2 kbit/s（自動設定） OFF　230.4 kbit/s（固定）	INSメイトFT50とパソコン間の通信速度を設定します。

INSメイトFT50の背面にある、極性切替（スイッチ）で設定を変更することができます。

極性切替（スイッチ）の内容

お買い求め時の設定	設定内容	説　明
NOR	回線極性 NOR　極性を反転させないに設定 RVS　極性を反転させるに設定	回線の極性を反転させる／させないを設定します。(☛P33)

STOP
お願い

- **設定スイッチ1、2の設定は、必ずONとON、またはOFFとOFFの組み合わせで設定してください。**
- **128KマルチリンクPPPではINSメイトFT50とパソコン間の通信速度は230.4 kbit/sでご使用ください。Windows対応機種で使用する場合、お使いになるパソコンが230.4 kbit/sに対応していないときは、230.4 kbit/sに対応した市販の高速RS-232Cボードを購入してください。Macintoshで使用する場合は、230.4 kbit/s対応の機種をお使いください。**
- **各種設定スイッチの操作は、つまようじのようなもので行ってください。**

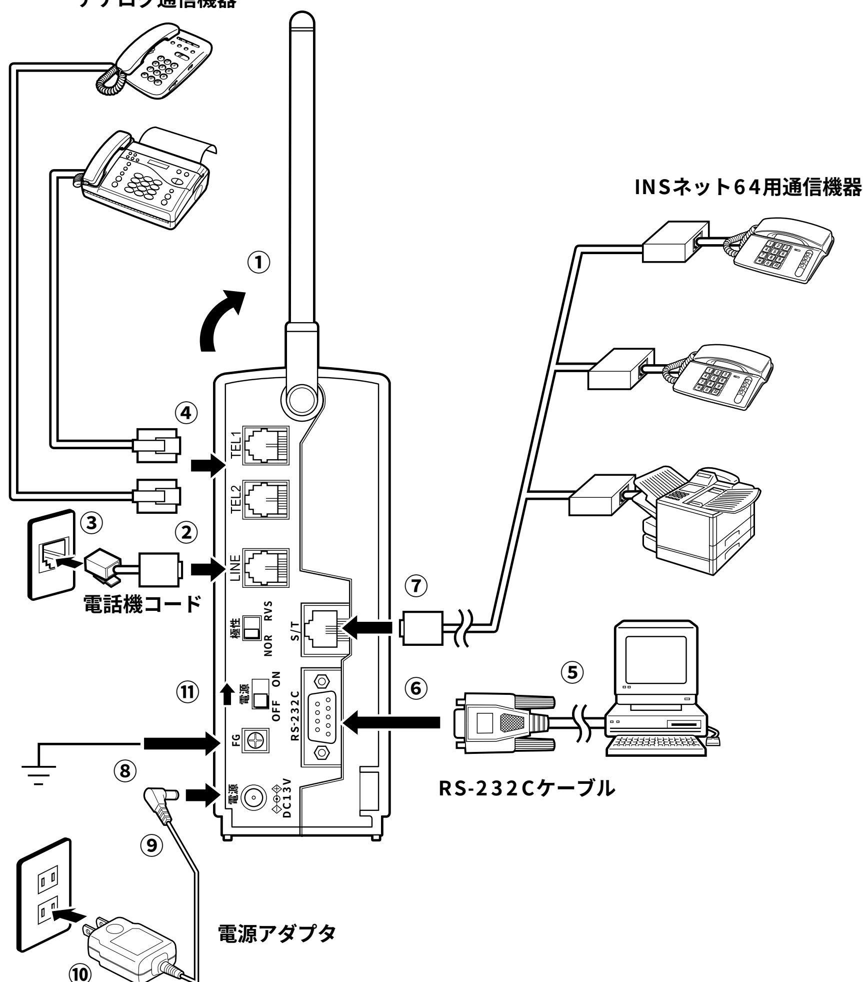
INSメイトFT50 活用編

接続します

INSメイトFT50は、INSネット64に接続して使用します。ご使用の回線がINSネット64でないときは別途INSネット64のお申し込みが必要です。INSネット64については、局番なしの116番または当社の営業所へお問い合わせください。

接続の手順

■ アナログ通信機器、パソコンおよびINSネット64用通信機器を接続する例



●接続図では、アナログ通信機器、パソコンおよびINSネット64用通信機器の接続を概念的に示しています。実際の接続方法は、使用する機器や設置する場所などの使用状況に合わせる必要があるため、図と異なる場合があります。

① **アンテナを床面に対して垂直に立てる。**
アンテナは約200°まで回転します。無理に回転させないでください。

② **付属の電話機コード（6ピンモジュラコード）を回線接続端子（LINE）につなぐ。**
外付けのDSUにINSメイトFT50を接続するには（☛P36）

③ **電話機コードをINSネット64回線用モジュラジャックにつなぐ。**

④ **アナログ通信機器の電話機コードをアナログポート（TEL1／TEL2）につなぐ。**

⑤ **RS-232Cケーブルをパソコンにつなぐ。**
パソコンの種類により使用するケーブルが異なります。（☛P34）

⑥ **パソコンに接続したケーブルを、INSメイトFT50のRS-232Cポートにつなぐ。**

⑦ **INSネット64用通信機器の電話機コードをS/T端子につなぐ。**

⑧ **FG端子（FG）にアース線をつなぐ。**
アース線は付属していませんので、環境に合った長さの物をあらかじめご用意のうえ、壁や電源コンセントのアース端子に接続してください。

⑨ **INSメイトFT50用電源アダプタの接続端子を電源アダプタコード差込口に差し込む。**

⑩ **INSメイトFT50用電源アダプタを電源コンセント（AC100 V）に差し込む。**

⑪ **電源スイッチを「ON」側に押して、電源を入れる。**
自動的に自己診断がはじまります。（☛P212）
POWERランプが緑色で速く点滅し、液晶ディスプレイに「ジコシンダンチュウ」と表示されます。

⑫ **POWERランプが緑点灯に変わり、液晶ディスプレイに日付・時刻が表示されていることを確認する。**

［液晶ディスプレイ］

ｼﾞｺｼﾝﾀﾞﾝﾁｭｳ

1月 1日 SAT
AM 0:00

お知らせ

- **INSネット64回線と接続する前に電源を入れると、「カイセン イジョウ」と表示されます。必ず手順どおりに接続してください。**
- **INSネット64回線が接続されていても「カイセン イジョウ」が表示される場合はINSメイトFT50背面の極性切替（スイッチ）（☛P28）を切り替えてください。それでも「カイセン イジョウ」が表示されている場合は当社のサービス取扱所にご連絡ください。**
- **接続のときは電源を切っておいてください。すべての接続が終了してから、電源を入れてください。**

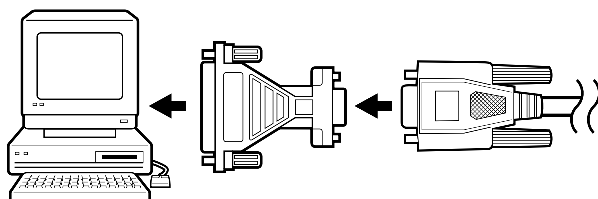
接続します

INSメイトFT50にパソコンを接続するケーブル

INSメイトFT50のRS-232Cポートにパソコンを接続するときは、以下の付属ケーブルを使用してください。

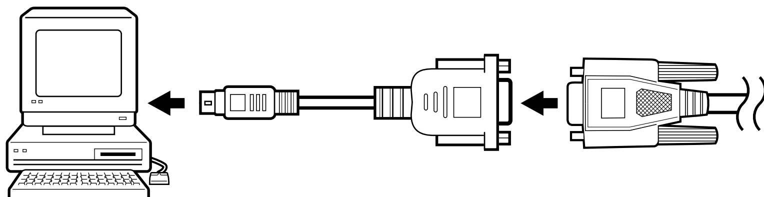
●D-SUB9ピン（DOS/Vパソコン等）
付属のRS-232Cケーブルで、パソコンのシリアルポート（9ピン）に接続します。

●D-SUB25ピン（NEC PC-9800シリーズ）
付属のRS-232CケーブルとD-SUB25ピン変換コネクタで、パソコンのシリアルポート（25ピン）に接続します。



※D-SUB25ピン変換コネクタは、INSメイトFT50には添付していません。
お客様でご用意ください。

●Macintosh
付属のMacintosh用変換ケーブルで、Macintoshのモデムポートまたはプリンタポートに接続します。



STOP お願い

- **ケーブルの接続は、パソコンの取扱説明書に従って接続してください。**
- **変換コネクタを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。**

接続上の注意

■ INSネット64の接続

INSネット64以外の回線には接続しないでください。接続には付属の電話機コードを使用してください。
INSネット64と接続する前に電源を入れると、液晶ディスプレイに「カイセン　イジョウ」と表示されます。必ず手順どおりに接続してください。手順どおりに接続しても「カイセン　イジョウ」と表示された場合は、極性切替（スイッチ）を「RVS」に切り替えてください。

■ 電源の接続

電源アダプタはAC100 V（50 Hzまたは60 Hz）の電源コンセントに接続してください。パソコン等のスイッチに連動するコンセントに接続すると、電源が切れるたびに電池動作モードになるため、電池が早く消耗します。INSメイトFT50の電源はパソコンから独立して取得してください。

■ パソコンの接続

パソコンとの接続には付属のRS-232Cケーブルを使用してください。ノートパソコン等の特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。

■ アースの接続

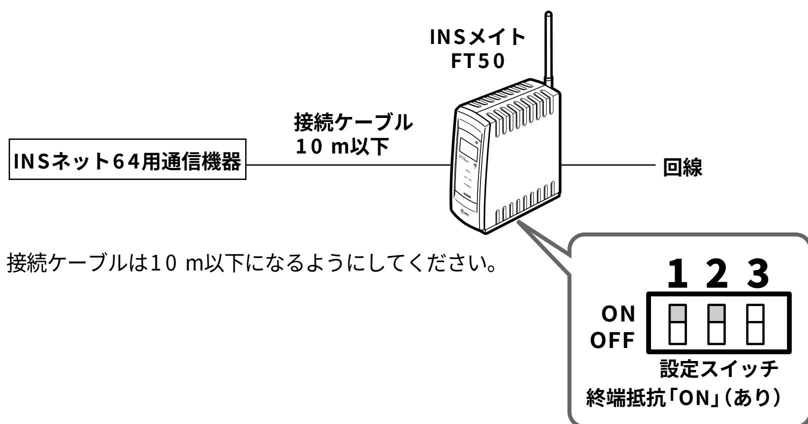
落雷等の電撃事故による人身、装置への損傷を防止するために、FG端子（FG）に必ずアース線を接続してください。

■ INSネット64用通信機器の接続

INSネット64用通信機器（ディジタル電話機、G4ファクス、TA等）は、最大7台まで接続して使用できます。接続する台数によって設定スイッチの設定、配線方法が異なります。

● 1台接続

設定スイッチの「終端抵抗」が「ON」（初期値）の状態で使用できます。



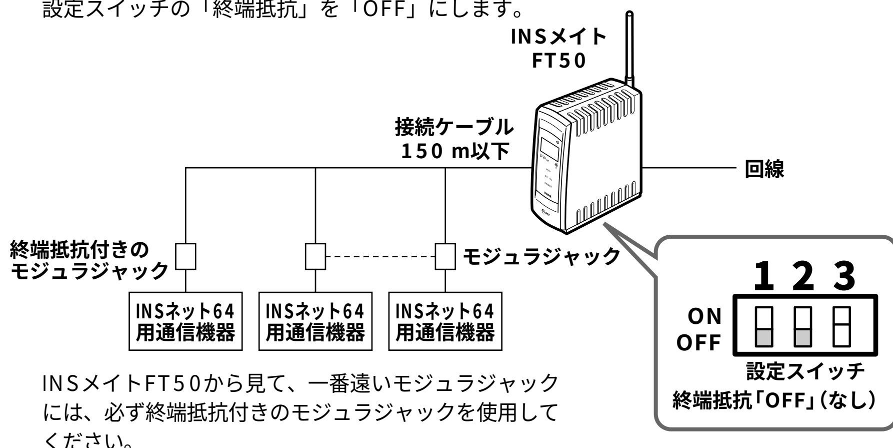
接続ケーブルは10 m以下になるようにしてください。

（次ページへ続く）

接続します

● **2～7台接続**

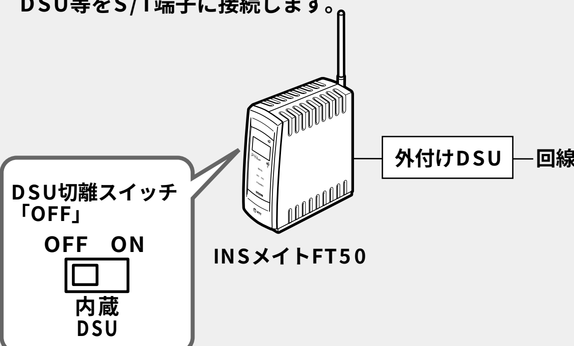
設定スイッチの「終端抵抗」を「OFF」にします。



INSメイトFT50から見て、一番遠いモジュラジャックには、必ず終端抵抗付きのモジュラジャックを使用してください。

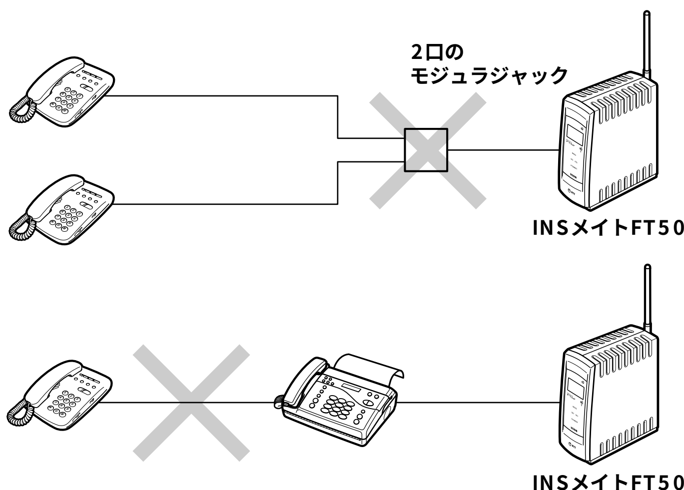
ワンポイント

- **終端抵抗とは**
  DSUから一番遠いモジュラジャックまたはINSネット64機器に入れる抵抗です。回線の送受信線それぞれに入れて信号波形を正常に保つ働きがあります。
- **外付けDSUにINSメイトFT50を接続するには**
  外付けのDSUや、DSU内蔵のTAにINSメイトFT50を接続するときは、DSU切離スイッチを「OFF」にして内蔵DSUを切り離します。外付けDSU等をS/T端子に接続します。



■ 電話機・ファクスの接続

アナログポート（TEL1／TEL2）には、一般のアナログ回線に接続するプッシュ式（PB）のアナログ通信機器（電話機、ファクス等）が接続できます。
下図のように複数のアナログ通信機器を接続した場合、接続したアナログ通信機器が正常に動作しない場合がありますので、1つのアナログポートにはアナログ通信機器を1台のみ接続してください。



お知らせ

- ダイヤル式（DP）のアナログ通信機器は使用できません。
- アナログポートには（財）電気通信端末機器審査協会の適合認証を取得しているアナログ通信機器を接続してください。
- 一般のアナログ回線との違いにより、お使いいただけないアナログ通信機器もあります。
- 料金管理装置等を接続してご使用の場合、通信事業者からの通信料金の請求額とは必ずしも一致しないことがあります。ご注意ください。
- INSネット64回線用のモジュラジャック式の配線工事には資格が必要です。局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

STOP
お願い

- INSネット64用通信機器の接続は、配線が全長で150 m以下となるようにしてください。
- 屋外に渡る配線は行わないでください。事故の原因になります。
- 機器の接続に使用するコード類は、機器に付属するものを使うか、接続する機器に適合したものを使用してください。

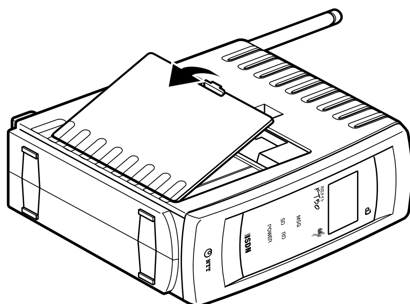
停電になったときのために

停電したときも、電話をかけたり受けたりする（電池動作モード）には、市販の単3アルカリ乾電池（6本）をINSメイトFT50にセットします。単3アルカリ乾電池はお客様で、ご用意願います。

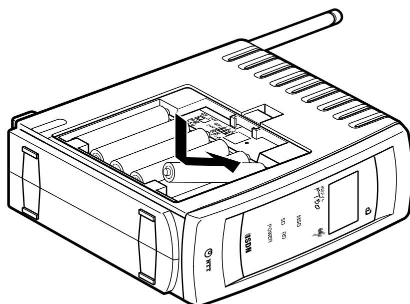
停電用の電池をセットする

必ずINSメイトFT50の電源スイッチを「OFF」にしてから電池をセットしてください。

1 電池カバーのツメを押し下げながら、持ち上げるようにして開ける。



2 単3アルカリ乾電池（6本）を電池の極性に注意して、電池ホルダーに入れる。



乾電池のプラス・マイナスの向きを確かめてください。

3 電池カバーを取り付ける。

⚠注意

●保証期間外や残量がなくなった乾電池は使用しないでください。また、長時間の停電で乾電池を使いきった場合は、乾電池を交換してください。そのまま使用しますと、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。
●電池を入れた電池ホルダー側の側面を、発熱する機器の近くや直射日光・高温・高湿の場所に置かないでください。電池を漏液、発熱、破裂させるおそれがあります。
●その他、電池に書かれている注意事項をよくお読みのうえご使用ください。

■停電時の使用可能時間の目安

条　件		使用可能時間※
単3アルカリ乾電池（未使用）	待ち受け	約3時間
	連続通話	約2時間

※TEL1ポートまたはTEL2ポートのみ使用した場合

ワンポイント

- 停電時に使用できる機能
・アナログポートに接続している電話機やファクス
・S/T端子に接続している停電対応のINSネット64用通信機器1台
・内線通話／内線転送
RS-232Cポート、無線ポートは使用できません。

お知らせ

- 電池がセットされているとアナログポートに接続されたアナログ通信機器で通話中に停電があった場合も、通話が終了するまでは継続されます。
- お買い求め時は、TEL1ポートに接続しているアナログ通信機器のみ使用できます。TEL2ポートへの着信は拒否されます。停電時にTEL2ポートに接続しているアナログ通信機器を使用するときや、TEL1ポートを使用できないようにするときはアナログポートごとに「停電時発着信設定」を変更してください。（☛P73、P138）
- 電池動作モード中に着信があった場合や、電池動作モード中の内線転送時は、アナログ通信機器へのナンバー・ディスプレイサービスは利用できません。
- INSメイトFT50の電源がパソコンの電源と連動して切れるようにすると電源が切れるたびに電池動作モードになるため、電池が早く消耗します。INSメイトFT50の電源はパソコンから独立して取得してください。
- S/T端子に接続した機器の種類によっては、電池の消耗を早めるものがあります。停電時は、INSメイトFT50から不要な機器を外してください。

日付・時刻を設定するには

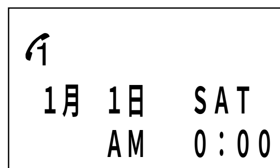
接続が完了したら、電話機から日付・時刻の設定を行います。2つのアナログポートのどちらに接続した電話機でも設定できます。設定ユーティリティを利用して、パソコンで設定することもできます。(**☛P154****)**

日付・時刻を設定する

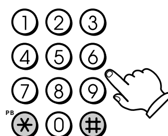
1 アナログポートに接続した電話機のハンドセットを取りあげる。

「ツー」という発信音が聞こえます。

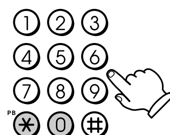
操作は、INSメイトFT50の液晶ディスプレイを見ながら行ってください。



2 ㊯ ㊀ をダイヤルボタンで押す。

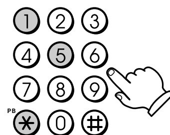


3 ⓪ ⓪ ⊛を押す。



キノウトウロク

4 ① ⑤ ⊛を押す。



カレンダ゛ーセッテイ
00年01月01日

5 年、月、日の順にダイヤルボタンで押す。

月、日が1桁の場合は、0も入力します。

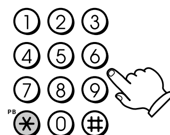
〈例〉 2000年　4月　10日
⓪⓪　⓪④　①⓪
↑　↑　↑
年　月　日
（西暦下2桁）

カレンダ゛ーセッテイ
00年04月10日

（次ページへ続く）

日付・時刻を設定するには

6 ㊀ボタンを押す。



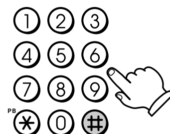
シ゛コクセッテイ
00：00

7 時、分の順にダイヤルボタンで押す。

時、分が1桁の場合は、0も入力します。
〈例〉午後3時　30分
①⑤　③⓪
↑　↑
時　分
（24時間制）

シ゛コクセッテイ
15：30

8 ⊕ボタンを押す。



セッテイシマシタ

約2秒後

ホ゜ートセンタク

9 ハンドセットを置く。

液晶ディスプレイに「セッテイ シュウリョウ」と表示されたあと、設定した日付・時刻が表示されます。

4月10日　MON
PM　3：30

ワンポイント

- 操作を間違えたときは
  ハンドセットを置いて、最初からやり直してください。
- 入力が誤っていると、「プップップップッ」という音が鳴ります。もう一度正しく入力してください。

お知らせ

- 日付・時刻を設定するときは、INSメイトFT50のそばに電話機を置き、INSメイトFT50の液晶ディスプレイを見ながら行ってください。
- 時刻はあくまで目安としてご利用ください。誤差が生じたときは時刻を合わせ直してください。
- 設定の途中で、次に入力するダイヤルボタンは約20秒以内に押してください。20秒を超えると電話機から「プープー」音が聞こえ元の日付・時刻表示に戻ります。

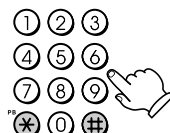
液晶ディスプレイのバックライトを設定するには

INSメイトFT50の液晶ディスプレイにはバックライトによって点灯表示する機能が搭載されており、お買い求め時は、発信中や着信中に点灯するよう（自動）に設定されています。見やすくするため、常時点灯に変更することができます。

常時点灯に設定する

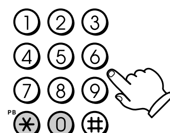
1 ハンドセットを取りあげる。

2 # * をダイヤルボタンで押す。



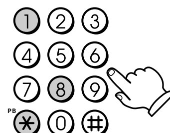
ﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｸ

3 ⓪ ⓪ * を押す。



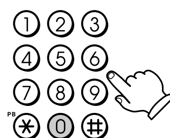
ｷﾉｳﾄｳﾛｸ

4 ① ⑧ * を押す。



ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ
2:ｼﾞﾄﾞｳ

5 ⓪を押す。



ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ
0:ﾃﾝﾄｳ

6 ㊯ボタンを押す。

ｾｯﾃｲｼﾏｼﾀ

約2秒後に「ポートセンタク」が表示されます。

7 ハンドセットを置く。

液晶ディスプレイに「セッテイ シュウリョウ」と表示されたあと、日付・時刻が表示されます。

ワンポイント

- **常時消灯に設定するには手順5で①を押してください。**
- **お買い求め時の設定に戻すには手順5で②を押してください。**

お知らせ

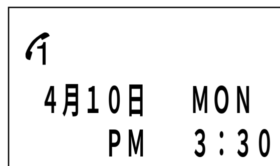
- **電池動作モードで動作中は、常時点灯または自動に設定していてもバックライトは点灯しません。**
- **設定の途中で、次に入力するダイヤルボタンは約20秒以内に押してください。20秒を超えると電話機から「プープー」音が聞こえ、設定は変更されません。**

電話をかけるには　（発信）

電話機は同時に2台まで使用することができます。ただし、パソコンなどで1つのBチャネルを使用しているときは、電話機は1台しか使用できません。

1 ハンドセットを取りあげる。

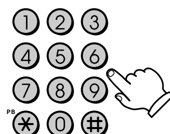
「ツー」という発信音が聞こえます。

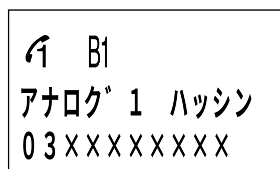


2 電話番号をダイヤルボタンで押す。

最後の番号を押したあと、約5秒後に発信します。

電話番号のあとに ⑭ ボタンを押すと、すぐに発信します。

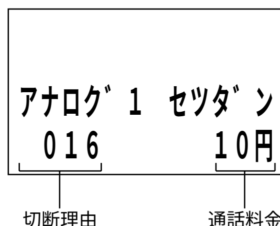




3 相手の方が出たら、お話しする。

4 お話しが終わったら、ハンドセットを置く。

INSメイトFT50の液晶ディスプレイに切断理由と通話料金が表示されます。(約20秒間)



ワンポイント

- サブアドレスを指定して電話をかけるには
  相手の方の電話番号(アドレス)を押したあとに(＊)ボタンを押し、サブアドレスの番号を押します。
  〈例〉0312345678(＊)12345
  ↑ アドレス　↑ サブアドレス
- 相手の方の声が聞き取りにくいときは(受話音量設定)
  受話音量を3段階で調節することができます。アナログポートごとに「受話音量」を変更してください。(☛P73、138)
- (#)ボタンを含む電話番号にかけるには(ダイヤル終了識別)
  (#)ボタンを押しても、発信せず電話番号の一部とするときは、「ダイヤル終了識別子」を「ダイヤル」または「##で発信」に設定してください。(☛P72、131)

お知らせ

- LCR内蔵の電話機からかけるとき、ダイヤルの途中で発信してしまう場合は、「ダイヤル桁間タイマー」を9秒以上に設定してください。
  (☛P71、132)
- 128 kbit/sマルチリンクPPP通信で2つのBチャネルを使用しているときに、電話機を使用するには、「マルチリンクPPP」で「リソースBODを選択する」に設定してください。(☛P145)
- 切断理由に表示される番号については、「切断理由一覧」をご参照ください。
  (☛P164)

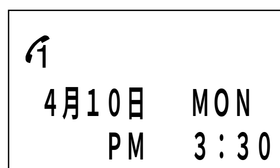
かけてきた相手にかけ直すには（着信履歴発信）

かけてきた相手の方の電話番号などの情報（着信履歴）は、最新のものから50件分記憶できます。着信履歴は、電話機からの操作でINSメイトFT50の液晶ディスプレイに表示することができます。また、表示させた電話番号に発信することもできます。
着信履歴は、設定ユーティリティを利用して、パソコンで表示することもできます。（☛P153）

アナログポートに接続した機器で着信履歴を表示する／着信履歴発信する

1 ハンドセットを取りあげる。

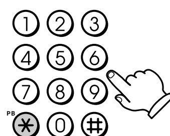
「ツー」という発信音が聞こえます。

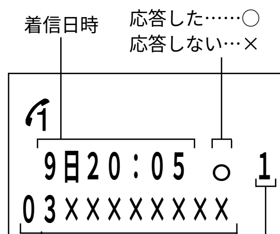


2 ㊍㊍をダイヤルボタンで押す。

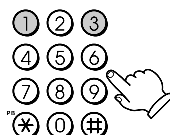
最後にかけてきた方の着信履歴が表示されます。
着信履歴がない場合は話中音が聞こえます。

13桁以上の電話番号のときは、12桁分が約5秒間表示されたあと、電話番号が順にスクロールされ全桁表示されます。



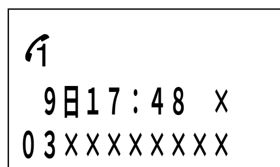


3 さらに前の着信履歴を表示させるときは、③を繰り返し押す。

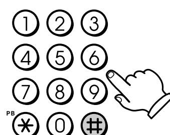


最大50件まで着信履歴が表示されます。

①を押すと、逆の順で表示されます。



4 表示されている番号に発信するときは、#ボタンを押す。



表示されている番号に発信します。

着信履歴を表示するのみで発信しないときは、ハンドセットを置きます。

5 相手の方が出たら、お話しする。

ワンポイント

- **PHS対応電話機で着信履歴を表示する／着信履歴発信するには**
  ①＊＊をダイヤルボタンで押す
  ②通話ボタンを押す
  最後にかけてきた方の着信履歴がINSメイトFT50のディスプレイに表示されます。以降の操作は、「アナログポートに接続した機器で着信履歴を表示する／着信履歴発信する」の手順3から行ってください。
  この機能を利用するにはPHS対応電話機のサブアドレスを「なし」に設定してください。ご利用になるPHS対応電話機により、この機能は利用できない場合があります。
- **全ての着信履歴を消去するには、手順3で＊#を押してください。**

お知らせ

- **着信履歴に電話番号が表示されるのは、発信者番号通知機能のあるINSネット64、携帯電話機、PHS対応電話機からの着信です。アナログ回線からの電話番号を記憶するためには、INSナンバー・ディスプレイを契約する必要があります。**

電話を受けるには　（着信）

外から電話がかかってくると、お買い求め時の状態では接続されているすべての電話機で同時に着信音が鳴ります。2台以上の電話機を接続しているとき、1台の電話機でお話し中に電話がかかってくると、他の電話機で着信音が鳴ります。

1 着信音が鳴る。

INSメイトFT50の液晶ディスプレイに相手の方の電話番号が表示されます。

```
ｶﾞｲｾﾝ ﾁｬｸｼﾝ
03XXXXXXXX
```

2 ハンドセットを取りあげて、相手の方とお話しする。

```
B1
4月12日  WED
     AM 10:10
```

3 お話しが終わったら、ハンドセットを置く。

ワンポイント

- 1台の電話機だけ着信音を鳴らすには
  着信音を鳴らしたい電話機のポート（アナログポート、無線ポート）を「優先ポート」に設定します。
  優先着信ポートを設定すると、優先着信ポートの電話機のみ着信音が鳴り、他の電話機では電話を受けられなくなります。ただし、優先着信ポートの電話機がお話し中のときは、他の電話機で着信音が鳴り電話を受けることができます。
- 特定の方からの着信を受けないようにするには（着信拒否機能）
  「着信拒否番号」の電話番号を登録しておくと、その番号から電話がかかってきても着信音は鳴らず着信を拒否することができます。
  （☛P69、P133）

お知らせ

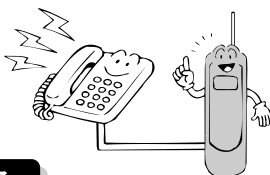
- 電話がかかってきたとき、電話番号が表示されるのは、発信者番号通知機能のあるINSネット64、携帯電話機、PHS対応電話機からの着信です。アナログ回線からの電話番号を表示させるためには、INSナンバー・ディスプレイを契約する必要があります。
- 相手の方からサブアドレスが通知された場合、液晶ディスプレイに発信電話番号（アドレス）と発サブアドレス（相手の方のサブアドレス）を表示します。このとき発信電話番号と発サブアドレスの区切り子として「＊」が挿入されます。
  〈例〉0312345678 ＊ 001
  ↑ 発信電話番号　↑ 区切り子　↑ 発サブアドレス

電話番号により着信音を変えるには（疑似なりわけ）

あらかじめ登録されている電話番号の相手の方から電話がかかってきたときは、通常の着信音と違う音で呼び出すようにすることができます。大切な相手などからの電話を、ハンドセットを取りあげる前にわかるようにすることができます。

疑似なりわけとは

相手の方が通知してきた発信者番号を、疑似なりわけ番号と照合し、登録されているときは、通常と異なる着信音を鳴らす機能です。
番号を通知してくるのは、発信者番号通知機能のあるINSネット64、携帯電話機、PHS対応電話機からの着信です。アナログ回線の相手の方からの電話番号も着信音を変えるようにするには、INSナンバー・ディスプレイを契約する必要があります。



疑似なりわけを設定する

疑似なりわけを使用するかしないかは、アナログポートごとに設定することができます。疑似なりわけ番号は、アナログポート共通です。次の手順は、電話機から設定する例です。
パソコンからの設定（☛P133）

相手の方の電話番号の登録

①ハンドセットを取りあげる
② ＃ ＊ をダイヤルボタンで押す
③ 0 0 ＊ 0 5 ＊ を押す
④【なりわけ番号】（ 0 ～ 9 ）を押す
　0～9まで10件登録できる
⑤ ＊ ボタンを押す
⑥相手の方の電話番号を登録する
⑦ ＃ ボタンを押す
⑧他の電話番号を登録するときは③から繰り返す
　電話番号の登録が終了したら⑨へ進む

疑似なりわけの使用設定

⑨【アナログポート】（ 0 1 または 0 2 ）を押す
　0 1 ：TEL1ポート
　0 2 ：TEL2ポート
⑩ ＊ 4 6 ＊ を押す
⑪ 1 ＃ を押す
⑫ハンドセットを置く

着信音について

疑似なりわけを利用したときの着信音の例を説明します。
お使いのアナログ通信機器により、実際は異なります。

● **通常の着信音**
「プルルルルルルップルルルルルルッ」

● **疑似なりわけで指定した方からの着信音**
「プルップルッ プルップルッ」

- **疑似なりわけを解除するには**
  電話機から解除するときは、次の操作で行います。
  ①ハンドセットを取りあげる
  ②㊥ ㊌を押す
  ③【アナログポート】（⓪ ①または⓪ ②）を押す
  ⓪ ①：TEL1ポート
  ⓪ ②：TEL2ポート
  ④＊ ④ ⑥ ＊を押す
  ⑤⓪ #を押す
  ⑥ハンドセットを置く
- **INSなりわけサービスの利用について**
  INSネット64のINSなりわけサービス（有料）を契約すると、登録されている相手の方の着信音を変えることができます。また、アナログ回線からの着信もなりわけの対象とすることができます。（☛P95）

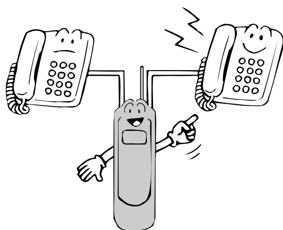
- **相手の方が発信者番号を通知しないでかけてきた場合は、登録された相手でも通常の着信音で鳴ります。**
- **疑似なりわけ番号は、必ず市外局番から登録してください。**
- **設定の途中で、次に入力するダイヤルボタンは約20秒以内に押してください。20秒を超えると電話機から「プープー」音が聞こえ元の日付・時刻表示に戻ります。**

電話番号により着信するポートを振り分けるには　（マイプライベート着信）

電話がかかってきたとき、相手の方の電話番号により特定の電話機だけを呼び出すようにすることができます。特定の相手からの着信を、受けたいポートの電話機で直接受けられるようにすることができます。

マイプライベート着信とは

相手の方が通知してきた発信者番号が、マイプライベート着信に登録されている番号のときは、設定されているポートの電話機だけ着信音が鳴るようにする機能です。
番号を通知してくるのは、発信者番号通知機能のあるINSネット64、携帯電話機、PHS対応電話機からの着信です。アナログ回線からの相手の電話番号も受け取れるようにするには、INSナンバー・ディスプレイを契約する必要があります。



マイプライベート着信を設定する

次の手順で設定してください。電話機から設定する例です。
パソコンからの設定（☛P132）

相手の方の電話番号の登録

①ハンドセットを取りあげる
②⌗ ⊛をダイヤルボタンで押す
③⓪ ⓪ ⊛ ⓪ ⑨ ⊛を押す
④【マイプライベート着信番号】（⓪～⑨）を押す
⑤⊛ボタンを押す
⑥相手の方の電話番号を登録する
⑦⌗ボタンを押す
⑧他の電話番号を登録するときは③から繰り返す
電話番号の登録が終了したら⑨へ進む

着信するポートの設定

⑨⓪ ⓪ ⊛ ① ⓪ ⊛を押す
⑩【マイプライベート着信番号】（⓪～⑨）を押す
⑪⊛ボタンを押す
⑫⓪～①（アナログポート1の着信指定）を押す（⓪：着信しない、①：着信する）

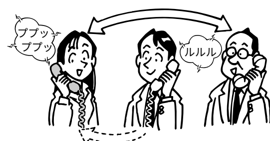
⑬ ＊ボタンを押す
⑭ 0～1（アナログポート2の着信指定）を押す（0：着信しない、1：着信する）
⑮ ＊ボタンを押す
⑯ 0～1（RS-232Cポートの着信指定）を押す（0：着信しない、1：着信する）
⑰ ＊ボタンを押す
⑱ 0～2（無線ポートの着信指定）を押す
（0：着信しない、1：一斉、2：個別）
0、1を押したときは㉑へ進む
⑲ ＊ボタンを押す
⑳無線ポートの内線番号を押す
㉑ ＃ボタンを押す

2 アナログ通信機器の利用

通話中にかかってきた電話を受けるには（疑似キャッチホン）

外の相手の方とお話し中に別の相手の方から電話がかかってきたとき、お話し中の方を保留にして、かけてきた方とお話しすることができます。お買い求め時は、疑似キャッチホンは「使用しない」に設定されています。疑似キャッチホンを利用するためには設定が必要です。

1 外の相手の方とお話し中に「ププッ、ププッ…」という音が聞こえる。




```
B1
ガ゛イセン チャクシン
03XXXXXXXX
```

2 外の相手の方に待っていただくように伝え、フッキングする。

かけてきた相手の方に切り替わります。

3 かけてきた相手の方とお話しする。

保留にした方には、保留音（ププププッププー）が聞こえます。

疑似キャッチホン中は、Bチャネルを2本使用するため、他のポート（アナログポート、RS-232Cポート、無線ポート）で、内線通話以外の通信はできません。

```
B1 B2
4月12日  WED
   PM  3:30
```

4 お話しする相手を切り替えるときは、フッキングする。

5 お話しが終わったら、ハンドセットを置く。

お話し中の方との電話は切れて着信音が鳴り、ハンドセットを取りあげると保留中の方とのお話しになります。

ワンポイント

- 疑似キャッチホンを設定するには
  疑似キャッチホンは、アナログポートおよび無線ポートごとに設定することができます。電話機から設定するときは、次の手順で行ってください。
  ①ハンドセットを取りあげる
  ②＃ ＊をダイヤルボタンで押す
  ③【疑似キャッチホンを設定するポート】（0 1～0 6）を押す

0 1：TEL1ポート	0 4：無線ポート2
0 2：TEL2ポート	0 5：無線ポート3
0 3：無線ポート1	0 6：無線ポート4

  ④＊ 4 7 ＊を押す
  ⑤2 ＃を押す
  ⑥ハンドセットを置く
  ※疑似キャッチホンを解除するときは、手順⑤で0 ＃を押してください。
- フッキングとは
  電話機のフックスイッチを押すことです。
  1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。

- フッキングが正常に動作しないときはアナログポートごとに「フッキングタイマ」を変更してください。（☛P73、P139）
- 1本のBチャネル使用で行うには（INSキャッチホン）
  INSネット64のフレックスホンを契約すると、1本のBチャネルの使用で、かかってきた電話に切り替えることができるため、キャッチホン中も他のポートを使用することができます。（☛P84）
- アナログ回線からの電話番号を確認するには（キャッチホン・ディスプレイ）
  INSナンバー・ディスプレイをご契約になると、お話し中にかかってきた相手の方がアナログ回線からでも、電話番号をディスプレイに表示することができます。（☛P97）

お知らせ

- 疑似キャッチホンのご利用には、INSネット64の付加サービス契約は必要ありません。ただし、キャッチホン・ディスプレイをご利用になるには、INSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。
- 電話機能を搭載したファクスやモデムを接続したアナログポートに疑似キャッチホンは設定しないでください。通信中に着信があるとエラーになります。

外からの電話を別の相手に転送するには（疑似着信転送）

外の相手からの電話を、あらかじめ登録しておいた別の相手に直接とりつぐことができます。ダイヤルインをご利用の場合は、契約者回線や追加番号ごとに転送先を各1件（合計3件）まで設定することができます。ｉ・ナンバーをご利用の場合は、ｉ・ナンバー情報ごとに転送先を各１件（合計3件）まで設定することができます。

疑似着信転送を設定する

次の手順で転送を設定してください。電話機から設定する例です。
パソコンからの設定（☛P135）

転送元の登録

① **ハンドセットを取りあげる**
② **#　* を押す**
③ **0　0　*　2　4　* を押す**
④ **【転送番号】（0～2）を押す**
契約者回線番号または追加番号ごとに、0～2まで3件の電話番号（または、i・ナンバー情報ごとに各1件（合計3件まで）の電話番号）を登録できる
⑤ *** ボタンを押す**
⑥ **転送元の電話番号（または、i・ナンバー情報番号）を登録する**
※i・ナンバー情報1への着信を着信転送するときは1、i・ナンバー情報2への着信を着信転送するときは2、i・ナンバー情報3への着信を着信転送するときは3を押す
⑦ **# ボタンを押す**
転送元の電話番号の登録が終了したら⑧へ進む

転送先の登録

⑧ **0　0　*　2　3　* を押す**
⑨ **【転送番号】（0～2）を押す**
④で押した番号と同じ番号を押す
⑩ *** ボタンを押す**
⑪ **転送先の電話番号を登録する**
⑫ **# ボタンを押す**
⑬ **ほかの番号を登録するときは③から繰り返す**
電話番号の登録が終了したら⑭へ進む
⑭ **ハンドセットを置く**

着信転送設定

① **ハンドセットを取りあげる**
② **#　* を押す**
③ **0　0　*　2　2　* を押す**
④ **2　# を押す**

⑤ ハンドセットを置く

疑似着信転送を解除するときは、手順④で ⓪ ⌗ を押してください。

ワンポイント

- **Bチャネルを使用しないで行うには（着信転送）**
  INSネット64のフレックスホン（有料）を契約すると、Bチャネルを1本も使用しないで転送することができます。

お知らせ

- **着信転送元の電話番号は、共通アドレスで指定した電話番号を登録してください。**
- **疑似着信転送のご利用には、INSネット64の付加サービス契約は必要ありません。**
- **本商品から転送先への通話料金は、利用のお客様のご負担となります。**
- **疑似着信転送では、発信者番号通知により、転送先には契約者回線番号が通知されます。**
- **疑似着信転送では、B1、B2チャネルの両方を使用するため、着信転送時は外線通話や通信ができません。内線でお話しすることはできます。**
- **疑似着信転送では、フレックスホンの着信転送のような、かけてきた方や転送先に転送を伝えるトーキは流れません。**
- **疑似着信転送は、ポートに電話機が接続されていなくても利用することができます。**
- **転送されるとき、本商品の電話機では着信音は鳴りません。**
- **着信拒否設定を行っているとき、着信拒否番号の相手からの着信は転送されません。**

本商品を中継機として利用するには（電話中継）

あらかじめ登録しておいた電話番号からの着信を、通知されてきたサブアドレス先に転送を行うことができます。

電話中継とは

相手の方が通知してきた発信者番号を電話中継番号と照合し、登録されているときは、通知されたサブアドレス先に転送する機能です。
電話中継を行うには、サブアドレス通知機能のあるINSネット64、PHS対応電話機からサブアドレスを付けて発信する必要があります。

電話中継を設定する

次の手順で転送を設定してください。電話機から設定する例です。
パソコンからの設定（☛P134）

相手の方の電話番号の登録

① ハンドセットを取りあげる
② ＃ ＊ をダイヤルボタンで押す
③ 0 0 ＊ 2 9 ＊ を押す
④【電話転送元番号】（0～9）を押す
⑤ ＊ ボタンを押す
⑥ 相手の方の電話番号を登録する
⑦ ＃ ボタンを押す
⑧ 他の電話番号を登録するときは③から繰り返す
電話番号の登録が終了したら⑨へ進む

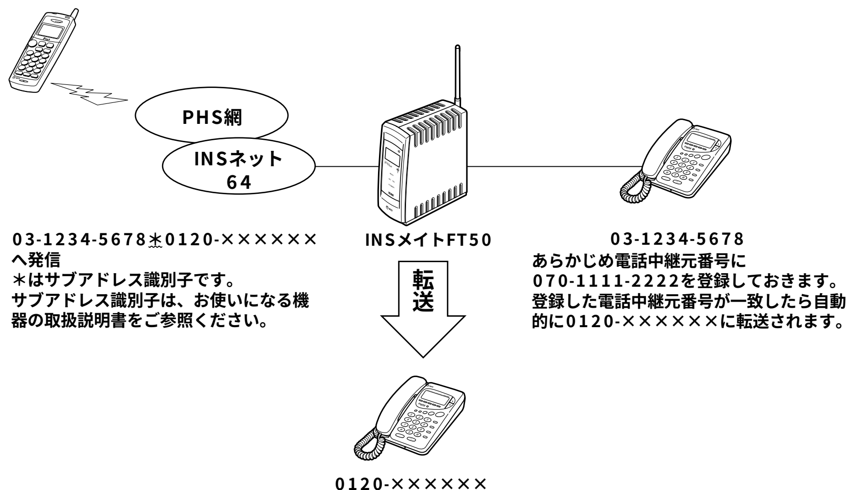
電話中継の設定

⑨ 0 0 ＊ 2 8 ＊ を押す
⑩ 1 ＃ を押す
⑪ ハンドセットを置く
電話中継を解除するときは、手順⑩で 0 ＃ を押してください。

電話をかける人の操作

本商品の電話番号のあとに電話中継先の電話番号をサブアドレスとして指定します。

■電話中継の例



お知らせ

- 電話中継のご利用には、INSネット64の付加サービス契約は必要ありません。
- 本商品から転送先への通話料金は、利用のお客様のご負担となります。
- 電話中継では、発信者番号通知により、転送先には契約者回線番号が通知されます。
- 電話中継では、B1、B2チャネルの両方を使用するため、電話中継時は外線通話や通信ができません。内線でお話しすることはできます。
- 電話中継は、ポートに電話機が接続されていなくても利用することができます。
- 中継されるとき、本商品の電話機では着信音は鳴りません。
- 着信拒否設定を行っているとき、着信拒否番号の相手からの着信は転送されません。
- 電話中継元アドレスの指定を行うと、その番号からのサブアドレス着信はできません。

内線でお話しするには　（内線通話）

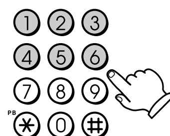
他のアナログポートまたは無線ポートに接続した電話機やPHS対応電話機を呼び出して、お話しすることができます。

内線でお話しする

1 ハンドセットを取りあげる。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 【呼び出す電話機の内線番号】（①～⑥）をダイヤルボタンで押す。

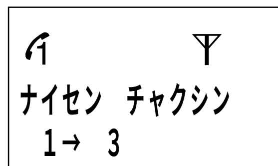


呼出音が聞こえます。

〈内線番号〉

①：TEL1ポート　④：無線ポート2
②：TEL2ポート　⑤：無線ポート3
③：無線ポート1　⑥：無線ポート4

内線番号のあとに ⊕ ボタンを押すと、すぐに発信します。



3 呼び出された方が応答したら、お話しする。

4 お話しが終わったら、ハンドセットを置く。

ワンポイント

- **内線通話中に電話がかかってきたら**
  お話しに重なって「プッ、プッ…」という音が聞こえます。電話に出る方がフッキング（☛P57）して外の相手の方とお話しください。このとき、内線通話は切れます。
- **⊕ ボタンを含む電話番号にかけるには（ダイヤル終了識別）**
  ⊕ ボタンを押しても、発信せず電話番号の一部とするときは、「ダイヤル終了識別子」を「ダイヤル」または「＃＃で発信」に設定してください。（☛P72、131）
- **内線呼出中に電話がかかってきたら**
  内線呼出が止まり、電話の着信音が聞こえます。

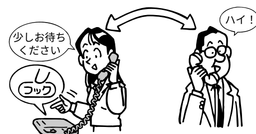
お知らせ

- **相手の方がお話し中のときは、話中音が聞こえます。**
- **INSネット64に接続していなくても、内線通話は利用できます。**
- **内線通話をできないように設定することもできます。（☛P71、132）**
- **LCR内蔵の電話機からかけるとき、ダイヤルの途中で発信してしまう場合は、「ダイヤル桁間タイマー」を9秒以上に設定してください。（☛P71、132）**

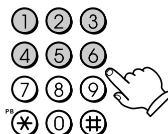
電話を内線で取りつぐには（内線転送）

外の相手の方との電話を、他のアナログポートまたは無線ポートに接続した電話機やPHS対応電話機に取りつぎます。

1 お話し中に相手の方に待っていただくように伝え、フッキングする。



2 【呼び出す電話機の内線番号】（①～⑥）をダイヤルボタンで押す。



呼出音が聞こえます。

〈内線番号〉

①：TEL1ポート
②：TEL2ポート
③：無線ポート1
④：無線ポート2
⑤：無線ポート3
⑥：無線ポート4

内線番号のあとに㊍ボタンを押すとすぐに発信します。

保留にした方には、保留音（プププププッップー）が聞こえます。

3 呼び出された方が応答したら、転送することを伝える。

4 ハンドセットを置く。

外の相手の方と、転送先の電話機でお話しできるようになります。

ワンポイント

- **フッキングとは（☛P57）**
- **呼び出しを中止して外の相手の方とのお話しに戻るにはフッキングします。**

お知らせ

- **転送先がお話し中のときは、話中音が聞こえます。フッキングして、外の相手の方とのお話しに戻ってください。**
- **転送先がお話し中のときや、内線転送操作の途中でハンドセットを置くと、着信音が鳴ります。ハンドセットを取りあげると、外の相手の方とのお話しに戻ります。**

電話機から設定を行うには

INSメイトFT50をパソコンに接続している場合は、設定ユーティリティを使用して必要な設定を行うことをお勧めします。パソコンを接続していない場合は、INSメイトFT50のそばに電話機を置いて、INSメイトFT50の液晶ディスプレイを見ながら設定を行ってください。

電話機からの設定操作

電話機からアナログポートや無線ポートの設定を行う手順は、以下の要領で行います。手順5〜7で押す機能番号と設定値は、設定する機能により異なります。機能番号対応表（☛P69〜74）で確認して押してください。

1 ハンドセットを取りあげる。

4月12日　WED
AM 10:10

2 ⊕ ⊛ をダイヤルボタンで押す。

ポ゜ートセンタク

3 【ポート番号】を押す。

⓪⓪：システム共通
⓪①：TEL1ポート
⓪②：TEL2ポート
⓪③：無線ポート1
⓪④：無線ポート2
⓪⑤：無線ポート3
⓪⑥：無線ポート4
⑦①：RS-232Cポート
⑦②：無線データポート1
⑦③：無線データポート2
⑦⑥：無線モデムポート1
⑦⑦：無線モデムポート2

キョウツウトウロク
00

00（システム共通）の場合

4 ㊍ **ボタンを押す。**

キノウトウロク

5 **【機能番号】を押す。**

機能番号は、機能番号対応表で確認してください。
（☛P69〜74）

表示された設定内容を確認し、変更しないときはハンドセットを置いてください。

6 ㊍ **ボタンを押す。**

7 **【設定値】を押す。**

設定できる設定値は、機能番号対応表で確認してください。（☛P69〜74）

8 ㊊ **ボタンを押す。**

設定が行われ、確認音が聞こえます。

セッテイシマシタ

約2秒後

ホ゜ートセンタク

（次ページへ続く）

電話機から設定を行うには

9 ハンドセットを置く。

液晶ディスプレイに「セッテイ　シュウリョウ」と表示されたあと、日付・時刻が表示されます。

- **続けて機能を設定するには**
  手順8のあと、手順3から繰り返し行ってください。
- **ダイヤルボタンを押し間違えたときは**
  無効なポート番号や機能番号などを入力すると、「プップップップッ」という音が鳴ります。もう一度正しく入力してください。

- **設定の途中で、次に入力するダイヤルボタンは約20秒以内に押してください。20秒を超えると電話機から「プープー」音が聞こえ、設定は変更されません。**

設定例1【接続機器設定（アナログポートの機器設定）】

1.接続機器の設定

① ハンドセットを取りあげる

② ＃ ＊ をダイヤルボタンで押す

③【ポート番号】（０ １ または ０ ２）を押す

０ １ ：TEL1ポート

０ ２ ：TEL2ポート

④ ＊ ３ １ ＊ を押す

⑤【使用する装置】（０～２）を押す

０ …使用しない

１ …電話機

２ …ファクス

⑥ ＃ ボタンを押す

⑦ 他のアナログポートを設定するときは手順③から繰り返す

⑧ ハンドセットを置く

設定例2【ｉ・ナンバーの設定】

i・ナンバーの設定は次の手順で行います

1.回線契約設定（システム共通の設定）

2.ｉ・ナンバーの登録

3.着信ポートの設定

1.回線契約設定（システム共通の設定）

① ハンドセットを取りあげる

② ＃ ＊ をダイヤルボタンで押す

③ ０ ０ （システム共通）を押す

④ ＊ ０ ４ ＊ を押す

⑤ ２ （ｉ・ナンバー）を押す

⑥ ＃ ボタンを押す

（次ページへ続く）

電話機から設定を行うには

2.ｉ・ナンバーの登録
⑦ ⓪ ⓪（システム共通）を押す
⑧ ＊ ⓪ ③ ＊ を押す
⑨ ①～③（ｉ・ナンバー）を押す
⑩ ＊ ボタンを押す
⑪ ｉ･ナンバーの電話番号を押す
モデムダイヤルインで使用する変換後の番号を登録するときは ＊ ボタンを押してから番号をダイヤルボタンで押す
⑫ ＃ ボタンを押す
⑬ ⑦から繰り返し、ｉ・ナンバー2、3を登録する
ｉ・ナンバーの登録が終了したら⑭へ進む

3.着信ポートの設定
⑭ ⓪ ⓪（システム共通）を押す
⑮ ＊ ⓪ ⑧（着信先ポート設定）を押す
⑯ ＊ボタンを押す
⑰ ①～③（設定するｉ･ナンバーの番号）を押す
⑱ ＊ボタンを押す
⑲ ⓪～①（アナログポート1の着信指定）を押す
⑳ ＊ボタンを押す
㉑ ⓪～①（アナログポート2の着信指定）を押す
㉒ ＊ボタンを押す
㉓ ⓪～①（RS-232Cポートの着信指定）を押す
㉔ ＊ボタンを押す
㉕ ⓪～②（無線ポートの着信指定）を押す（☛P70）
㉖ ＃ボタンを押す
㉕で②を押したときは＊ボタンを押す
㉕で⓪または①を押したときは㉙へ進む
㉗ 無線ポートの内線番号を押す
㉘ ＃ボタンを押す
㉙ ハンドセットを置く

機能番号対応表

電話機から設定できるアナログポートの機能には、以下のものがあります。

■ システム共通の設定

機能	機能番号	設定値…設定する内容
ダイヤルイン	02	0…契約者番号 1～7…ダイヤルイン番号
		↓ ＊を押すと 電話番号（最大32桁）※
		↓ ＊を押すと モデムダイヤルインで使用する変換後の番号（最大4桁）※
ｉ・ナンバー	03	1～3…ｉ・ナンバー情報番号
		↓ ＊を押すと 電話番号（最大32桁）※
		↓ ＊を押すと モデムダイヤルインで使用する変換後の番号（最大4桁）※
回線契約設定	04	0…契約なし（初期値） 1…ダイヤルイン 2…ｉ・ナンバー
疑似なりわけ番号	05	0～9…なりわけ番号
		↓ ＊を押すと 電話番号（最大32桁）※
グローバル着信	06	0…利用しない 1…利用する（初期値）
着信拒否番号	07	0～9…着信拒否番号
		↓ ＊を押すと 電話番号（最大32桁）※

※番号を押さずに ＃ ボタンを押すと、前回設定した番号が消去されます。＊ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。次の設定画面が表示されない場合は登録され終了します。

電話機から設定を行うには

機能	機能番号	設定値…設定する内容
着信先ポート設定	08	1～7（ダイヤルイン番号）または1～3（ｉ・ナンバー番号）または0（契約者回線番号） 設定する電話番号で
		↓ ⊛ を押すと アナログポート1（TEL1ポート）の着信指定 0…着信しない 1…着信する（初期値）
		↓ ⊛ を押すと アナログポート2（TEL2ポート）の着信指定 0…着信しない 1…着信する（初期値）
		↓ ⊛ を押すと RS-232Cポートの着信指定 0…着信しない 1…着信する
		↓ ⊛ を押すと 無線ポートの着信指定 0…着信しない 1…一斉着信 2…個別着信 2を選択したときは ⊛ を押し、個別着信先の内線番号を指定する。 着信指定した無線ポート番号がブリンクで表示されます。
マイプライベート着信番号	09	0～9…マイプライベート着信番号
		↓ ⊛ を押すと 電話番号（最大32桁）※
マイプライベート着信先ポート指定	10	0～9…マイプライベート着信番号
		↓ ⊛ を押すと アナログポート1（TEL1ポート）の着信指定 0…着信しない 1…着信する（初期値）
		↓ ⊛ を押すと アナログポート2（TEL2ポート）の着信指定 0…着信しない 1…着信する（初期値）

↓

※番号を押さずに # ボタンを押すと、前回設定した番号が消去されます。 ⊛ ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。次の設定画面が表示されない場合は登録され終了します。

機能	機能番号	設定値…設定する内容
マイプライベート着信先ポート指定	10	↓ ⊛を押すと RS-232Cポートの着信指定 0…着信しない 1…着信する（初期値） --- ↓ ⊛を押すと 無線ポートの着信指定 0…着信しない 1…一斉（初期値） 2…個別 --- ↓ 2の「個別」を選択したときは ⊛ボタンを押すと 無線ポートの内線番号
優先着信設定	11	0…優先しない（初期値） 1…TEL1ポート（内線番号：1） 2…TEL2ポート（内線番号：2） 3…無線ポート1（内線番号：3） 4…無線ポート2（内線番号：4） 5…無線ポート3（内線番号：5） 6…無線ポート4（内線番号：6）
データポート優先着信設定	12	1…RS-232Cポート（初期値） 2…無線データポート1 3…無線データポート2
内線通話指定	13	0…しない 1…する（初期値）
ダイヤル桁間タイマー	14	0…5秒（初期値） 1…9秒 2…11秒 3…13秒
日付・時刻設定	15	年（西暦下2桁）、月（2桁）、日（2桁） ※月、日が1桁の場合は、0も入力 (初期値：00年01月01日) --- ↓ ⊛ボタンを押すと 時（24時間制2桁）、分（2桁） 注）時、分が1桁の場合は、0も入力 (初期値：00時00分)
サブアドレス識別子	16	0…ダイヤル 1…サブアドレス識別子（初期値）

（次ページへ続く）

電話機から設定を行うには

機能	機能番号	設定値…設定する内容
ダイヤル終了識別子	17	0…ダイヤル 1…＃で発信（初期値） 2…＃＃で発信
バックライト	18	0…常時点灯 1…常時消灯 2…自動（初期値）
三者通話	20	0…使用しない（初期値） 1…使用する
通信中転送	21	0…使用しない（初期値） 1…使用する
着信転送設定	22	0…使用しない（初期値） 1…INS着信転送 2…疑似着信転送
着信転送先番号	23	0～2…転送先番号 ↓ ＊ボタンを押すと 電話番号（最大32桁）※
着信転送元番号	24	0～2…転送元番号 ↓ ＊ボタンを押すと 電話番号（最大32桁）※ または、i・ナンバー情報番号（1、2、3）
転送トーキサービス	25	0…転送トーキなし、転送元トーキなし 1…転送トーキあり、転送元トーキなし 2…転送トーキなし、転送元トーキあり 3…転送トーキあり、転送元トーキあり（初期値）
電話中継設定	28	0…使用しない（初期値） 1…使用する
電話中継元番号	29	0～9…電話中継元番号 ↓ ＊ボタンを押すと 電話番号（最大32桁）※
累積料金表示	60	0…合計 1…TEL1ポート 2…TEL2ポート 3…無線ポート1 4…無線ポート2 ＊…クリア 5…無線ポート3 6…無線ポート4 71…RS-232Cポート 72…無線データポート1 73…無線データポート2 76…無線モデムポート1 77…無線モデムポート2

※番号を押さずに＃ボタンを押すと、前回設定した番号が消去されます。＊ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。次の設定画面が表示されない場合は登録され終了します。

■ ポートごとの設定

機能	機能番号	設定値…設定する内容	設定可否		
			アナログポート	無線ポート	RS-232Cポート
接続機器	31	0…使用しない 1…電話機（初期値） 2…ファクス	○		
受話音量	32	0…小 1…中（初期値） 2…大	○		
リバースパルス	33	0…送出しない 1…送出する（初期値）	○		
フッキングタイマ	34	0…短い 1…普通（初期値） 2…長い	○		
ナンバー・ディスプレイ	35	0…しない（初期値） 1…する	○		
キャッチホン・ディスプレイ	36	0…しない（初期値） 1…する	○		
モデムダイヤルイン	37	0…しない（初期値） 1…する	○		
停電時発着信	38	0…しない （TEL2ポートの初期値） 1…する （TEL1ポートの初期値）	○		
サブアドレス無し着信	39	0…着信しない 1…着信する（初期値）	○		
発信者番号通知	40	0…発信者番号通知設定しない 1…発信者番号通知設定する 2…INSネット64申込内容に従う（初期値）	○	○	○
サブアドレス通知	41	0…しない（初期値） 1…する	○	○	○
サブアドレス	42	サブアドレス(最大19桁)※	○	○	○
INSなりわけ	45	0…しない（初期値） 1…する	○		

（次ページへ続く）

電話機から設定を行うには

機能	機能番号	設定値…設定する内容	設定可否		
			アナログポート	無線ポート	RS-232Cポート
疑似なりわけ	46	0…しない（初期値） 1…する	○		
キャッチホン	47	0…使用しない（初期値） 1…INSキャッチホン 2…疑似キャッチホン	○	○	
FAX無鳴動着信	48	0…しない（初期値） 1…する	○		
データ通信モード	50	0…PIAFS透過 1…PPP変換（初期値）		○	
HLC設定	51	0…設定しない（初期値） 1…使用する 2…使用するが着信判定はしない	○		
ナンバー・ディスプレイ発信サブアドレス指定	52	0…しない（初期値） 1…する	○		
キャッチホン・ディスプレイ発信サブアドレス指定	53	0…しない（初期値） 1…する	○		
i・ナンバー通知情報	54	1～3…ポート番号 （初期値：1、TEL2ポートのみ2）	○	○	○
ダイヤルイン通知情報	55	0…契約者回線番号 1～7…ダイヤルイン回線番号（初期値：0）	○	○	○

INSネット64サービスを利用した機能

INSネット64は、当社が提供するINSネット64サービスです。INSメイトFT50では、INSネット64のサービスを活用したさまざまな機能を利用できます。

INSネット64のサービスを利用したいろいろな機能

機　能	説　明	参照ページ
ダイヤルイン	ダイヤルイン番号をポートに割り当てることにより、電話機やファクス、パソコンを呼び分けることができます。当社との契約が必要です。	☛P76
i・ナンバー	着信時に通知されるi・ナンバー情報により、呼び出すポートを特定することができます。当社との契約が必要です。	☛P78
INSナンバー・ディスプレイ	アナログ回線からかかってきた場合でも、相手の方の電話番号を液晶ディスプレイに表示させることができます。当社との契約が必要です。	☛P80
発信者番号通知	電話をかけたときに、発信者番号を相手の方へ通知することができます。	☛P82
フレックスホン	Bチャネル1本の使用で、以下のサービスが利用できます。 • INSキャッチホン　• 通信中転送 • 三者通話　• 着信転送 当社との契約が必要です。	☛P83
料金情報通知	利用した通話料金、通信料金を表示することができます。	☛P90
サブアドレス利用	サブアドレスを利用して、特定のポートにだけ着信させることができます。	☛P92
モデムダイヤルイン	通知されるダイヤルイン番号や i・ナンバー情報を受信することにより、電話とファクスの呼び分けなどができます。当社とダイヤルインまたはi・ナンバーの契約が必要です。	☛P93
INSなりわけサービス	特定の相手の方からの着信を識別するサービスです。 当社との契約が必要です。	☛P95
INSボイスワープ／INSボイスワープセレクト	フレックスホンの着信転送にくらべて、高機能な着信転送サービスです。転送先の電話番号は当社の交換機に登録します。当社との契約が必要です。	☛P96
キャッチホン・ディスプレイ	外の相手の方とお話し中にかかってきた別の相手の方の電話番号を液晶ディスプレイに表示させることができます。当社との契約が必要です。	☛P97
INSマジックボックス	話中時録音、INSキャッチホン、不在時転送、不在時録音が利用できるサービスです。当社との契約が必要です。	☛P98

お知らせ

- **INSネット64サービスの詳細については、局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。**

複数の電話番号を使い分けるには（ダイヤルイン）

ダイヤルインをご契約になると、契約者回線番号に加えて複数の追加番号を持つことができます。この追加番号をポートに割り当てることにより、電話機やファクス、パソコンを呼び分けることができます。
契約者回線番号、追加番号の割り当ては、利用形態に合わせてINSメイトFT50で設定します。

必要なINSネット64の契約

●ダイヤルイン（有料）
ご利用になりたい電話番号の数より、1つ少ない数の追加番号をご契約ください。

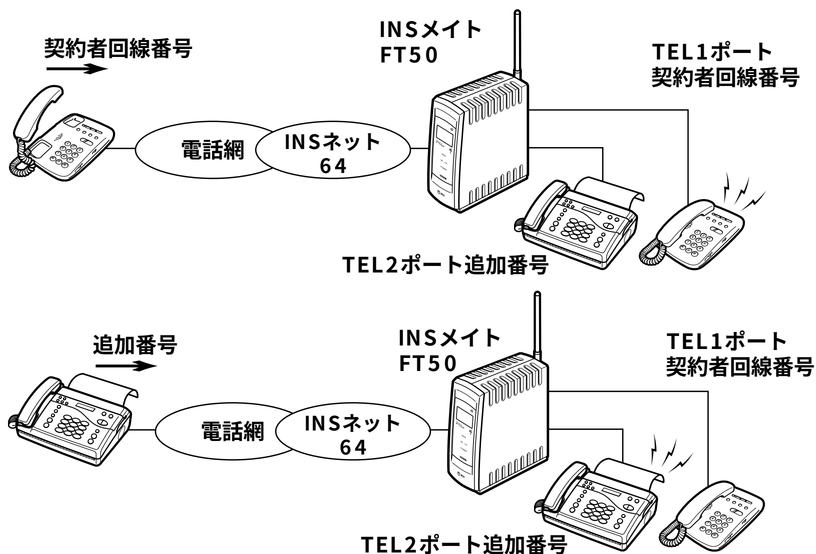
- **グローバル着信**
  関連サービスである「グローバル着信」を「利用する」でご契約ください。

INSメイトFT50で必要な設定

パソコンまたは電話機から以下の設定を行ってください。
パソコンからの設定（☛P128、129）、電話機からの設定（☛P69、70）

設定項目	設定する内容
回線契約設定	「ダイヤルイン」を選択する
グローバル着信	「利用する」を選択する
契約者回線番号	ご契約の契約者回線番号を設定する
ダイヤルイン番号	ご契約になったすべてのダイヤルイン番号を設定する ※電話機で設定する場合は「追加番号」でご契約になったすべてのダイヤルイン番号を設定します。
着信するポート	それぞれの番号に着信があったときに呼び出すポートを選択する ※電話機で設定する場合は、「着信先ポート設定」で呼び出すポートと番号を登録します。

■ 電話機とファクスを呼び分ける例



※この例では、追加番号を1つ以上契約する必要があります。

- 電話番号の設定を正しく行わないと、相手に正しい電話番号が伝わらない場合があります。

ｉ・ナンバー

ｉ・ナンバー（有料）をご契約になると、複数の電話番号を持つことができます。
相手の方が電話をかけてきたときに通知されるｉ・ナンバーごとに、着信するポートを特定することができます。

■ 必要なINSネット64の契約

●ｉ・ナンバー（有料）

ｉ・ナンバーをご利用になるには当社との契約が必要になります。
1つ目の電話番号（契約者回線番号）がｉ・ナンバー情報1、2つ目の電話番号（追加番号）がｉ・ナンバー情報2、3つ目の電話番号（追加番号）がｉ・ナンバー情報3となります。

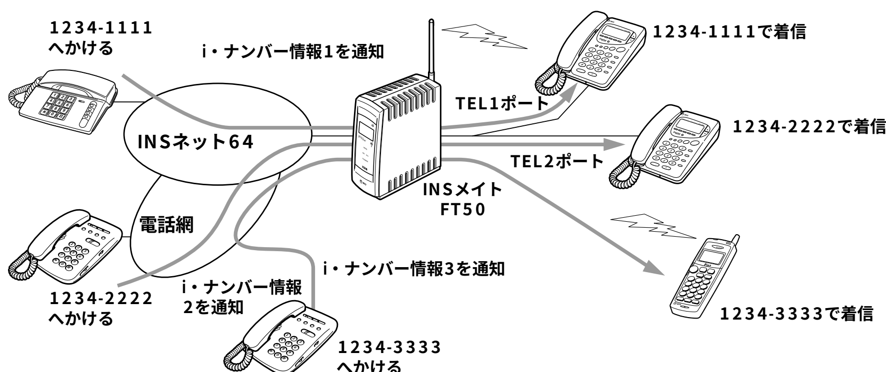
■ i・ナンバーを利用するには

●INSメイトFT50で必要な設定（パソコンからの設定　電話機の設定）

「回線契約設定」を「ｉ・ナンバー」に設定し、通知されたｉ・ナンバーごとにどのポートに着信するかについて設定する必要があります。

● 3つの電話機で呼び分ける例（設定ユーティリティを利用する場合）

1234-1111（契約者回線番号）での着信はTEL1ポートに、1234-2222（追加番号）での着信はTEL2ポートに、1234-3333（追加番号）での着信はPHS対応電話機にする場合



回線契約と設定	i・ナンバー情報1	i・ナンバー情報2	i・ナンバー情報3
回線の契約	ｉ・ナンバーを契約する		
	1234-1111（契約者回線番号）が割り当てられる	1234-2222（追加番号）が割り当てられる	1234-3333（追加番号）が割り当てられる
回線契約設定	「ｉ・ナンバー」を選択する		
ｉ・ナンバー	1234-1111を設定する	1234-2222を設定する	1234-3333を設定する
着信するポート	ポートごとに着信するしないを設定する ※電話機で設定する場合は「着信先ポート設定」で呼び出すポートと番号を登録します。		

3 ＩＮＳネット64サービスの利用

お知らせ

- i・ナンバーを「使用する」に設定した場合は、初期値として、契約者回線番号に電話がかかってくるとTEL1ポートに着信し、追加番号に電話がかかってくるとTEL2ポートに着信するようになっています。
  初期値以外の着信方法を希望される場合は設定が必要になります。(☛P69、130)
- i・ナンバーについて、詳しくは局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

INSナンバー・ディスプレイを利用するには

INSナンバー・ディスプレイとは、INSネット64サービスを利用している方にアナログ回線から電話がかかってきたときでも、相手の方の電話番号がディスプレイに表示されるサービスです。このサービスを利用するためには、当社との契約が必要です。

電話がかかってきたとき

電話に出る前に、かけてきた相手の方の電話番号が表示されます。相手の方の電話番号を確認してから電話に出ることができます。

■ 電話機やファクスに表示させるには

アナログポートにナンバー・ディスプレイ対応またはキャッチホン・ディスプレイ対応の電話機やファクスを接続すると、電話機やファクスのディスプレイにも電話番号を表示させることができます。INSナンバー・ディスプレイを利用できるポートは、アナログポートのみです。

●INSメイトFT50で必要な設定

電話番号を表示させる機器を接続するアナログポートごとに、パソコンまたは電話機から以下の設定を行ってください。

パソコンからの設定（☛P137）、電話機からの設定（☛P73）

設定項目	設定する内容
接続機器	「電話機」または「FAXまたはモデム」を選択する
ナンバー・ディスプレイ	「使用する」を選択する

■ INSメイトFT50の液晶ディスプレイにはこのように表示されます

相手の方の電話番号

■ 増設登録したPHS対応電話機では

お使いの機種により表示は異なります。添付の対応表を参照してください。

■ 相手の方の電話番号が表示されない場合

表　示	表示の意味
ｶﾞｲｾﾝ ﾁｬｸｼﾝ ﾋﾂｳﾁ	かけてきた相手の方が番号を表示しない操作をした、または、表示しない契約になっている
ｶﾞｲｾﾝ ﾁｬｸｼﾝ ｺｳｼｭｳﾃﾞﾝﾜ	相手の方が公衆電話からかけている
ｶﾞｲｾﾝ ﾁｬｸｼﾝ ﾋｮｳｼﾞｹﾝｶﾞｲ	相手の方がナンバー・ディスプレイを提供していない地域からかけている、または、サービスが競合しているために電話番号を通知できないなど

サービスを利用した便利な機能

INSナンバー・ディスプレイを契約すると、アナログ回線からの着信に対しても、相手の方の発信者番号を利用する次の機能を利用することができます。

- **着信履歴発信（☛P48）**
- **疑似なりわけ（☛P52）**
- **着信拒否機能（☛P51）**
- **疑似キャッチホン（☛P56）**
- **キャッチホン・ディスプレイ（☛P97）**
- **マイプライベート着信（☛P54）**
- **電話中継（☛P60）**

お知らせ

- **INSナンバー・ディスプレイを契約していない場合でも、かけてきた相手の方がINSネット64、携帯電話機、PHS対応電話機を利用して発信者番号を通知してきた場合は、電話番号が表示されます。**
- **ナンバー・ディスプレイ対応機器の機種によっては、電話番号が正しく表示されない場合があります。**
- **相手の方からサブアドレスが通知された場合、INSメイトFT50は発信電話番号（アドレス）と発サブアドレス（相手の方のサブアドレス）をアナログポートに接続したアナログ通信機器に通知します。このとき発信電話番号と発サブアドレスの区切り子として「⁎」が挿入されます。**
  〈例〉0312345678 ⁎ 001
  ↑ 発信電話番号　↑ 区切り子　↑ 発サブアドレス
- **1つのアナログポートに複数のアナログ通信機器を接続すると、正常に電話番号が表示されません。**
- **PHS対応電話機、携帯電話機からの着信は、電話番号が表示されないこともあります。**

発信者番号通知

発信者番号（契約者回線番号およびサブアドレス）を相手の方に通知する機能です。

■ ご自分の電話番号の通知のされかた

発信者番号を通知するかしないかは、INSネット64の契約の内容、ダイヤル操作、INSメイトFT50の設定の組み合わせで決まります。

●INSネット64の発信者番号通知サービスの契約種別

「通常通知」「通常非通知」があります。

●通知する／通知しないを指定するダイヤル操作

電話番号の前に付加して「184（通知しない）」「186（通知する）」を指定します。

●INSメイトFT50の設定

ポートごとに「発信者番号通知」で「発信者番号通知設定する」「発信者番号通知設定しない」「INSネット64申込内容に従う」を設定することができます。

電話をかけるときの操作は以下のようになります。

契約	INSメイトFT50の設定	ダイヤル操作 相手番号（通常の操作）	184+相手番号	186+相手番号
通常通知	発信者番号通知設定する	○	×	○
	発信者番号通知設定しない	×	×	○
	INSネット64申込内容に従う	○	×	○
通常非通知	発信者番号通知設定する	○	×	○
	発信者番号通知設定しない	×	×	○
	INSネット64申込内容に従う	×	×	○

○：通知する　×：通知しない

お知らせ

- **INSメイトFT50で発信者番号通知を設定するには**
  （パソコンからの設定☛P137、142、150、電話機からの設定☛P73）
- **発信者番号通知を「通知しない」または「通知する」に設定し、ｉ・ナンバーを利用する場合は、必ずｉ・ナンバーの電話番号を正しく設定してください。**
- **ｉ・ナンバー使用時は、発信者番号通知を正しく設定しないと正しく動作しません。**
  （パソコンからの設定☛P130、電話機からの設定☛P69）

フレックスホンを利用するには

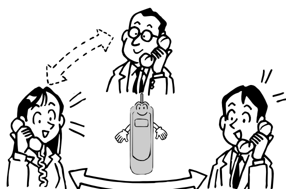
INSメイトFT50は、INSネット64サービスの付加サービスであるフレックスホンを利用することができます。

フレックスホンとは

フレックスホンをご利用になるときは、当社との契約が必要です。詳しくは、局番なしの116番または当社の営業所等にお問い合わせください。
フレックスホンには、以下のサービスがあります。

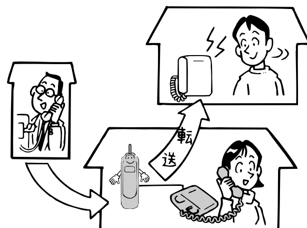
お話し中に別の相手の方の電話を受ける（INSキャッチホン）

外の相手の方とのお話し中に、別の相手の方から電話がかかってきたとき、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方とお話しすることができます。疑似キャッチホンと異なり、キャッチホン中も他のポートを使用することができます。（☛P84）



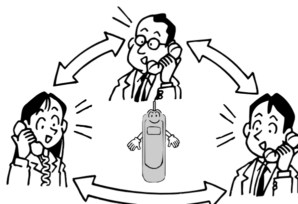
お話し中に外の相手の方に転送する（通信中転送）

外の相手の方とお話し中に、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方に電話をかけて取りつぐことができます。（☛P84）



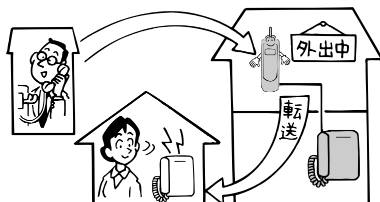
3人でお話しする（三者通話）

外の相手の方とお話し中に、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方に電話をかけ、3人でお話しすることができます。三者通話中も他のポートを使用することができます。（☛P86）



外からの電話を別の相手の方に転送する（着信転送）

外の相手の方からの電話を、あらかじめ登録した相手の方に直接取りつぐことができます。着信転送中も各ポートを使用することができます。（☛P88）



フレックスホンを利用するには

通話中に別の相手の方の電話を受ける（INSキャッチホン）

INSキャッチホンをご契約になったときは、パソコンまたは電話機からの設定操作で、アナログポートおよび無線ポートごとに設定してください。
パソコンからの設定（☛P137、150）、電話機からの設定（☛P74）
INSキャッチホンの操作は、疑似キャッチホンと同じです。（☛P56）

お知らせ

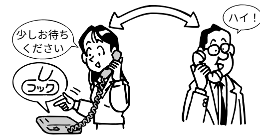
- 電話機能を搭載したファクスやモデムを接続したアナログポートにINSキャッチホンは設定しないでください。通信中に着信があるとエラーになります。

通話中の電話を転送する（通信中転送）

通信中転送をご契約になったときは、パソコンまたは電話機からの設定操作で、「通信中転送」を「使用する」に設定してください。
パソコンからの設定（☛P131）、電話機からの設定（☛P72）

1 お話し中に相手の方に待っていただくように伝え、フッキングする。

「プププ…」という音が聞こえます。



2 別の相手の方の電話番号を押す。

保留にした方には、保留音が聞こえます。

3 相手の方が出たら転送することを伝える。

4 フッキングする。

「プププ…」という音が聞こえます。

5 電話を切る。

外の相手の方と、転送先の電話機でお話しできるようになります。

ワンポイント

- 転送先がお話し中のときは
  フッキングすると、前の相手の方とのお話しに戻ることができます。
- フッキングとは（☛P57）
- 転送先の方が応答する前に転送するには（応答前転送）
  手順2で転送先に電話をかけ、相手の方が電話に出る前に、電話を切ることにより転送することができます。
  「三者通話」を「使用する」に設定した場合（☛P86）は応答前転送は利用できません。

お知らせ

- アナログポートおよび無線ポートに接続した電話機で2台同時にINSキャッチホンは利用できません。

フレックスホンを利用するには

3人でお話しする（三者通話）

三者通話をご契約になったときは、パソコンまたは電話機からの設定操作で、「三者通話」を「使用する」に設定してください。
パソコンからの設定（☛P131）、電話機からの設定（☛P72）
外の相手の方とお話し中に、お話し中の相手の方を保留にして、別の相手の方に電話をかけ、3人でお話しすることができます。三者通話には、相手を切り替えながらお話しする切替モードと、3人同時にお話しするミキシングモードがあります。

1 お話し中に相手の方に待っていただくように伝え、フッキングする。

2 「プププ…」という音が聞こえている間に別の相手の方の電話番号を押す。

保留にした方には、保留音が聞こえます。

3 相手の方が出たらお話しする。（切替モード）

4 お話しする相手を切り替えるときは、フッキングする。

「ププププ…」という音のあとにお話しできるようになります。

また、続けて2回（約3秒以内）フッキングするとミキシングモードになり、3人でお話しできます。ミキシングモードでお話し中に、続けて2回（約3秒以内）フッキングすると切替モードに戻ります。

5 お話しが終わったら、ハンドセットを置く。

お話し中の方との電話は切れます。保留の方がいる場合は、着信音が鳴り、ハンドセットを取りあげるとお話しできます。

3 INSネット64サービスの利用

ワンポイント

- **フッキングとは（☛P57）**

お知らせ

- **アナログポートおよび無線ポートに接続した電話機で2台同時に三者通話は利用できません。**

フレックスホンを利用するには

外からの電話を別の相手の方に転送する（着信転送）

外の相手の方からの電話をあらかじめ登録しておいた別の相手の方に直接取りつぐことができます。ダイヤルインをご利用の場合は、契約者回線番号や追加番号ごとに転送先を3件まで設定することができます。

次の手順で転送先を設定してください。電話機から設定する例です。
パソコンからの設定（☛P135）

転送元の登録

① **ハンドセットを取りあげる**

② **#　＊ を押す**

③ **0　0　＊　2　4　＊ を押す**

④ **【転送番号】（0 〜 2 ）を押す**

契約者回線番号または追加番号ごとに、0〜2まで3件の電話番号（または、i・ナンバー情報ごとに各1件（合計3件まで）の電話番号）を登録できる

⑤ **＊ ボタンを押す**

⑥ **転送元の電話番号（または、i・ナンバー情報番号）を登録する**

※i・ナンバー情報1への着信を着信転送するときは1、i・ナンバー情報2への着信を着信転送するときは2、i・ナンバー情報3への着信を着信転送するときは3を押す

⑦ **# ボタンを押す**

転送元の電話番号の登録が終了したら⑧へ進む

転送先の登録

⑧ **0　0　＊　2　3　＊ を押す**

⑨ **【転送番号】（0 〜 2 ）を押す**

④で押した番号と同じ番号を押す

⑩ **＊ ボタンを押す**

⑪ **転送先の電話番号を登録する**

⑫ **# ボタンを押す**

⑬ **ほかの番号を登録するときは③から繰り返す**

電話番号の登録が終了したら⑭へ進む

⑭ **ハンドセットを置く**

着信転送設定

① **ハンドセットを取りあげる**

② **#　＊ を押す**

③ **0　0　＊　2　2　＊ を押す**

④ **1　# を押す**

⑤ **ハンドセットを置く**

※着信転送を解除するときは、手順4で ⓪ ㊯ を押してください。

- **着信転送元の電話番号は、共通アドレスで指定した電話番号を登録してください。**
- **転送トーキを利用するには**
  着信転送では、電話をかけてきた方と転送先の方に転送であることを音声ガイダンスで知らせる転送トーキを利用することができます。
  ・転送元トーキ（転送先への音声ガイダンス）
  「電話が転送されます。」
  ・転送トーキ（電話をかけてきた方への音声ガイダンス）
  「ただいま電話を転送しますので、そのままお待ちください。」
  転送トーキの利用には、INSメイトFT50での設定が必要です。
  （パソコンからの設定☛P135、電話機からの設定☛P72）
  音声ガイダンスは、実際と異なる場合があります。

通話／通信料金の累積を表示するには

INSネット64から送られてきた通話／通信料金情報をもとに、電話機からの操作でINSメイトFT50の液晶ディスプレイに累積料金を表示することができます。
累積料金は、設定ユーティリティを利用して、パソコンで表示することもできます。（☛P150）

累積料金を表示する

1 ハンドセットを取りあげる。

2 ㊯ ㊀をダイヤルボタンで押す。

ポ゜ートセンタク

3 ⓪ ⓪ ㊀を押す。

キノウトウロク

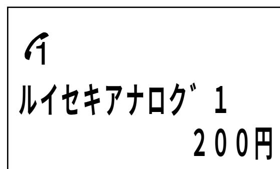
4 ⑥ ⓪ ㊀を押す。

ルイセキリョウキン

5 【累積料金を表示するポート番号】(⓪～⑥、⑦①～⑦③、⑦⑥～⑦⑦)を押す。

⓪：累積合計
①：TEL1ポート
②：TEL2ポート
③：無線ポート1
④：無線ポート2
⑤：無線ポート3
⑥：無線ポート4
⑦①：RS-232Cポート
⑦②：無線データポート1
⑦③：無線データポート2
⑦⑥：無線モデムポート1
⑦⑦：無線モデムポート2

続けてポート番号を押すと、他のポート番号の累積料金が表示されます。



1（TEL1ポート）の場合

6 ⊕ボタンを押す。

7 ハンドセットを置く。

ワンポイント

- 全ポートの累積の合計を表示するには手順5で⓪を押します。
- 通話／通信料金の累積をクリアするには手順5で㊀ボタンを押します。

3 INSネット64サービスの利用

サブアドレスで特定の電話機やパソコンを呼び出すには

INSネット64サービスでは、1回線に複数の電話機やパソコンを接続しているとき、サブアドレスを指定して特定の電話機やパソコンを直接呼び出すことができます。
外から電話をかけるときに、電話番号（契約者回線番号）のあとにサブアドレスをダイヤルすると、そのサブアドレスが設定されているポートの電話機またはパソコンだけを呼び出すことができます。サブアドレスは、呼び出す方が指定できる場合にのみ利用できます。

お買い求め時は、各ポートのサブアドレスには初期値が入っています。

アナログポート1 ……………1
アナログポート2 ……………2
無線ポート1 …………………3
無線ポート2 …………………4
無線ポート3 …………………5
無線ポート4 …………………6
RS-232Cポート ……………71
無線データポート1 …………72
無線データポート2 …………73
無線モデムポート1 …………76
無線モデムポート2 …………77

パソコンからの設定（☛P139）、電話機からの設定（☛P73）

ワンポイント

- 「サブアドレス無し着信」で「着信する」に設定するとサブアドレスを設定していても、アナログ回線からの着信を受けることができます。
  （パソコンからの設定☛P140、電話機からの設定☛P73）

お知らせ

- この電話機からサブアドレスを指定して電話をかけるには（☛P47）

その他のサービスを利用するには

INSメイトFT50に接続した電話機で以下のINSネット64サービスの便利な機能を利用することができます。

モデムダイヤルイン

ダイヤルイン番号またはｉ・ナンバーの電話番号での着信を、モデム信号で知らせるサービスです。これにより、モデムダイヤルイン対応のファクス付き電話機でファクス着信と電話着信を呼び分けることができます。モデムダイヤルインを利用できるポートは、アナログポートのみです。

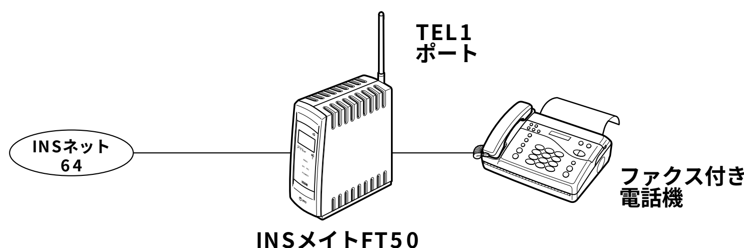
■ モデムダイヤルインを利用するには

●INSメイトFT50で必要な設定

パソコンまたは電話機から以下の設定を行ってください。

パソコンからの設定 （☛P128～130、139）、電話機からの設定 （☛P69、73）

設定項目	設定する内容
回線契約設定	「ダイヤルイン」または「ｉ・ナンバー」を選択する
ダイヤルイン番号 またはｉ・ナンバー	ダイヤルイン番号とｉ・ナンバー、モデムダイヤルインで使用する変換後の番号を設定する ※電話機で設定する場合は「追加番号」または「ｉ・ナンバー」でダイヤルイン番号またはｉ・ナンバー情報を設定します。
モデムダイヤルイン設定	「使用する」を選択する



（次ページへ続く）

その他のサービスを利用するには

●**モデムダイヤルイン対応ファクス付き電話機の設定例**

- ダイヤルインを利用した場合

着信番号	変換後の番号	モデムダイヤルイン対応ファクス付き電話機の設定
①03-XXXX-XX11	設定しない	XXXX-XX11で電話機を呼び出す
②03-XXXX-XX22	設定しない	XXXX-XX22でファクスを呼び出す

モデムダイヤルイン対応のファクス付き電話機に登録する電話番号は、その通信機器の取扱説明書によらず、市内局番から登録してください。
また変換後の番号登録時、ファクス付き電話機に登録する電話番号は変換後の番号を設定してください。

- ｉ・ナンバーを利用した場合
ｉ・ナンバーの設定により、設定した電話番号に対応するアナログポートを呼び出します。

ｉ・ナンバー	変換後の番号	モデムダイヤルイン対応ファクス付き電話機の設定
①03-XXXX-XX11	設定しない	03-XXXX-XX11で電話機を呼び出す
②03-XXXX-XX22	設定しない	03-XXXX-XX22でファクスを呼び出す

モデムダイヤルイン対応のファクス付き電話機に登録する電話番号は、ｉ・ナンバー情報に登録した電話番号を設定してください。また変換後の番号登録時、ファクス付き電話機に登録する電話番号は変換後の番号を設定してください。

お知らせ

- **モデムダイヤルインを利用するには、当社とダイヤルインまたはｉ・ナンバーの契約が必要です。**
- **アナログ通信機器へのモデムダイヤルイン番号登録の操作方法は、ご利用になるアナログ通信機器の取扱説明書などを参照してください。**
なお、ｉ・ナンバーを利用の場合、ご利用になるアナログ通信機器へのモデムダイヤルイン番号の登録は、その通信機器の取扱説明書にかかわらず、ｉ・ナンバー情報（☛P69、130）に登録した電話番号を登録してください。

INSなりわけサービス

INSなりわけサービスは、あらかじめ相手の方の電話番号を登録して、登録した相手の方からの着信音を通常と異なる音で鳴らすことができるサービスです。

■ INSなりわけサービスを利用するには

●INSメイトFT50で必要な設定

パソコンまたは電話機から以下の設定を行ってください。
パソコンからの設定（☛P133、140）、電話機からの設定（☛P69、73）

設定項目	設定する内容
INSなりわけ	「使用する」を選択する

お知らせ

- 「INSなりわけ設定」と「疑似なりわけ設定」をどちらも「使用する」に設定しているときは、両方で登録した件数分のなりわけ機能をご利用になれます。
- 電話機の機種や設定により、着信音が鳴らないことがあります。
- INSなりわけサービスは契約者回線番号、追加番号ごとに契約します。
- INSなりわけサービスの詳細については、ご契約時に局番なしの116番または当社の営業所等でご確認ください。
- アナログポートに接続したアナログ通信機器のみ、着信音が通常と異なる音で鳴ります。

その他のサービスを利用するには

INSボイスワープ／INSボイスワープセレクト

INSボイスワープは、リモコン操作で転送の開始や転送先の変更などができる転送サービスです。INSメイトFT50に接続した電話機からは、INSボイスワープをご利用になるとき、以下の項目について利用者の方が直接設定することができます。INSボイスワープ／INSボイスワープセレクトをご利用になるには、当社との契約が必要です。

- **転送サービスの開始（転送方法の選択）／停止**
- **転送先電話番号の登録**
- **転送先リストの選択（転送先の選択）**
- **無応答時の転送の起動時間（転送待ち時間）の設定**
- **リモートコントロール機能の設定（暗証番号の設定）**
- **転送トーキの設定**
- **転送元電話番号通知の設定**

■ INSボイスワープ／INSボイスワープセレクトを利用するには

INSボイスワープ／INSボイスワープセレクトをご利用になるには、当社との契約が必要です。

●INSメイトFT50で必要な設定

INSボイスワープをご利用になるときは、あらかじめ次の①～②の設定を行っておく必要があります。

①発信者番号通知の設定

アナログポートおよび無線ポートの発信者番号通知を設定してください。

②INSボイスワープ起動用契約電話番号の設定

INSボイスワープおよびINSボイスワープセレクトを行う電話番号を設定ユーティリティの共通アドレス設定で登録し、発信するポートの指定を行ってください。

お知らせ

- **INSボイスワープ／INSボイスワープセレクトは、契約者回線番号、追加番号ごとに契約します。**
- **INSボイスワープ／INSボイスワープセレクトの詳細については、ご契約時に局番なしの116番または当社の営業所等でご確認ください。**

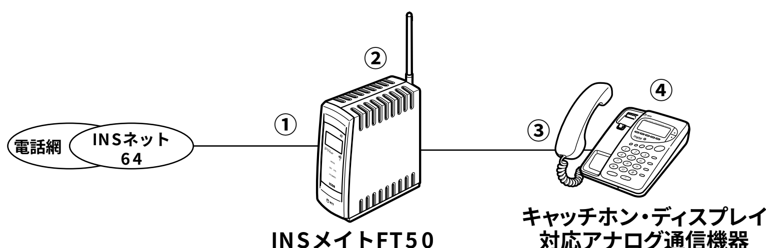
キャッチホン・ディスプレイ

INSメイトFT50のアナログポートはキャッチホン・ディスプレイに対応しています。キャッチホン・ディスプレイは、外の相手の方とお話し中に別の相手の方から電話がかかってきたとき、電話をかけてきた方の電話番号（発信電話番号）や電話番号を通知できない理由をアナログポートに接続したアナログ通信機器に通知し、アナログ通信機器のディスプレイに表示するサービスです。この機能をご利用になるためには、以下の契約と設定が必要です。
パソコンからの設定（☛P137）、電話機からの設定（☛P73）

	疑似キャッチホン（☛P56）を利用する場合	INSキャッチホン（☛P84）を利用する場合
回線の契約	INSナンバー・ディスプレイ※を契約する（有料）	• INSナンバー・ディスプレイ※を契約する（有料） • INSキャッチホンを契約する（有料）
接続機器	「電話機」または「ファクス」	
キャッチホン	「疑似キャッチホン」を選択する	「INSキャッチホン」を選択する
キャッチホン・ディスプレイ	「使用する」を選択する	

※ 相手の方がINSネット64から発信電話番号を通知して電話をかけてきた場合は、INSナンバー・ディスプレイが未契約でも発信電話番号をアナログ通信機器に通知することができます。

■ アナログポートに接続した通話中のアナログ通信機器に、電話をかけてきた別の方の発信電話番号を表示する仕組みは次のとおりです。



① 通話中に発信電話番号が付加された着信があります（キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器では、「プップップッ」という着信音が聞こえます）。
② INSメイトFT50は、受信した発信電話番号をモデム信号に変換します。
③「キャッチホン・ディスプレイ」を「する」に設定したアナログポートにモデム信号を送出します（キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器では、「ピッ」という割込音が聞こえます）。
④ キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器が、モデム信号で受信した発信電話番号を表示します。

その他のサービスを利用するには

お知らせ

- キャッチホン・ディスプレイにおいて相手の方が電話番号を通知しない契約を結んでいる、または電話番号を通知しない操作をした場合などは、INSメイトFT50に接続したアナログ通信機器に発信電話番号は通知されません。
  このとき、電話番号を通知できない理由を、INSメイトFT50に接続したアナログ通信機器に通知します。ただし、INSナンバー・ディスプレイの契約において、非通知理由「有／無」の契約を「有」にする必要があります。
  電話番号を通知できない主な理由については「相手の方の電話番号が表示されない場合」を参照してください。（☛P81）
  表示のされ方は、アナログ通信機器によって異なります。
- アナログ通信機器によっては、発信電話番号などが正しく表示されないことがあります。
- キャッチホン・ディスプレイによる着信時には、「プップッ、プップッ…」という着信音に加えて「ピッ」という割込音が聞こえます。この割込音とお話し中の声が重なりますと電話番号などの表示ができないことがあります。また、約2秒程度通話が途切れます。
- 相手の方からサブアドレスが通知された場合、INSメイトFT50は発信電話番号と発サブアドレス（相手の方のサブアドレス）をアナログ通信機器に通知するように設定することができます。このとき、発信電話番号と発サブアドレスの区切り子として「＊」を挿入します。
  ただし、本商品に接続したアナログ通信機器にサブアドレス受信機能がない場合は、設定ユーティリティまたは電話機からの設定で「キャッチホン・ディスプレイ発信サブアドレス」を「通知しない」に設定してください。

INSマジックボックス

INSマジックボックスは、話中時録音、INSキャッチホン、不在時転送、不在時録音が利用できるサービスです。
「ダイヤルイン」や「ｉ・ナンバー」のご契約をされている場合に、このサービスをご利用になるときは、INSマジックボックスをご利用になる電話番号を、設定ユーティリティの共通アドレスで登録し、発信するポートの指定を行い、発信者番号通知を「通知する」に設定してください。（☛P137、142、150）
また、INSマジックボックスのキャッチホンをご利用の場合は、設定ユーティリティでキャッチホン設定を「INSキャッチホン」に設定してください。（☛P74、137）
このサービスをご利用になるには、当社との契約（有料）が必要です。

お知らせ

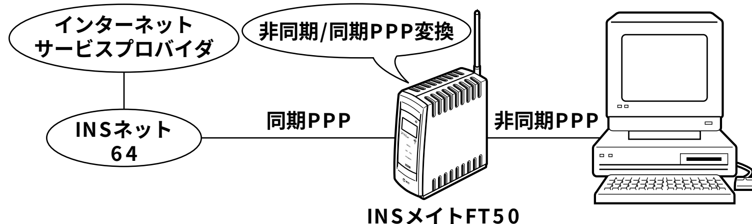
- INSマジックボックスについて、詳しくは局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

RS-232Cポートでインターネットへ接続するには

INSメイトFT50は、非同期／同期PPP変換、または128KマルチリンクPPPの通信モードを選択してインターネットサービスプロバイダに接続します。

■ 非同期／同期PPP変換（64 kbit/s）

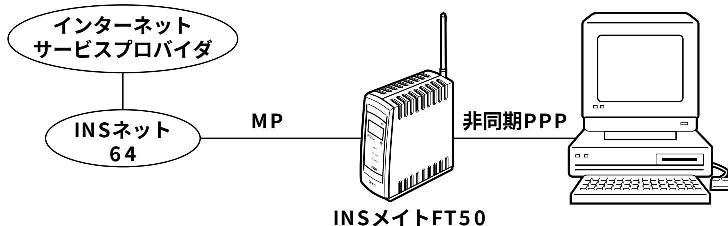
パソコンの非同期PPPデータとINSネット64回線の同期PPPデータを相互に変換して通信するモードです。インターネットの同期64 kbit/sの接続サービスを利用するときの通信モードです。



●INSメイトFT50で必要な設定（☛P144）

■ 128KマルチリンクPPP

Multilink Protocol（MP）方式により、INSネット64の2つのBチャネルを使って128 kbit/sで通信するモードです。128KマルチリンクPPPをサポートしているアクセスポイントに接続するときの通信モードです。
128KマルチリンクPPPで通信するときは、BOD機能で通信データ量で使用するチャネル数を自動的に調節することができます。



●INSメイトFT50で必要な設定（☛P145）

RS-232Cポートでインターネットへ接続するには

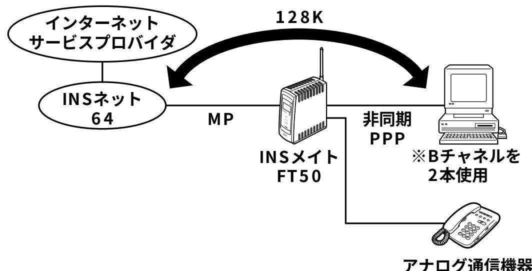
■ BOD機能

BOD（Bandwidth On Demand）機能は、128KマルチリンクPPPでデータ通信を行っているときに、アナログポートに接続したアナログ通信機器の発着信、またはRS-232Cポートの通信データ量によって、128Kと64Kデータ通信を切り替え、使用するBチャネルの数を自動的に変更する機能です。
アナログポートに接続したアナログ通信機器の発着信によってBチャネルの数を変更する方法を「リソースBOD」と呼び、RS-232Cポートの通信データ量によってBチャネルの数を変更する方式を「スループットBOD」と呼びます。

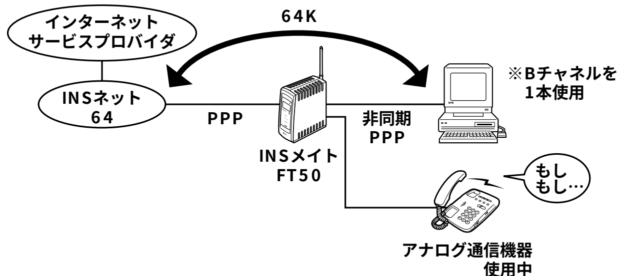
●リソースBOD

128KマルチリンクPPPでデータ通信を行うときは、Bチャネルを2本使用するため、通常アナログポートの発着信はできませんが、リソースBODを設定すると、アナログポートに接続したアナログ通信機器の発着信時にデータ通信のBチャネルを1本切断してアナログ通信機器を使用することが可能になります。また、アナログ通信機器の使用が終わるとBチャネルを1本追加して128KマルチリンクPPP通信に戻ります。
この機能をご利用になるには、当社との配信通知サービスの契約が必要です。

- **アナログ通信機器を未使用時**

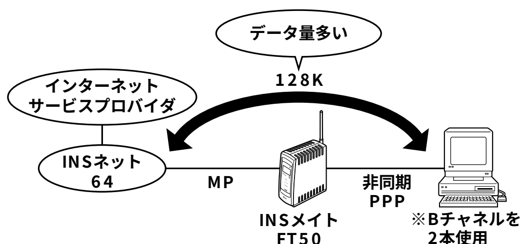


- **アナログ通信機器を使用時**

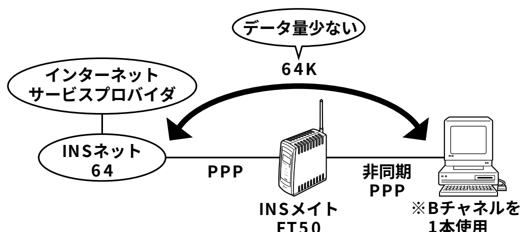


●**スループットBOD**
スループットBODは、RS-232Cポートの通信データ量が少ないときはBチャネルを1本使用し、多いときにはBチャネルを2本使用する方式です。

• **通信データ量が多いとき**



• **通信データ量が少ないとき**



●**INSメイトFT50で必要な設定（☛P145）**

4
データ通信を行う

ワンポイント

• **ATコマンドで通信を制御するには**
INSメイトFT50は、モデムの標準的な制御コマンドであるATコマンドをサポートしています。ATコマンドで通信モードなどの設定を行うときは、設定編の「汎用的な設定方法」を参照してください。（☛P159）

お知らせ

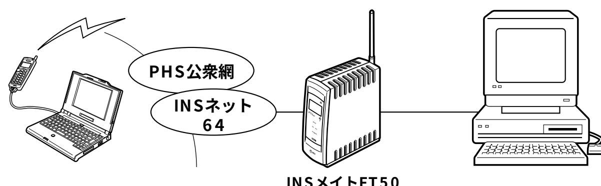
• **128KマルチリンクPPPで通信を行うときは、INSメイトFT50とパソコン側の通信速度は、230.4 kbit/sでご使用ください。Windows対応機種で使用する場合、お使いになるパソコンが230.4 kbit/sに対応していないときは、市販の高速RS-232Cボードを購入してください。Macintoshで使用する場合は、230.4 kbit/s対応の機種をご使用ください。**

PIAFSモードでデータ通信を行うには

INSメイトFT50は、PIAFSモードをサポートしています。

■ PIAFSモード（PIAFS2.0準拠）

RS-232Cポート、無線ポートでPHS対応電話機（PIAFSデータ通信機能付）と接続したモバイルパソコンなどから、PIAFS機能をサポートしているパソコンと、INSネット64回線を介して接続するデータ通信モードです。



■ 発信

●PIAFSモードに切り替える
AT$Nコマンドで通信モードを切り替えます。
AT#M=0（PIAFSモード）（☛P170）
AT$N8=0（PIAFS32K）（☛P188）
AT$N8=1（PIAFS64K）（☛P188）

●発信時に通信モードを指定する
PIAFS32Kモードのとき、ATDコマンドの相手の電話番号の末尾に「PF」を付けて発信します。
PIAFS64Kモードのとき、ATDコマンドの相手の電話番号の末尾に「PD」を付けて発信します。
ATDコマンド（☛P166）

■ 着信

PIAFSモードでの着信があると、自動的に判別して通信を行います。

ワンポイント

- **PIAFSとは**
  PHS Internet Access Forum Standardの略称で、PHSインターネットアクセスフォーラムで規定されたPHSを用いたデータ通信手順のことです。32 kbit/sのPHSデータを通信速度29.2 kbit/sで発着信する通信方法と、64 kbit/sのPHSデータを通信速度58.4 kbit/sで発信する2とおりの通信方法があります。
- **PIAFS64Kモードでは、NTTDoCoMoの方式を用いた相手と接続できます。**

お知らせ

- **PIAFS64Kモードのときは、発信者番号通知を行うようにしてください。**

ワイヤレスでデータ通信を行うには

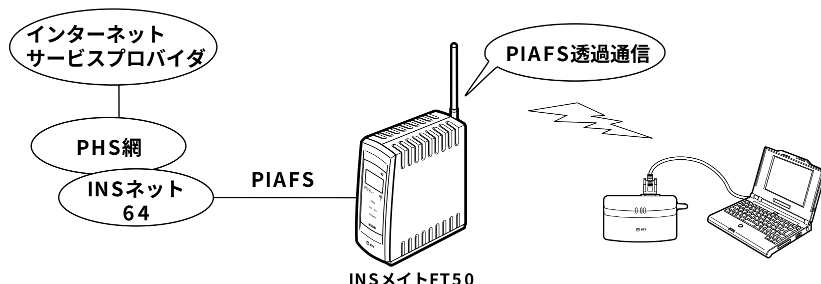
インターネットに接続する

無線ポートに接続したデータ通信機器からPIAFS通信を行い、PIAFS透過通信またはPIAFS／同期PPP変換の通信モードを選択してインターネットサービスプロバイダに接続できます。

●INSメイトFT50で必要な設定（☛P142、150）

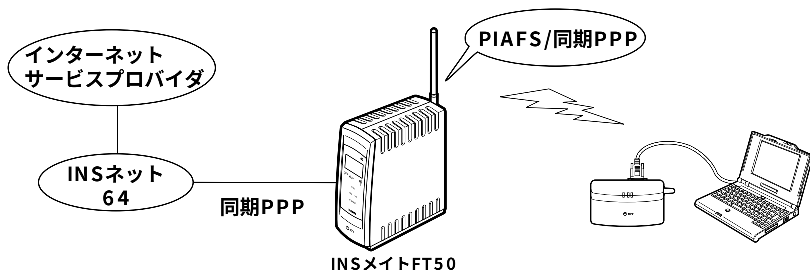
■ PIAFS透過通信

無線ポートに接続したデータ通信機器からの通信データを変換せずに、INSネット64回線へ透過します。PIAFSをサポートしているアクセスポイントに接続するときの通信モードです。



■ PIAFS／同期PPP変換

無線ポートに接続したデータ通信機器からの通信データをINSネット64回線の同期PPPデータに変換して通信します。インターネットの同期64 kbit/sの接続サービスを利用するときの通信モードです。



（次ページへ続く）

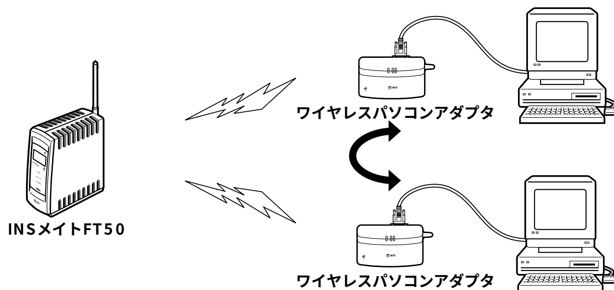
ワイヤレスでデータ通信を行うには

お知らせ

- 通信圏外の場合は
通信圏外が表示されたときはINSメイトFT50に近づいてください。
（お使いの機器により通信圏外表示は異なります。）
- PIAFS64Kモードのときは発信者番号通知を行うようにしてください。
- 内線に登録したPHS対応電話機でインターネットやデータ通信を行うには、PCカード（PCMCIA）対応のパソコンとそれぞれのPHS対応電話機に合わせたPIAFSカードが必要です。接続および設定についての詳細は、それぞれの機器の取扱説明書を参照してください。
- INSメイトFT50のデータ通信モードで「同期PPP」に設定していても、内線に登録したPHS対応電話機によっては、PIAFS透過通信となります。この場合は、内線に登録したPHS対応電話機に接続しているパソコンからATコマンドの相手先電話番号の末尾に＃0111を設定してください。
- PIAFS64K透過通信で接続するときは、必ずPIAFS64対応のアクセスポイントに接続してください。
誤って非対応のアクセスポイントに接続すると、いったん接続したあとに切断されることがあります。その場合は通話料金として加算されますのでご注意ください。

内線でデータ通信を行う

無線ポートに接続したデータ通信機器どうしで、またはINSメイトFT50のRS-232Cポートと無線ポートに接続したデータ通信機器間でデータ通信ができます。



■ 発信

PIAFS32K/64Kモードで発信します。ATコマンドで相手の内線番号を呼び出します。

●ATD内線番号一覧

ポート名	内線番号	ポート名	内線番号
無線ポート1	3	RS-232Cポート	71
無線ポート2	4	無線データポート1	72
無線ポート3	5	無線データポート2	73
無線ポート4	6		

無線ポート間は、PIAFS32Kモードでデータ通信をします。RS-232Cポートと無線ポート間はPIAFS32K/PIAFS64Kモードでデータ通信します。

■ 着信

ATAコマンドで応答します。切断するときは、ATHコマンドで切断します。

使用上の制限事項（同時使用可能なデータ通信）

データ通信時におけるINSメイトFT50のRS-232Cポートや無線ポートの使用に関する制限を次の表に示します。

データ通信の種類		INSメイトFT50 RS232Cポートの使用可否	無線ポート（PHS対応電話機/ワイヤレスパソコンアダプタ）からの通話およびデータ通信の可否
PIAFS32K	PIAFS透過モード	同時使用可	同時使用可
	PIAFS/同期PPP変換モード	同時使用不可	音声通話およびPIAFS透過モードの場合のみ同時使用可
PIAFS64K	PIAFS透過モード	同時使用可	同時使用不可
	PIAFS/同期PPP変換モード	同時使用不可	同時使用不可
内線データ通信	無線ポート相互間	同時使用可	同時使用不可
	INSメイトFT50 RS-232Cポート		音声通話およびPIAFS透過モードの場合のみ同時使用可
INSメイトFT50 RS-232Cポートのデータ通信			音声通話およびPIAFS透過モードの場合のみ同時使用可

※ いずれのケースの場合も、INSネット64のBチャネル同時使用は2本まで、かつINSメイトFT50の内線で使用する無線チャネルは2本まで使用できる環境が必要です。

ＰＨＳ対応電話機をコードレス電話機として利用する

お手持ちのPHS対応電話機をINSメイトFT50のコードレス電話機としてご利用になれます。

ＰＨＳ対応電話機をコードレス電話機として利用する順序

対応機種を確認します

INSメイトFT50のコードレス電話機として利用できるPHS対応電話機は、添付の対応表にて確認してください。また対応機種については、順次更新しますので、当社ホームページまたはNTT通信機器お取扱相談センタにてご確認ください。

増設登録をします

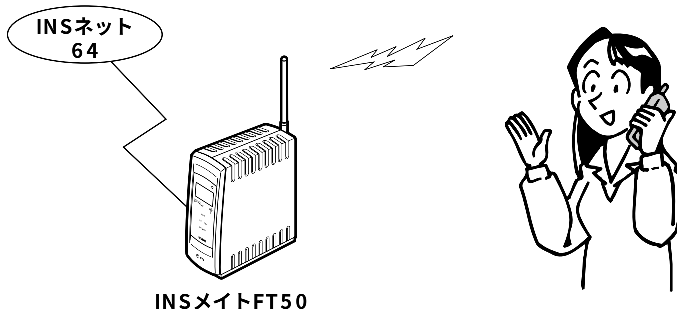
INSメイトFT50にPHS対応電話機をコードレス電話機として登録する必要があります。（有料）増設登録については、局番なしの116番または当社営業所へご相談ください。

・ワイヤレスパソコンアダプタを増設する場合も同様です。

「オフィスモード」または「ホームモード」に設定します

PHS対応電話機の待ち受けモードを「オフィスモード」または「ホームモード」に設定してください。設定方法については、ご利用のPHS対応電話機の取扱説明書をご参照ください。

・屋外でPHSとして利用するときは「公衆モード」に切り替えてください。



PHS対応電話機をコードレス電話機として利用する場合の例を記載します。お使いの機種によって、利用方法が異なる場合があります。

電話をかける

1 電話番号をダイヤルボタンで押す。

2 通話 ボタンを押す。

3 相手の方が出たらお話しする。

4 お話しが終わったら 切 ボタンを押す。

電話を受ける

1 PHS対応電話機の着信音が鳴る。

2 通話 ボタンを押し、相手の方とお話しする。

3 お話しが終わったら 切 ボタンを押す。

ワンポイント

- 利用できる機能
  アナログポートに接続した機器と同様に操作できます。
  - 内線通話（☛P62）
  - 内線転送（☛P63）
  - フレックスホン（☛P83）
- PIAFSデータカードを利用するときは
  PHS対応電話機とPIAFSデータカードを利用すると、INSメイトFT50を介してワイヤレスでインターネットに接続することができます。詳しくはPHS対応電話機とPIAFSデータカードの取扱説明書をご参照ください。
- トランシーバモードを利用するときは
  同じINSメイトFT50に登録したPHS対応電話機どうしは「トランシーバモード」でトランシーバとしてご利用できます。詳しくはPHS対応電話機の取扱説明書をご覧ください。
- 通信圏外の場合は
  通信圏外が表示されたときはINSメイトFT50に近づいてください。お使いのPHS対応電話機により通話圏外の表示は異なります。

お知らせ

- 通話ボタンを押したときに話中音が聞こえるときは、他の電話機または、パソコンが2台同時に使用中か、ワイヤレスパソコンアダプタなどでPIAFS64K通信中です。

コールバックを設定するには

■ コールバック

INSメイトFT50を利用してクライアント／サーバのネットワークを構築したとき、クライアント側から発信を行うと自動的にサーバ側INSメイトFT50がクライアント側へかけ直します。（コールバック）コールバックを使用すると、例えば、自宅（リモートクライアント）〜会社（サーバ）のネットワークで、自宅側の電話料金を発生させずに通信することができます。

●コールバックを利用するには…

コールバックを利用するためには、次の契約や設定が必要です。

〈クライアント側〉

INSネット64契約 …………	発信者番号通知サービスを「通常通知（通話ごと非通知）」で契約する
コールバック …………	「コールバックする」に設定する（☛P148）
RS-232Cポートの発信者番号通知設定 …………	「INSネット64申込内容に従う」に設定する（☛P142）
フロー制御の設定 …………	「RS/CSでフロー制御」に設定する（☛P147）
自動応答 …………	「自動応答」に設定する（☛P195）
発信時 …………	ATコマンドのDコマンドで相手のアドレスの末尾に「CB」を付加して発信する

〈サーバ側〉

INSネット64契約 …………	発信者番号通知サービスを「通常通知（通話ごと非通知）」で契約する
コールバック …………	「コールバックする」に設定する（☛P148）
RS-232Cポートの発信者番号通知設定 …………	「INSネット64申込内容に従う」または「発信者番号通知設定する」に設定する（☛P142）
フロー制御の設定 …………	「RS/CSでフロー制御」に設定する（☛P147）
自動応答 …………	「自動応答」に設定する（☛P195）
ER信号 …………	サーバのER信号をONにしておく

ワンポイント

- **コールバックが利用できるターミナルアダプタなど。**
  通信相手機器として、INSメイト FT50以外のINSメイト V70MAX、ｉ・トレンビーW-1000K、ｉ・トレンビー ファクス W-3000Nでも利用できます。

お知らせ

- **コールバックを設定していても、通常の発着信を行うことができます。**
- **アナログポートでコールバックを使用することはできません。**
- **リモートクライアント側と同じ回線に複数のターミナルアダプタが接続されているときはINSメイトFT50を指定できるようにサブアドレスやダイヤルインを利用してください。**

RS-232Cポートに接続したパソコンから電話をかけるには（CTI発信）

INSメイトFT50のRS-232Cポートに接続したパソコンからのATコマンド入力により、アナログポートの発信を行うことができます。

1 データ端末よりATコマンド入力する。

ATコマンドで指定したアナログポートに接続されているアナログ通信機器の着信音が鳴ります。

2 着信音が鳴っている間に、ハンドセットを取りあげます。

ATコマンドで入力した相手の方の電話番号でINSメイトFT50が自動的に発信します。着信音が鳴っている間にアナログ通信機器のハンドセットを取りあげないときは、アナログ通信機器の呼び出しを中止します。

3 相手の方が出たら、お話しください。

4 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

■ CTI発信のATコマンドは以下のとおりです。

AT!Dアナログポート番号；相手の方の電話番号（着番号／着サブアドレス）	CR

アナログポート番号：1または2
；（セミコロン）：区切り子
着番号：最大32桁
着サブアドレス：最大19桁（省略可能）
／：着番号と着サブアドレスの区切り子

■ アナログポートに接続したアナログ通信機器を呼び出している間は以下のATコマンドで発信を取り消すことができます。

AT!Hアナログポート番号	CR

アナログポート番号：1または2

（次ページへ続く）

RS-232Cポートに接続したパソコンから電話をかけるには（CTI発信）

■ リザルトコードフォーマットおよび通知条件

• CONNECTフォーマット

CR	LF	CONNECT_T　アナログポート番号	CR	LF

CR　：0Dh　＿（スペース）：20h
LF　：0Ah　アナログポート番号：1または2

通知条件
①相手応答時

• OKフォーマット

CR	LF	OK_T　アナログポート番号	CR	LF

通知条件
①CTI発信による通話中ではないアナログポートを指定してAT！Hコマンドで発信を取り消したとき

• NO　CARRIERフォーマット

CR	LF	NO_CARRIER_T　アナログポート番号	CR	LF

通知条件
① INSネット64からの最初の切断復旧メッセージを受信したとき
② すでに2つのBチャネルを使用しているとき
③ 同期はずれ状態でのCTI発信時
④ CTI発信後アナログ通信機器を呼び出し中にAT！Hコマンドで発信を取り消したとき

• BUSYフォーマット

CR	LF	BUSY_T　アナログポート番号	CR	LF

通知条件
① 相手話中時

• ERRORフォーマット

CR	LF	ERROR_T　アナログポート番号	CR	LF

通知条件
① 着番号、着サブアドレスの最大桁数を超えた番号でCTI発信した場合
② 使用中のアナログポートにCTI発信した場合
③ CTI発信からCTI呼出時間として設定されている時間内にアナログ通信機器のハンドセットを取りあげない場合
④ データ通信のオンラインコマンドモードでCTI発信した場合
⑤ データ通信のオンラインコマンドモードでCTI発信を取り消した場合
⑥ アナログポート番号を指定したあと、着番号を指定しないでCTI発信した場合

CR	LF	ERROR	CR	LF

通知条件
① アナログポート番号と着番号を指定しないでCTI発信した場合
② アナログポート番号を指定しないでCTI発信した場合およびCTI発信を取り消した場合
③ アナログポート番号を1または2以外でCTI発信した場合およびCTI発信を取り消した場合
④ CTI発信した通話が終了する前にデータ通信で発信した場合

• ER　OFFフォーマット

CR	LF	ER_OFF　アナログポート番号	CR	LF

通知条件
① ER信号がOFFでCTI発信を行った場合

ワンポイント

- **CTI発信でアナログ通信機器を呼び出すときの着信音を変えるには**
  CTI呼出種別の設定を変えることにより、着信音を変えたり、着信音を鳴らないようにすることができます。（☛P149）着信音が鳴らないように設定したときも、「CTI呼出時間」で設定した時間内は、CTI発信することができます。
- **CTI発信でアナログ通信機器の呼出時間（CTI呼出時間）を変えるには**
  CTI呼出時間を設定することができます。（☛P149）お買い求め時の設定は60秒です。

お知らせ

- **CTI（コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション）機能は、着信時に通知される情報をコンピュータで処理するなど、電話機とコンピュータを統合的に利用する機能のことです。INSメイトFT50では、CTI機能として、「CTI発信」と「CTI情報出力」の2つの機能を搭載しています。**
- **CTI発信は同時に2つのアナログポートで行うことができます。**
- **すでに2つのBチャネルを使用している場合は、手順2でハンドセットを取りあげると話中音が聞こえます。**
- **アナログ通信機器を呼び出し中にそのアナログポートに電話がかかってきた場合は、電話をかけてきた相手の方には話中音が聞こえます。**
- **CTI発信後、内線転送を行った場合、データ端末へ通知するアナログポート番号はCTI発信時のアナログポート番号です。**
- **CTI発信後AT!D、AT!H、および設定系コマンド以外のATコマンドを入力した場合は、パソコンへERRORを通知します。**
- **ATDRによるCTI発信はできません。**
- **CTI発信中にER信号がOFFになった場合は、ER信号制御の設定により下記の動作になります。**

ER信号制御の設定	設定時の動作
パソコンのER信号を監視する	アナログ通信機器の呼び出しを停止する。CTIに関するリザルトコードは送出する。
常時ON	CTI発信動作を継続する。

- **データ端末を最初に接続したときや、パソコンの速度を変更したときは、「AT」を必ず入力してください。「AT」を入力しない場合、文字化けなど正しく動作しないことがあります。**
- **ここでは、CTI発信を利用するための出力フォーマットを公表しておりますが、これらはお客様の用意されるソフトウェアの動作を保証するものではありません。**
- **ワイヤレスパソコンアダプタなど無線ポートからはご利用になれません。**

5 便利な機能

アナログポートに通知した着信情報をRS-232Cポートに通知するには （CTI着信）

アナログポートに通知される着信情報に含まれる発信者番号などを、着信時にRS-232Cポートに以下の形式のリザルトコードで通知します。あらかじめ情報を出力するポート番号を、CTI情報出力設定で指定する必要があります。**（☛P193）**

■ RS-232Cポートへ出力するデータ形式は以下のとおりです。

CR	LF	RING＿ANALOG＿発番号／発サブアドレス＿着番号／着サブアドレス	CR	LF

CR：0Dh
LF ：0Ah
＿（スペース）　　：20h
／（サブアドレス区切子）：2Fh

発番号　　　　：最大32桁
発サブアドレス：最大19桁
着番号　　　　：最大32桁
着サブアドレス：最大19桁

■ 非通知理由を受信したときは、発番号・発サブアドレスの代わりに以下のように非通知理由が出力されます。

CR	LF	RING＿ANALOG＿非通知理由＿着番号／着サブアドレス	CR	LF

非通知理由
P（50h）：ユーザ拒否
O（4Fh）：サービス提供不可
C（43h）：公衆電話発信
S（53h）：サービス競合

お知らせ

- 電話網からの着信に対して、相手電話番号をRS-232Cポートに出力するには当社とのINSナンバー・ディスプレイの契約（有料）が必要です。
- RS-232Cポートへの出力は、RS-232Cポートが空いているときに限り、1回のみ出力します。
- ダイヤルイン契約をしていない回線およびグローバル着信契約をしているときの契約者回線番号への着信では、設定ユーティリティ等で契約者回線番号に設定した電話番号を着番号として出力します。
- i・ナンバーを設定した場合は、設定ユーティリティなどで i・ナンバー情報の電話番号と着信するポートを設定してください。（☛P69、70、130）ここで設定した電話番号を着番号として出力します。電話番号を設定しない場合は着番号は出力されません。
- CTI情報の出力時、パソコンへのCI信号は変化しません。
- 設定ユーティリティで本機能を使用する設定をしたあと、設定ユーティリティを終了する前にアナログポートへ着信があると、「通信エラー」と表示される場合があります。
- 相手の方が電話番号を通知しない契約を結んでいる、または電話番号を通知しない操作をした場合などは、出力されません。
- パソコンを最初に接続したときや、パソコンの通信速度を変更したときは、ハイパーターミナルなどのターミナルソフトで「AT」を必ず入力して、パソコンとINSメイトFT50の通信速度を合わせてください。「AT」を入力しない場合、着信時に文字化けなど正しく動作しないことがあります。
- ここでは、CTIを利用するための出力フォーマットを公表しておりますが、これらはお客様の用意されるソフトウェアの動作を保証するものではありません。

INSメイトFT50 設定編

設定ユーティリティをインストールするには

INSメイトFT50は、初期値（お買い求め時の設定値）のままでも、電話機やパソコンを接続して通信ができます。さらに、設定ユーティリティを使うとさまざまな機能が利用できるようになります。設定ユーティリティは付属のCD-ROMに格納されています。設定ユーティリティを使うには、CD-ROMから設定ユーティリティをインストールすることが必要です。
インストールする際には、INSメイトFT50をパソコンに接続してください。ワイヤレスパソコンアダプタは接続しないでください。

Windows® 95／Windows® 98／Windows® Me／Windows® 2000／Windows NT® 4.0をご利用の場合

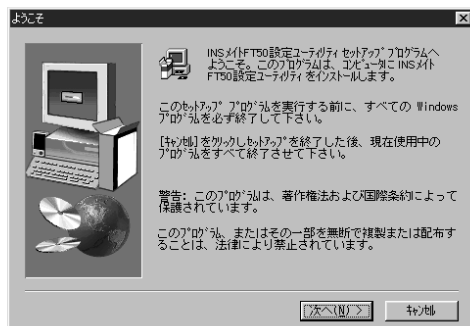
Windows® 98の画面を例に説明します。お使いのパソコンの機種により、表示が異なる場合があります。

1 付属品のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

自動的にINSメイトFT50の「案内ページ」が表示されます。
画面領域の設定によっては、案内ページが正しく表示されない場合があります。「マイコンピュータ」から「コントロールパネル」を開き、「画面」のプロパティで画面の領域を800×600ピクセル以上に設定してください。

2 「設定ユーティリティのインストール」をクリックする。

「設定ユーティリティのインストール確認」が表示されます。
［OK］をクリックするとセットアップブログラムが起動します。

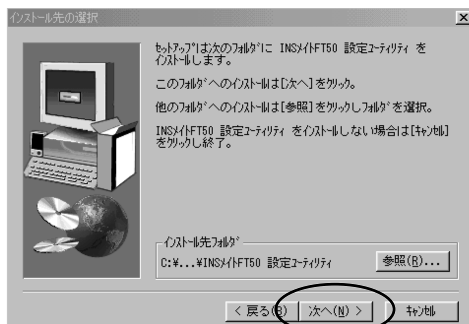


Windows® 95は、Microsoft® Windows® 95 operating systemの略です。
Windows® 98は、Microsoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® Meは、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
Windows® 2000は、Microsoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
Windows NT® 4.0は、Microsoft® Windows NT® operating system Version 4.0の略です。

3　画面の表示に従いインストールする。

中止する場合は、［キャンセル］をクリックし、終了してください。

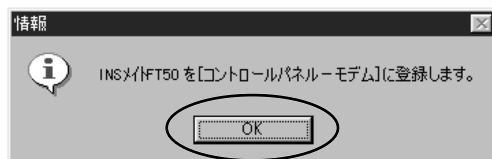
4　注意事項を読んで［次へ>］をクリックする。



インストールするドライブ、ディレクトリを変更するときは、［参照］をクリックしてください。

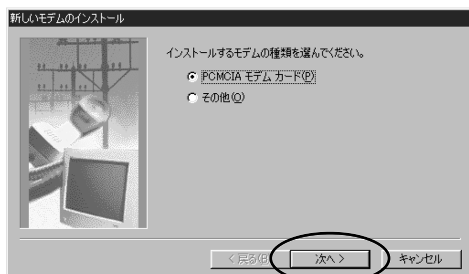
5　［次へ>］をクリックする。

INSメイトFT50のセットアップを開始するメッセージが表示されます。



6　［OK］をクリックする。

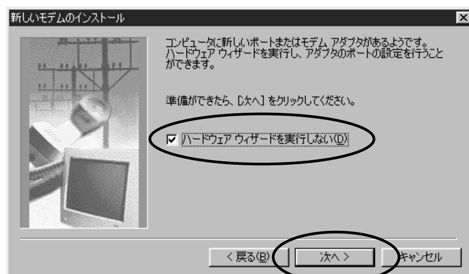
［モデムウィザード］が起動します。



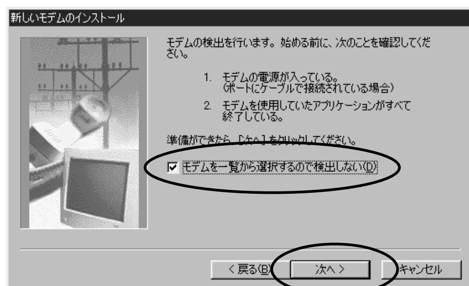
（次ページへ続く）

設定ユーティリティをインストールするには

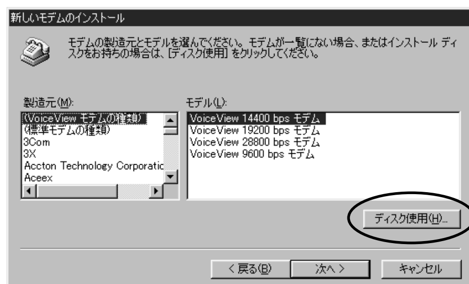
7 ［その他］を選択し、［次へ>］をクリックします。



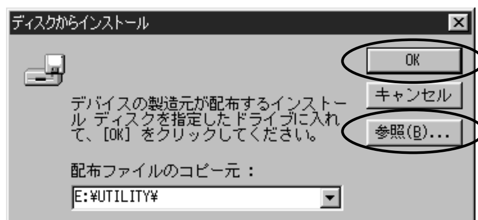
8 ［ハードウェアウィザードを実行しない］をチェックして［次へ>］をクリックする。



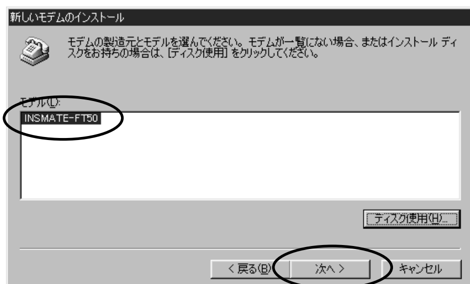
9 ［モデムを一覧から選択するので検出しない］をチェックして、［次へ>］をクリックする。



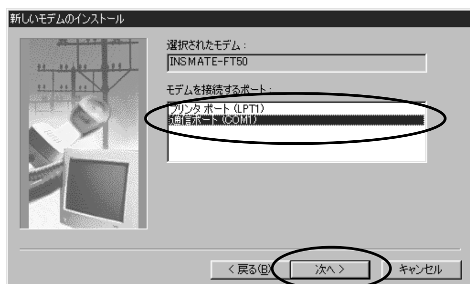
10 ［ディスク使用］をクリックする。



11 ［参照］をクリックして、CD-ROMをセットしたドライブを指定し［UTILITY］フォルダをダブルクリックし［OK］をクリックする。（2回）



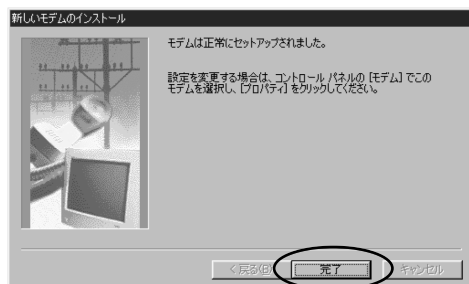
12 ［モデル］に［INSMATE-FT50］が表示されたのを確認して、［次へ>］をクリックする。



（次ページへ続く）

設定ユーティリティをインストールするには

13 ［モデムを接続するポート］の中から、接続するパソコンのポートをクリックし、［次へ>］をクリックする。



14 ［完了］をクリックする。

INSメイトFT50のセットアップと設定ユーティリティのインストールは終了しました。

15 ［終了後にINSメイトFT50設定ユーティリティを起動する］がチェックされていることを確認して、［終了］をクリックする。

設定ユーティリティが起動します。（☛P120）

Mac OSをご利用の場合

Mac OSをご利用の場合は、最初にINSメイトFT50のモデム情報をパソコンにインストールしてモデムの設定を行います。

■ モデム情報をインストールする

付属のCD-ROMからINSメイトFT50の定義ファイルをシステムフォルダにコピーします。

1 パソコンの電源を入れ、起動する。

実行中のアプリケーションはあらかじめ終了してください。

2 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

3 CD-ROMの［UTILITY］フォルダをダブルクリックする。

4 ［CCL］フォルダの中の「INSMATE-FT50」を、システムフォルダの［機能拡張］の中の［Modem Scripts］フォルダにドラッグ＆ドロップの操作でコピーする。

INSMATE-FT50とパソコン間の通信速度を230.4 kbit/sで利用する場合は、「INSMATE-FT50 230400」をご利用ください。
選択したファイルによる通信速度に合わせて、電池カバー内にある設定スイッチ（☛P29）で「速度設定」（☛P30）を切り替えてインターネットをご利用ください。

5 アップルメニューをプルダウンして［コントロールパネル］をポイント、［モデム］を開く。

6 ［経由先：］で、INSメイトFT50を接続したポートを選択し、［モデム：］をプルダウンして［INSMATE-FT50］を選択する。

7 ［ダイヤル：］に［トーン］が選択されていることを確認して、［モデム］を閉じる。

■ 設定ユーティリティをインストールする

1 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

実行中のアプリケーションはあらかじめ終了してください。

2 CD-ROMの［UTILITY］フォルダをダブルクリックする。

3 ［FT50設定ユーティリティ］フォルダを、ドラッグ＆ドロップの操作でハードディスクにコピーする。

設定ユーティリティのインストールは終了しました。

設定ユーティリティを起動／終了する

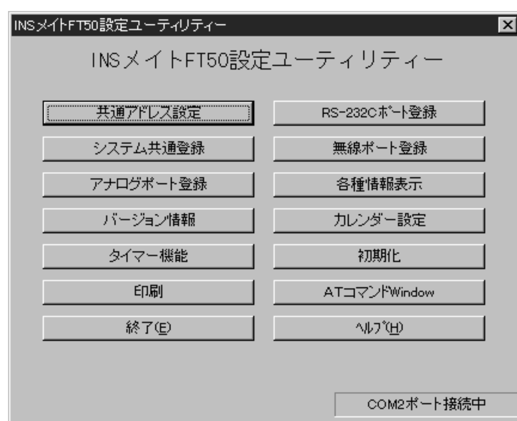
設定ユーティリティを起動するときは、INSメイトFT50とパソコンを正しく接続してください。

Windows® 95／Windows® 98／Windows® Me／Windows® 2000／Windows NT® 4.0をご利用の場合

1 **INSメイトFT50の電源を入れる。**

2 **［スタート］をクリックし、［プログラム］→［INSメイトFT50設定ユーティリティ］をクリックする。**

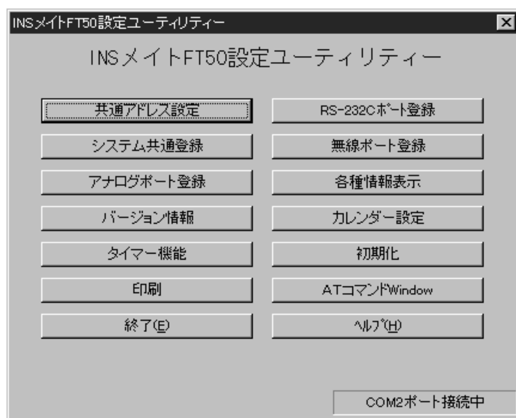
設定ユーティリティが起動します。メインメニュー画面が表示されます。



3 **設定したい項目のボタンをクリックする。****（☛P125）**

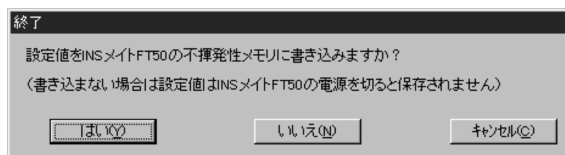
4　設定が終了したら、[登録（S）] をクリックする。

メインメニュー画面に戻ります。



5　[終了（E）] をクリックする。

終了画面が表示されます。

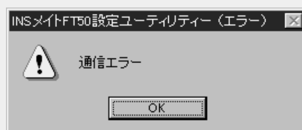


（次ページへ続く）

2　設定ユーティリティでの設定方法

設定ユーティリティを起動／終了する

- **設定ユーティリティが起動しないときは**
  RS-232Cケーブルが正しく接続されていないときや、INSメイトFT50を接続したポートを認識できないときなどは、次の画面が表示されます。



ワンポイント

・パソコンとINSメイトFT50が正しく接続されているか確認します。
・[OK］をクリックすると、通信ポートを選択する画面が表示されます。

・INSメイトFT50を接続したポートを選択し、[OK] をクリックします。
・INSメイトFT50が選択したポートに正しく接続されていると、メインメニュー画面が表示されます。

お知らせ

- **設定ユーティリティで設定中に、有効範囲外の数値などを入力した場合、設定内容保存時にエラーメッセージが表示されます。**

Mac OSをご利用の場合

1 **INSメイトFT50の電源を入れる。**

2 **［FT50設定ユーティリティ］フォルダをダブルクリックする。**

3 **［FT50設定ユーティリティ］アイコンをダブルクリックする。**

設定ユーティリティが起動します。

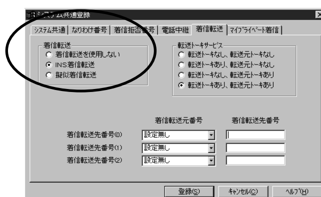
4 **設定したい項目のボタンをクリックする。**

起動後の操作は、Windows® 95／Windows® 98／Windows® Me／Windows® 2000／Windows NT® 4.0の場合と同じです。（☛P120）

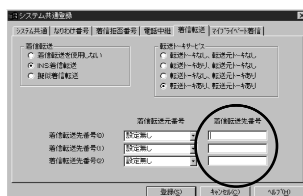
設定ユーティリティを起動／終了する

画面の見かた

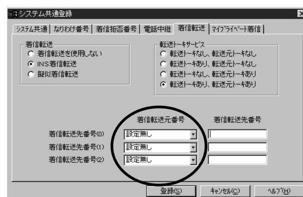
画面の項目の左に○や ◉ があるときは、 ◉ が現在の設定値です。変更するときは○をクリックして ◉ にします。
□が画面の項目の左にあるときは、クリックするとチェックマーク☑ になります。チェックマークが付くと選択されたことになります。



画面の入力欄があり、数値やアドレスを入力するときは、入力欄をクリックします。
カーソルが表示されて数値やアドレスが入力できるようになります。



画面にアクションバー［30 ▼］などがあるときは、表示された数値や項目が現在設定されています。画面の▼をクリックするとプルダウンリストが表示されますので、選択する値や項目をクリックします。



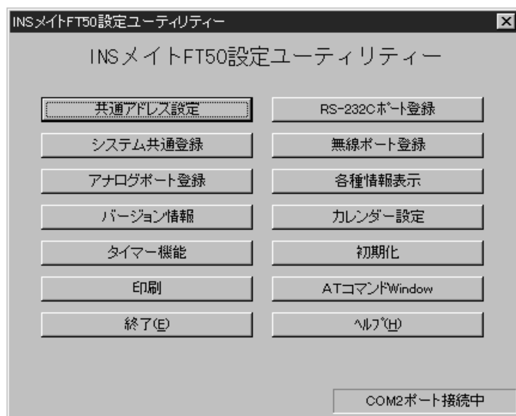
お知らせ

- **設定項目を囲む四角い枠［┈┈┈┈┈┈］およびアドレスなどの入力欄のカーソルは、パソコンの［Tab］キーで移動できます。**

INSメイトFT50の設定を行う

設定ユーティリティで、INSメイトFT50の設定を行います。

1 設定ユーティリティを起動する。



・共通アドレス設定（☛P128）
回線契約の種類や契約者回線番号などを設定します。
・システム共通登録（☛P131）
優先着信やなりわけ番号などシステム共通の設定を行います。
・アナログポート登録（☛P137）
TEL1／2ポートの設定を行います。
・バージョン情報（☛P156）
INSメイトFT50のバージョン情報が表示されます。
・タイマー機能（☛P154）
着信転送、優先着信、電話中継のタイマーを設定します。
・印刷（☛P155）
設定内容を印刷します。
・ATコマンドWindow（☛P155）
ATコマンドを入力するウィンドウを表示します。
・RS-232Cポート登録（☛P142）
INSメイトFT50のRS-232Cポートの設定を行います。
・無線ポート登録（☛P150）
ワイヤレスパソコンアダプタやPHS対応電話機などを利用するための無線ポートの設定を行います。

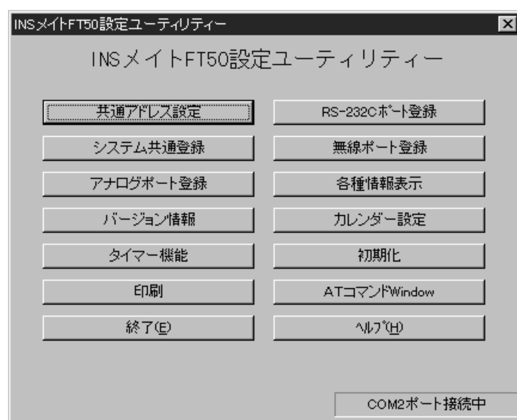
（次ページへ続く）

INSメイトFT50の設定を行う

・各種情報表示（☛P152）
累積料金や着信履歴を表示します。
・カレンダー設定（☛P154）
INSメイトFT50の日時を設定します。
・初期化（☛P158）
INSメイトFT50の各種設定値をお買い求め時の設定に戻します。

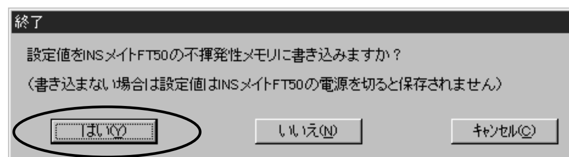
2 設定が終了したら、［登録（S)］をクリックする。

メインメニュー画面に戻ります。



3 ［終了（E)］をクリックする。

終了画面が表示されます。



4 ［はい（Y)］をクリックする。

変更した内容が設定され、INSメイトFT50に保存されます（AT＆Wコマンドの実行)。INSメイトFT50の電源を入れ直しても設定は変更前に戻りません。メインメニュー画面に戻ります。
［いいえ（N)］をクリックすると、変更した内容は設定されますが、電源を入れ直したときは設定が元に戻ります。
［キャンセル（C)］をクリックすると、1つ前の画面に戻ります。

画面の流れ

INSメイトFT50の設定ユーティリティの各画面は、次のような関係になっています。

- メインメニュー画面
  - 共通アドレス設定画面（☛P128）
    - 共通アドレス設定（ダイヤルイン）画面（☛P129）
    - 共通アドレス設定（i・ナンバー）画面（☛P130）
  - システム共通登録画面（☛P131）
    - なりわけ番号設定画面（☛P133）
    - 着信拒否番号設定画面（☛P133）
    - 電話中継の設定画面（☛P134）
    - 着信転送先番号の設定画面（☛P135）
    - マイプライベート着信の設定画面（☛P136）
  - アナログポート登録画面（☛P137）
    - アナログポート1の設定画面
      - 詳細設定画面 → 番号の選出方法設定画面
    - アナログポート2の設定画面
      - 詳細設定画面 → 番号の選出方法設定画面
  - RS-232Cポート登録画面（☛P142）
    - RS-232Cポート登録画面（☛P142）
    - PPP通信の設定画面（☛P144）
    - マルチリンクPPPの設定画面（☛P145）
    - 信号線の設定画面（☛P146）
    - フロー制御の設定画面（☛P147）
    - コールバック動作の設定画面（☛P148）
    - CTI機能の設定画面（☛P149）
  - 無線ポート登録画面（☛P150）
    - 無線ポート登録画面（☛P150）
    - 無線ポート（サブアドレス）の設定画面（☛P151）
  - 各種情報表示画面（累積料金表示画面）（☛P152）
    - 着信履歴の表示画面（☛P153）
  - 日付・時刻設定画面（☛P154）
  - バージョン情報（☛P156）
  - 初期化（☛P158）

お知らせ

- **設定ユーティリティの設定操作はWindows® 95、Windows® 98、Windows® Me、Windows® 2000、Windows NT® 4.0またはMacintoshともほぼ同じです。以降、Windows® 98の画面を例に説明します。**

着信番号を設定するには（共通アドレス設定）

契約している電話番号を設定し、着信があったとき番号ごとにどのポートを呼び出すかを設定します。ご契約されているサービス（ダイヤルイン、ｉ・ナンバー）によって、設定する内容が異なります。

共通アドレス設定画面

メインメニュー画面で［共通アドレス設定］をクリックすると表示されます。

回線契約設定

回線契約設定　◉ i・ナンバーを使用しない　○ i・ナンバーを使用する

☑ グローバル着信を行う

	着信するポート				発信するポート										
	アナログ		RS-232C	無線	アナログ		RS-232C	無線							
	1	2	71		1	2	71	3	4	5	6	72	73	76	77
契約者回線番号	☑	☑	☑	全て	◉	◉	◉	◉	◉	◉	◉	◉	◉	◉	◉
ダイヤルイン番号1	☑	☑	☑	全て	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ダイヤルイン番号2	☑	☑	☑	全て	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ダイヤルイン番号3	☑	☑	☑	全て	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ダイヤルイン番号4	☑	☑	☑	全て	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ダイヤルイン番号5	☑	☑	☑	全て	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ダイヤルイン番号6	☑	☑	☑	全て	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ダイヤルイン番号7	☑	☑	☑	全て	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

登録(S)　キャンセル(C)　ヘルプ(H)

［回線契約設定］

ご契約のサービスを選択します。

- **サービスをご契約でない場合**

  「ｉ・ナンバーを使用しない」を選択します。

  共通アドレス設定（ダイヤルイン）画面が表示されます。（☛P129）

- **ダイヤルインをご契約の場合**

  「ｉ・ナンバーを使用しない」を選択します。

  共通アドレス設定（ダイヤルイン）画面が表示されます。（☛P129）

- **ｉ・ナンバーをご契約の場合**

  「ｉ・ナンバーを使用する」を選択します。

  共通アドレス設定（ｉ・ナンバー）画面が表示されます。（☛P130）

追加番号を登録する（共通アドレス設定（ダイヤルイン）画面）

［グローバル着信を行う］

グローバル着信の利用を選択します。

初期値：グローバル着信を行う

［契約者回線番号］［ダイヤルイン番号1～7］

ご契約の番号をすべて入力します。

［着信するポート］

それぞれの番号に着信があったときに呼び出すポートを選択します。

初期値：アナログポート1/2着信する、RS-232Cポート着信する、無線ポート全て着信する

［発信するポート］

それぞれの番号で発信するポートを選択します。

初期値：契約者回線番号

着信番号を設定するには（共通アドレス設定）

ｉ・ナンバーを登録する（共通アドレス設定（ｉ・ナンバー）画面）

回線契約設定

回線契約設定　○ i・ナンバーを使用しない　◉ i・ナンバーを使用する

着信するポート　発信するポート

アナログ　RS-232C　無線　アナログ　RS-232C　無線

1　2　71　1　2　71　3　4　5　6　72　73　76　77

i・ナンバー情報1　全て

i・ナンバー情報2　全て

i・ナンバー情報3　無し

●i・ナンバー情報
各i・ナンバー情報の電話番号を入力してください。

●着信するポート
i・ナンバー情報毎に、別々の着信するポートを指定することにより
i・ナンバー情報毎に、各ポートを呼び分けることができます。

登録(S)　キャンセル(C)　ヘルプ(H)

［ｉ・ナンバー情報1～3］

ご契約のｉ・ナンバーの電話番号をすべて入力します。

[着信するポート]

それぞれの番号に着信があったときに呼び出すポートを選択します。

初期値：ｉ・ナンバー情報1　アナログポート1着信する、RS-232Cポート着信する、無線ポートすべて着信する
ｉ・ナンバー情報2　アナログポート2着信する、RS-232Cポート着信する、無線ポートすべて着信する
ｉ・ナンバー情報3　アナログポート1/2着信しない、RS-232Cポート着信しない、無線ポート着信しない

[発信するポート]

それぞれの番号で発信するポートを選択します。

初期値：ｉ・ナンバー情報1　アナログポート1、RS-232Cポート、無線ポートすべて
ｉ・ナンバー情報2　アナログポート2
ｉ・ナンバー情報3　なし

- **無線ポートに接続したデータ通信機器にデータ着信する場合は、「着信するポート」の設定でRS-232Cポートのチェックを外し、着信させるデータ通信機器の番号を選択してください。**

- **電話番号を正しく設定しないと、相手に正しい電話番号が伝わらない場合や、INSネット64の各種サービスが利用できない場合があります。**

アナログポート共通の機能を設定するには

システム共通の機能を設定します。

システム共通登録画面

メインメニュー画面で［システム共通登録］をクリックすると表示されます。

[優先着信設定]

優先して着信させるポートを選択します。

初期値：優先しない

[ダイヤル終了識別子]

ボタンを含む電話番号にかけるときなどは、「ダイヤル」または「＃＃で発信」に設定します。

初期値：＃で発信

[バックライト]

液晶ディスプレイのバックライトのつきかたを設定します。

初期値：自動

[データポート優先着信]

優先して着信させるデータポートを選択します。

初期値：RS-232Cポート

[三者通話を使用する]

フレックスホンの三者通話を利用するかどうかを選択します。

初期値：使用しない

[通信中転送を使用する]

フレックスホンの通信中転送を利用するかどうかを選択します。

初期値：使用しない

（次ページへ続く）

アナログポート共通の機能を設定するには

[内線通話を使用する]
内線通話、内線転送を行えるようにするかどうかを選択します。
初期値：使用する

[ダイヤル桁間タイマー]
ダイヤルボタンを押してから発信するまでの時間を、5秒、9秒、11秒、13秒から選択します。
初期値：5秒

[サブアドレス識別子]
(*)ボタンをアドレスとサブアドレスの区切り子として使用しないときは「ダイヤル」に設定します。
初期値：サブアドレス識別子

[なりわけ番号］タブ
なりわけ番号を設定するとき、クリックします。（☛P133）

[着信拒否番号］タブ
着信拒否番号を設定するとき、クリックします。（☛P133）

[着信転送］タブ
着信転送を設定するとき、クリックします。（☛P135）
初期値：使用しない

[システム共通］タブ
システム共通の機能を設定するとき、クリックします。

[電話中継］タブ
電話中継元の番号を設定するとき、クリックします。

[マイプライベート着信］タブ
マイプライベート着信番号を設定するとき、クリックします。

なりわけ番号を設定する（なりわけ番号設定画面）

システム共通登録画面で［なりわけ番号］タブをクリックすると表示されます。

システム共通登録

システム共通 | なりわけ番号 | 着信拒否番号 | 電話中継 | 着信転送 | マイプライベート着信

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9

●なりわけ番号
疑似なりわけ番号を登録します。

●なりわけとは？
特定の相手からの着信時に、通常と異なる着信音を鳴らします。
特定の相手の電話番号を入力してください。

なりわけ番号の登録の他になりわけたいアナログポートで「疑似なりわけ」の設定も必要です。

登録(S)　キャンセル(C)　ヘルプ(H)

［0〜9］

疑似なりわけ（☛P52）を利用して通常の着信音と違う音で呼び出す相手の方の電話番号を登録します。10件まで登録できます。
相手の方の発信者番号が通知されない場合は通常の着信音が鳴ります。

着信拒否番号を設定する（着信拒否番号設定画面）

システム共通登録画面で［着信拒否番号］タブをクリックすると表示されます。

システム共通登録

システム共通 | なりわけ番号 | 着信拒否番号 | 電話中継 | 着信転送 | マイプライベート着信

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9

●着信拒否番号
電話に出たくない相手の電話番号を入力してください。
電話に出たくない相手からの着信時は、かけてきた相手に話中音が聞こえます。

登録(S)　キャンセル(C)　ヘルプ(H)

［0〜9］

着信を受けたくない電話番号を登録すると、登録した電話番号からの着信の際には着信を拒否することができます。（☛P51）10件まで登録できます。
相手の方の発信者番号が通知されない場合は着信します。

アナログポート共通の機能を設定するには

電話中継の設定をする（電話中継の設定画面）

システム共通登録画面で［電話中継］タブをクリックすると表示されます。

［電話中継を行う］

電話中継を行うかどうかを設定します。

初期値：行わない

［0～9］

中継元の電話番号を入力します。

着信転送の設定をする（着信転送先番号の設定画面）

システム共通登録画面で［着信転送］タブをクリックすると表示されます。
ダイヤルインおよびｉ・ナンバーをご利用の場合は、3件まで登録できます。

システム共通登録
システム共通 | なりわけ番号 | 着信拒否番号 | 電話中継 | 着信転送 | マイプライベート着信
着信転送
着信転送を使用しない
INS着信転送
擬似着信転送
転送トーキサービス
転送トーキなし、転送元トーキなし
転送トーキあり、転送元トーキなし
転送トーキなし、転送元トーキあり
転送トーキあり、転送元トーキあり

	着信転送元番号	着信転送先番号
着信転送先番号(0)	設定無し	
着信転送先番号(1)	設定無し	
着信転送先番号(2)	設定無し	

登録(S)　キャンセル(C)　ヘルプ(H)

［着信転送］

フレックスホンの着信転送を利用するか、疑似着信転送を利用するかを選択します。
初期値：使用しない

［着信転送元番号］

［着信転送元番号］をプルダウンして、転送する電話番号を選択します。プルダウンで表示される電話番号は共通アドレス設定で設定した番号です。
回線契約設定でｉ・ナンバー選択時は、ｉ・ナンバー情報も表示されます。
初期値：設定なし

［着信転送先番号］

転送先の電話番号を入力します。

［転送トーキサービス］

転送トーキと転送元トーキを流すかどうかを選択します。
初期値：転送トーキあり、転送元トーキあり

アナログポート共通の機能を設定するには

マイプライベート着信の設定をする（マイプライベート着信の設定画面）

システム共通登録画面で［マイプライベート着信］タブをクリックすると表示されます。

システム共通登録

システム共通 | なりわけ番号 | 着信拒否番号 | 電話中継 | 着信転送 | マイプライベート着信

		着信するポート アナログ 1	アナログ 2	RS-232C 71	無線
0		☑	☑	☑	全て
1		☑	☑	☑	全て
2		☑	☑	☑	全て
3		☑	☑	☑	全て
4		☑	☑	☑	全て
5		☑	☑	☑	全て
6		☑	☑	☑	全て
7		☑	☑	☑	全て
8		☑	☑	☑	全て
9		☑	☑	☑	全て

登録(S)　キャンセル(C)　ヘルプ(H)

［0～9］

マイプライベート着信（☛P54）を利用するときの電話番号を登録します。

［着信するポート］

それぞれの番号に着信があったときに呼び出すポートを選択します。

初期値：アナログポート1／2着信する、RS-232Cポート着信する、無線ポート着信する

各アナログポート（TEL1／TEL2）を設定するには

アナログポート登録画面

メインメニュー画面で［アナログポート登録］をクリックすると表示されます。TEL1ポートの登録を行うときは、［アナログポート1］タブを、TEL2ポートの登録を行うときは、［アナログポート2］タブをクリックします。ここでは、アナログポート1登録画面を例に説明します。

［発信者番号通知］

このポートからの発信時に発信者番号を通知するかどうかを選択します。

初期値：INSネット64申込内容に従う

［接続機器］

このアナログポートに接続する機器を設定します。接続しないときは、「使用しない」を選択してください。

初期値：電話

［キャッチホン］

疑似キャッチホンやフレックスホンのINSキャッチホンを利用するときに設定します。

初期値：使用しない

［ナンバーディスプレイを使用する］

ナンバー・ディスプレイを利用するかどうか選択します。

初期値：使用しない

［発サブアドレスを付加する］

ナンバー・ディスプレイを利用するとき、発サブアドレスを付けるか選択します。

初期値：付加しない

［キャッチホンディスプレイを使用する］

キャッチホン・ディスプレイを利用するかどうか選択します。

初期値：使用しない

［発サブアドレスを付加する］

キャッチホン・ディスプレイを利用するとき、発サブアドレスを付けるか選択します。

初期値：付加しない

（次ページへ続く）

各アナログポート（TEL1／TEL2）を設定するには

[受話音量]

受話音量を設定します。

初期値：中

[停電時の動作を行う]

電池動作モード時発着信できるようにするときに選択します。

初期値：行う（アナログポート1）／行わない（アナログポート2）

[詳細設定]

アナログポートの詳細設定を行うとき、クリックします。

アナログポート詳細設定画面

アナログポート登録画面で［詳細設定］をクリックすると表示されます。ここではアナログポート1詳細設定画面を例に説明します。

［サブアドレス通知をする］

このポートからの発信時にサブアドレスを通知するかどうかを選択します。

初期値：通知をしない

［サブアドレス］

サブアドレス通知をする場合、通知するサブアドレスを入力します。

初期値：アナログポート1…1
　　　　アナログポート2…2

［モデムダイヤルインを使用する］

モデムダイヤルインを使用するかどうかを選択します。

初期値：使用しない

［番号の送出方法］

モデムダイヤルインで着信する番号を設定するとき、クリックします。

［HLCの設定（高位レイヤ整合性）］

高位レイヤ整合性を設定するかどうかを選択します。

初期値：設定しない

［フッキングタイマー］

フッキングタイマーを短い、普通、長いの中から選択します。

初期値：普（普通）

［FAX無鳴動着信を行う］

ファクスの無鳴動着信を利用するかどうかを選択します。

初期値：行わない

（次ページへ続く）

各アナログポート（TEL1／TEL2）を設定するには

[疑似なりわけを行う]

疑似なりわけを利用するかどうかを選択します。

初期値：行わない

[INSなりわけを行う]

INSなりわけサービスを利用するかどうかを選択します。

初期値：行わない

[リバースパルスを送出する]

リバースパルスの検出によって通話を終了する電話機を接続するとき、「送出する」に設定します。

初期値：送出する

[サブアドレス無し着信をする]

サブアドレスが指定されていない着信を受けるかどうかを選択します。

初期値：着信する

- **FAX無鳴動着信とは**
  着信したときにFネット信号（1300Hz信号）を送出します。Fネット無鳴動受信に対応したファクスをご利用になると着信音を鳴らさずに自動でファクスを受信することができます。
  電話がかかってきた場合も着信音は鳴りませんので、本機能を利用するときは、ｉ・ナンバーやダイヤルインで追加番号を契約し、着信するポートを本機能を設定したポートのみに登録してファクス受信専用番号としてお使いください。

- **サブアドレス通知をする設定にしても、発信者番号通知を通知する設定をしないとサブアドレスは通知しません。**

アナログポート（番号の送出方法設定（i・ナンバーを使用しない場合）画面）

アナログポート詳細設定画面で［番号の送出方法］をクリックすると表示されます。ここでは、アナログポート1の設定画面を例に説明します。

アナログポート－番号の送出方法

変換後の番号

契約者回線番号
ダイヤルイン番号1
ダイヤルイン番号2
ダイヤルイン番号3
ダイヤルイン番号4
ダイヤルイン番号5
ダイヤルイン番号6
ダイヤルイン番号7

登録(S)　キャンセル(C)　ヘルプ(H)

[契約者回線番号]、[ダイヤルイン番号1～7]

共通アドレスで登録した契約者回線番号、ダイヤルイン番号を表示します。

[変換後の番号]

モデムダイヤルインで使用する変換後の番号（最大4桁）を入力します。

アナログポート（番号の送出方法設定（i・ナンバーを使用する場合）画面）

アナログポート詳細設定画面で［番号の送出方法］をクリックすると表示されます。ここでは、アナログポート1の設定画面を例に説明します。

アナログポート－番号の送出方法

変換後の番号

i・ナンバー情報 1
i・ナンバー情報 2
i・ナンバー情報 3

登録(S)　キャンセル(C)　ヘルプ(H)

[i・ナンバー情報1～3]

共通アドレスで登録した i・ナンバーの電話番号を表示します。

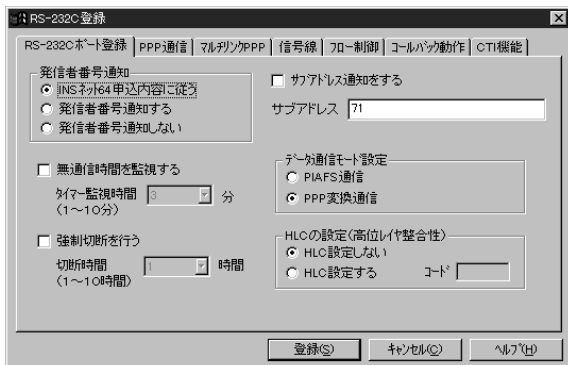
[変換後の番号]

モデムダイヤルインで使用する変換後の番号（最大4桁）を入力します。

RS-232Cポートを設定するには

RS-232Cポート登録画面

メインメニュー画面で［RS-232Cポート登録］をクリックすると表示されます。



[発信者番号通知設定]

RS-232Cポートからの発信時に発信者番号を通知するかどうかを選択します。

初期値：INSネット64申込内容に従う

[サブアドレス通知をする]

RS-232Cポートからの発信時にサブアドレスを通知するかどうかを選択します。

初期値：通知しない

[サブアドレス]

サブアドレスを通知する場合、通知するサブアドレスを入力します。

初期値：71

[無通信時間を監視する]

一定時間通信がなかったとき、自動的に切断するかどうかを選択します。「監視する」を選択したときは、［タイマー監視時間］（自動的に切断する時間）を分単位で入力します。

初期値：10分

[強制切断を行う]

一定時間経過したとき、自動的に切断するかどうかを選択します。「強制切断を行う」を選択したときは、切断時間を時間単位で入力します。

初期値：10時間

[データ通信モード設定]

RS-232CポートでPIAFS通信を行うか、PPP変換通信を行うかを選択します。

初期値：PPP変換通信

[HLCの設定]

HLC高位レイヤ整合性を指定するときは「HLC設定する」を選択し「01」〜「127」のコードを入力します。

［RS-232Cポート登録］タブ
RS-232Cポートの機能を設定するとき、クリックします。
［PPP通信］タブ
PPP通信の設定を行うとき、クリックします。（☛P144）
［マルチリンクPPP］タブ
マルチリンクPPP通信の設定を行うとき、クリックします。（☛P145）
［信号線］タブ
信号線の設定を行うとき、クリックします。（☛P146）
［フロー制御］タブ
フロー制御の設定を行うとき、クリックします。（☛P147）
［コールバック動作］タブ
コールバック動作の設定を行うとき、クリックします。（☛P148）
［CTI機能］タブ
CTI機能の設定を行うとき、クリックします。（☛P149）

HLCコード表

コード	種別
01	電話
04	G2/G3ファクス
33	G4ファクス
36	ミックスモード
49	テレテックス
50	ビデオテックス
53	テレックス
56	メッセージ処理システム
65	OSIアプリケーション

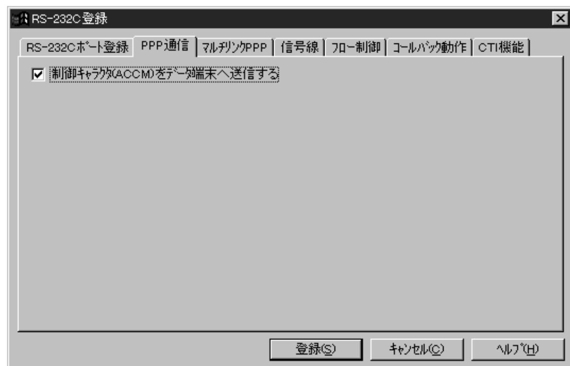
お知らせ

- **無通信監視タイマを「監視する」に設定しても、インターネットサービスプロバイダによっては監視パケットなどを定期的に発信することがあり、自動的に切断されない場合があります。この場合は必ずパソコンから切断操作を行ってください。**

RS-232Cポートを設定するには

PPP通信の設定をする（PPP通信の設定画面）

RS-232Cポート登録画面で［PPP通信］タブをクリックすると表示されます。



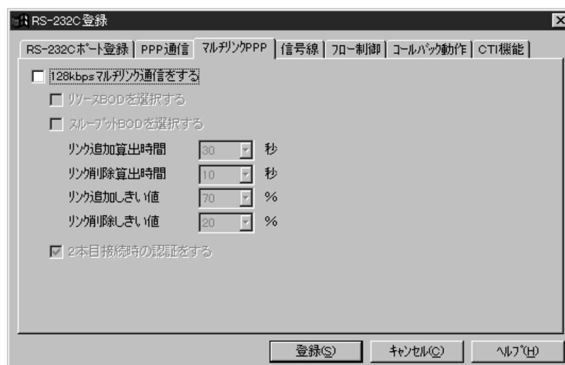
［制御キャラクタ（ACCM）をデータ端末へ送信する］

PPP通信時、データ端末へ制御キャラクタ（ACCM）を送信するかどうかを選択します。

初期値：制御キャラクタ（ACCM）をデータ端末へ送信する。

マルチリンクPPP通信の設定をする（マルチPPPの設定画面）

RS-232Cポート登録画面で［マルチリンクPPP］タブをクリックすると表示されます。



［128 kbpsマルチリンクPPP通信をする］
マルチリンクPPP通信を行うかどうかを選択します。
初期値：128 kbpsマルチリンクPPP通信を行わない

［リソースBODを選択する］
リソースBODを利用するときに設定します。
初期値：リソースBODを選択しない

［スループットBODを選択する］
スループットBODを利用するときに設定します。
初期値：スループットBODを選択しない

・リンク追加算出時間：スループットBODを利用するときのリンク追加算出時間を10～60秒の範囲を10秒単位で設定します。
初期値：30秒
・リンク削除算出時間：スループットBODを利用するときのリンク削除算出時間を10～60秒の範囲を10秒単位で設定します。
初期値：10秒
・リンク追加しきい値：スループットBODを利用するときのリンク追加しきい値を60～90 %の範囲を10 %単位で設定します。
初期値：70 %
・リンク削除しきい値：スループットBODを利用するときのリンク削除しきい値を10～40 %の範囲を10 %単位で設定します。
初期値：20 %

［2本目接続時の認証をする］
2本目のBチャネルを接続するときの認証について設定します。
初期値：2本目接続時の認証をする

お知らせ

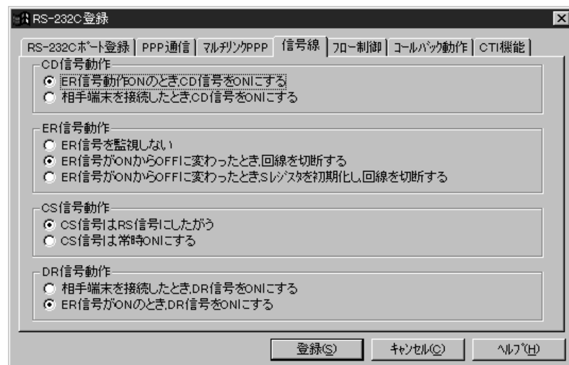
- **128Kマルチリンクで接続時には非同期／同期PPP変換の倍の通信料金が必要になります。**

3
INSメイトFT50の設定

RS-232Cポートを設定するには

信号線の設定をする（信号線の設定画面）

RS-232Cポート登録画面で［信号線］タブをクリックすると表示されます。



［CD信号動作］

CD信号（INSメイトFT50がデータ端末にデータ受信を要求する信号）について設定します。

初期値：ER信号動作ONのとき、CD信号をONにする

［ER信号動作］

ER信号（データ端末が動作準備できているかどうかをINSメイトFT50に知らせる信号）について設定します。

初期値：ER信号がONからOFFに変わったとき、回線を切断する

［CS信号動作］

CS信号（INSメイトFT50がデータ端末にデータ送信可を知らせる信号）について設定します。RS信号は、データ端末がINSメイトFT50に送るデータ送信を要求する信号です。

初期値：CS信号は、RS信号に従う

［DR信号動作］

DR信号（INSメイトFT50が動作準備できているかどうかをデータ端末に知らせる信号）について設定します。

初期値：ER信号がONのとき、DR信号をONにする

フロー制御の設定をする（フロー制御の設定画面）

RS-232Cポート登録画面で［フロー制御］タブをクリックすると表示されます。

［フロー制御］

フロー制御の方法を選択します。

初期値：RS／CSでフロー制御

RS-232Cポートを設定するには

コールバック動作の設定をする（コールバック動作の設定画面）

RS-232Cポート登録画面で［コールバック動作］タブをクリックすると表示されます。

[コールバックする]

コールバックをするかどうかを選択します。コールバックするときは、「着信ガードタイム」を設定します。

初期値：コールバックしない

[着信ガードタイム]

クライアント側ではコールバック発信後、他からの着信を一定時間受け付けないように設定できます。0〜255秒の範囲で設定します。

初期値：30秒

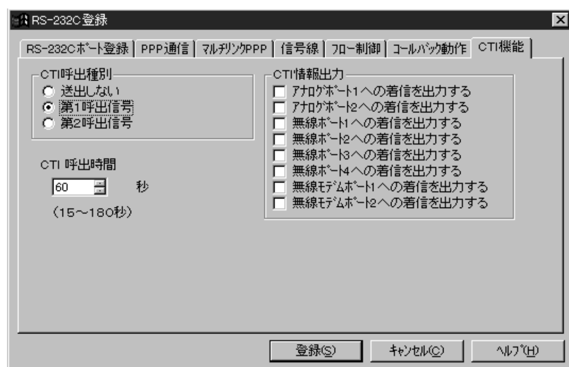
[再発信あり]

再発信するかどうかを選択します。

初期値：再発信しない

CTI機能の設定をする（CTI機能の設定画面）

RS-232Cポート設定画面で［CTI機能］タブをクリックすると表示されます。
設定したい項目のボタンをクリックします。



［CTI呼出種別］

RS-232CポートからのCTI発信時にアナログポートに接続された機器の着信音を鳴らすかどうか選択します。

初期値：第1呼出信号

［CTI呼出時間］

RS-232CポートからのCTI発信時にアナログポートに接続された機器のハンドセットを取りあげるまでの時間を15〜180秒の範囲で指定します。

初期値：60秒

［CTI情報出力］

着信時にRS-232Cポートで着信情報を表示するか設定します。

着信情報を表示したいポートを選択します。

初期値：設定なし

無線ポートを設定するには

無線ポート登録画面（無線ポートの設定画面）

メインメニュー画面で［無線ポート登録］をクリックします。

［発信者番号通知］

このポートからの発信時に発信者番号を通知するかどうかを選択します。

初期値：INSネット64申込内容に従う

［データ通信モード］

無線ポートでPIAFS通信（透過通信）を行い、INSメイトFT50で変換しない通信を行うか、PPP変換通信を行うかを選択します。

初期値：PPP変換通信

［キャッチホン］

疑似キャッチホンやフレックスホンのINSキャッチホンを利用するときに設定します。

初期値：使用しない

お知らせ

- **PIAFS/同期PPP変換をご利用になる場合は次の場合はご利用できません。**
  ・INSメイトFT50に接続したパソコンで、PPP通信/MP通信中
  ・他の無線ポートに接続したデータ通信機器がPIAFS/同期PPP変換で通信中
  またPIAFS/同期PPP変換で通信中は、INSメイトFT50に接続したパソコンからPPP通信/MP通信はご利用できません。
- **通信圏外の場合は**
  通信圏外が表示されたときはINSメイトFT50に近づいてください。
  （お使いの機器により通信圏外表示は異なります。）
- **PIAFS64Kモードのときは、発信者番号通知を行うようにしてください。**

無線サブアドレスを設定する（無線サブアドレス設定画面）

メインメニュー画面で［無線ポート登録］をクリックし、［無線ポート（サブアドレス）］タブをクリックします。

無線ポート登録
無線ポート登録　無線サブアドレス
通知　サブアドレス
無線ポート1 (3)　3
無線ポート2 (4)　4
無線ポート3 (5)　5
無線ポート4 (6)　6
無線データポート1 (72)　72
無線データポート2 (73)　73
無線モデムポート1 (76)　76
無線モデムポート2 (77)　77
登録(S)　キャンセル(C)　ヘルプ(H)

［通知］

無線ポートからの発信時にサブアドレスを通知するかどうか選択します。

［サブアドレス］

サブアドレスを通知する場合、通知するサブアドレスを入力します。

初期値：無線ポート3…3
無線ポート4…4
無線ポート5…5
無線ポート6…6
無線データポート1…72
無線データポート2…73
無線モデムポート1…76
無線モデムポート2…77

各種情報を表示するには（各種情報表示画面）

累積料金を表示する（累積料金の表示画面）

メインメニュー画面で［各種情報表示］をクリックすると表示されます。
各ポートの通信料金の累積が表示されます。

各種情報表示

累積料金 | 着信履歴

項目	金額	
累積通信料金	0	円
ｱﾅﾛｸﾞﾎﾟｰﾄ1累積通信料金	0	円
ｱﾅﾛｸﾞﾎﾟｰﾄ2累積通信料金	0	円
無線ﾎﾟｰﾄ1累積通信料金	0	円
無線ﾎﾟｰﾄ2累積通信料金	0	円
無線ﾎﾟｰﾄ3累積通信料金	0	円
無線ﾎﾟｰﾄ4累積通信料金	0	円
無線ﾃﾞｰﾀﾎﾟｰﾄ1累積通信料金	0	円
無線ﾃﾞｰﾀﾎﾟｰﾄ2累積通信料金	0	円
無線ﾓﾃﾞﾑﾎﾟｰﾄ1累積通信料金	0	円
無線ﾓﾃﾞﾑﾎﾟｰﾄ2累積通信料金	0	円
RS-232Cﾎﾟｰﾄ累積通信料金	0	円

ｸﾘｱ(C)

終了(E)　ﾍﾙﾌﾟ(H)

［累積料金］タブ

各ポートの通信料金の累積を表示するとき、クリックします。

［着信履歴］タブ

着信履歴を表示するとき、クリックします。（☛P153）

ワンポイント

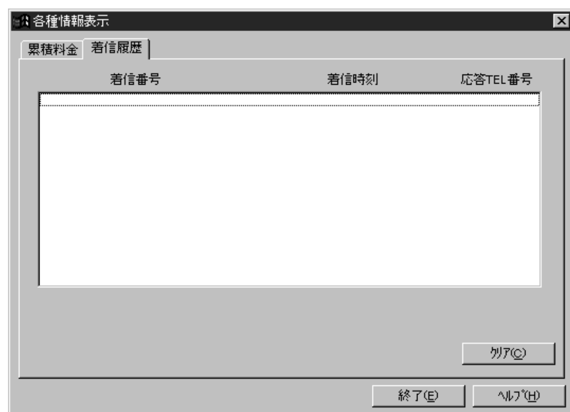
- **累積料金情報をクリアするには**
  ［クリア］をクリックすると、累積料金情報がクリアされ、「0円」と表示されます。

お知らせ

- **料金は、通信終了時にINSネット64から通知される料金情報を利用して表示されます。おかけになった相手先によっては、INSネット64から料金情報が通知されない場合があります。**
- **料金は目安ですので、請求書の額と一致しないことがあります。また、1円未満は切り捨てられます。**
- **画面に表示される料金の最大表示額は、9999999円です。**

着信履歴を表示する（着信履歴の表示画面）

各種情報表示画面で［着信履歴］タブをクリックすると表示されます。
着信履歴（電話番号や非通知理由、着信日時、着信内線番号など）が表示されます。



[着信番号]
相手の方の電話番号や、非通知の理由を表示します。

[着信時刻]
着信した日時を表示します。

[応答TEL番号]
着信に応答した機器の内線番号を表示します。
応答しなかったときは00と表示します。

- **着信履歴情報をクリアするには**
  ［クリア（C)］をクリックすると、着信履歴情報がクリアされます。

3 INSメイトFT50の設定

日付・時刻を設定するには

日付・時刻設定画面

メインメニュー画面で［カレンダー設定］をクリックすると表示されます。

カレンダー設定
00 年 9 月 12 日 18 時 48 分
(西暦:下2桁、時刻:24時間制)
登録(S) キャンセル(C) ヘルプ(H)

[カレンダー設定]

年：西暦下2桁を入力します。
月、日：1桁の場合は、0も入力します。
時、分：24時間制で入力します。1桁の場合は、0も入力します。
初期値：パソコンに登録されている日付と時刻。

タイマー機能設定画面

メインメニュー画面で［タイマー機能］をクリックすると表示されます。

タイマー設定
タイマー1 タイマー2 タイマー3
タイマー設定1 使用する
開始時刻 毎日 曜日 0 時 00 分
終了時刻 曜日 0 時 00 分
着信転送 しない INS着信転送 疑似着信転送
優先着信 優先しない アナログポート1 アナログポート2 無線ポート1 無線ポート2 無線ポート3 無線ポート4
電話中継 行わない 行う
INSメイトFT50の時間を指定します。
設定シート1～3の時間が重複した場合は、若番の設定が有効となります。
タイマー設定時間外は、元の設定が有効となります。
登録(S) キャンセル(C) ヘルプ(H)

[開始時刻]

タイマーを開始する時刻を入力します。

[終了時刻]

タイマーを終了する時刻を入力します。

[着信転送]

着信転送でタイマー機能を利用するかどうかを選択します。
初期値：行わない

[優先着信]

優先着信でタイマー機能を利用するかどうかを選択します。
初期値：行わない

[電話中継]

タイマー機能を利用するかどうかを選択します。

初期値：行わない

印刷

メインメニュー画面で［印刷］をクリックすると、設定内容を印刷することができます。

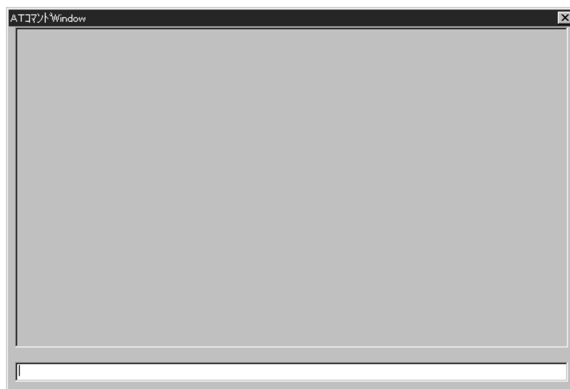
```
======ＩＮＳメイトＦＴ５０　設定記入シート=======

================共通設定アドレス設定==========================

回線契約設定　:--------------------
　　　●ダイヤルイン　○ｉ・ナンバー
グローバル着信：　□行わない　　　■行う
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　RS-　　　　　　上段：着信ポート
　　　　　　　　　　番号　　　　　変換後 ｱﾅﾛｸﾞ 232C　　無線　下段：発信ポート
　　　　　　　　　　　　　　　　　の番号　1　2　71　3　4　5　6　72　73　76　77
契約者回線番号　:0312345678　　　　　　■　■　■　■　■　■　■　■　■　■　■
　　　　　　　　:　　　　　　　　　　　　●　●　●　●　●　●　●　●　●　●　●
　　　　　　　　　　　　　　　　　　・
　　　　　　　　　　　　　　　　　　・
　　　　　　　　　　　　　　　　　　・
```

ATコマンドWindow

メインメニュー画面で［ATコマンドWindow］をクリックすると、ATコマンドの入力用ウィンドウが表示されます。



ATコマンドについては「ATコマンド形式」以降（☛P161〜193）を参照してください。

- **ATコマンドWindowでデータ通信を行うことはできません。**

INSメイトFT50のバージョンアップを行うには

バージョンを確認する（バージョン情報画面）

メインメニュー画面で［バージョン情報］をクリックすると表示されます。

[製品情報]

INSメイトFT50の製品名称とメーカー名が表示されます。

[バージョン情報]

ファームウェアのバージョンが表示されます。

確認したら、［OK］をクリックしバージョン表示画面を終了します。

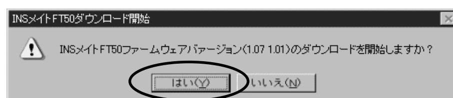
ワンポイント

- **ATコマンドでバージョンを確認することもできます。****（☛P167）**
  ATI3

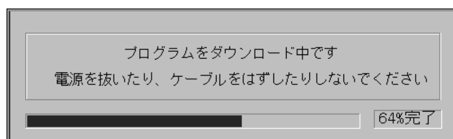
INSメイトFT50はファームウェアのバージョンアップを行うことができます。
バージョンアップソフトウェアは、NTT通信機器商品のご案内ホームページにアップロードしていく予定です（http://www.ntt-east.co.jp/ced/、http://www.ntt-west.co.jp/kiki/）。
バージョンアップの操作手順を以下に説明します。
ダウンロードの方法は、NTT通信機器商品のご案内ホームページを参照してください。

バージョンアップを行う

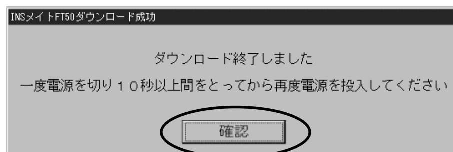
1 ダウンロードし保存しておいたファイルを実行します。



2 ［はい］をクリックします。



3 バージョンアップが終了すると次の画面が表示されます。



4 確認をクリックしてください。

5 一度電源を切り10秒以上の間をとってから再度電源を入れ直してください。

ワンポイント

- バージョンアップにかかる時間は
  INSメイトFT50とパソコン間の通信速度やお使いになるパソコンの能力にもよりますが、およそ5分から15分で終了します。
- ファームウェアとは
  INSメイトFT50に内蔵されているフラッシュメモリーに書き込まれるソフトウェアのことです。新しいバージョンのファームウェアをINSメイトFT50に書き込むことにより、新しい機能を利用することができます。

お知らせ

- バージョンアップに失敗したときは、「バージョンアップ失敗」の画面を表示して終了します。
  その場合は、電源を切り再度電源を立ち上げて手順1からやり直してください。
  バージョンアップを正常に終了させないと、INSメイトFT50が動作できなくなります。
  バージョンアップを実行したときでも、バージョンアップ前のINSメイトFT50の設定は保存されます。

設定を初期化するには

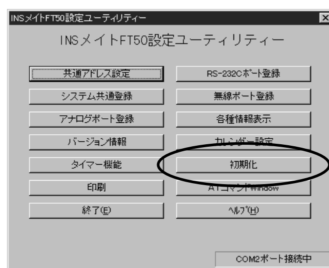
INSメイトFT50の設定をお買い求め時の設定に戻すことができます。次の方法で設定値を初期値（お買い求め時の設定値）に戻すことができます。

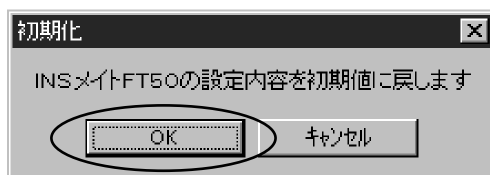
- 設定ユーティリティ（すべて）
- ATコマンド（すべて、Sレジスタ）
- アナログポート（共通アドレス＆アナログポート＆無線ポート）
- 初期化スイッチ（すべて）

ここでは設定ユーティリティからの初期化を説明します。

初期化画面

メインメニュー画面で［初期化］をクリックすると表示されます。





［OK］をクリックします。
すべての設定値が初期値（お買い求め時の設定値）に戻ります。

ワンポイント

- 初期化スイッチで設定を初期化するにはINSメイトFT50の左側面にある、初期化スイッチ（☛P29）を細い棒などで3秒以上押し続けてください。初期化されると自己診断が始まります。その際に金属製の物などは絶対に使わないようにしてください。感電・故障の原因となることがあります。

お知らせ

- 初期化を行うと、設定ユーティリティ、ATコマンド、電話機からの設定で、INSメイトFT50に設定した内容はすべて無効になり、お買い求め時の内容に戻ります。

ATコマンドを入力するには

設定ユーティリティのATコマンドWindow（☛P155）または、通信ソフトウェア（Windows® 98のハイパーターミナルなど）を利用して、ATコマンドを入力します。また、「AT」と入力することにより、INSメイトFT50が正しく接続されていることを確認することができます。ATコマンドについては「ATコマンド形式」以降（☛P161～193）を参照してください。

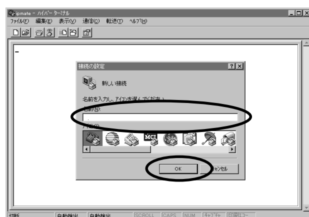
〈例〉Windows® 98のハイパーターミナルを利用する場合

1 ［スタート］をクリックして、［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］の順にポイントし、［ハイパーターミナル］をクリックします。

「ハイパーターミナル」が表示されます。

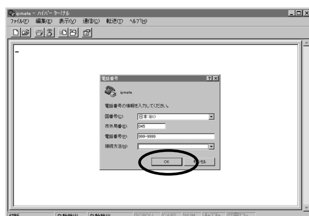
2 ［Hypertrm］アイコンをダブルクリックします。

［接続の設定］ダイアログボックスが表示されます。



3 ［名前］に任意の名前を入力し［OK］をクリックします。

INSメイトFT50の設定用の名前を付けて保存すると便利です。

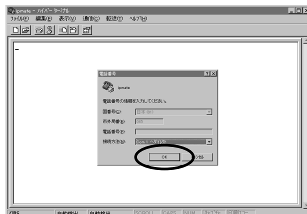


（次ページへ続く）

ATコマンドを入力するには

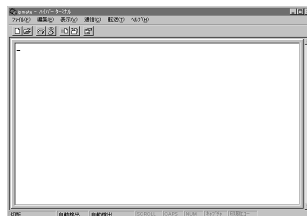
4 ［接続方法］にINSメイトFT50が接続されているポートへのダイレクトを選択し、［OK］をクリックします。

「COM1プロパティ」が表示されます。
〈例〉com1ポートに接続しているとき…「com1へダイレクト」



5 通信速度などの設定を入力し、［OK］をクリックします。

ATコマンドを入力できる状態になります。



6 「AT」を入力し、リターン（またはEnter）を押します。

INSメイトFT50が正しく接続されているときは、「OK」と表示されます。

- **ATコマンドとは**
  ATコマンドとは、データ通信を行うときにINSメイトFT50に対して設定を命令するためのコマンドです。
  Windows® 95／Windows® 98／Windows® Meではハイパーターミナルが標準で添付されています。ソフトのインストールや設定についての詳細は、ATコマンド用アプリケーションソフトやパソコンなどの取扱説明書を参照してください。
- **「OK」と表示されないときは**
  「OK」と表示されないときは、以下の点を確認してください。
  ・RS-232Cケーブル
  INSメイトFT50とご利用になるパソコンに適合したRS-232Cケーブルを使用しているか確認してください。

- **「ハイパーターミナル」以外の通信ソフトウェアをご利用の場合は、お使いのソフトウェアの説明書などを参照して起動し、ATコマンドを入力してください。**
- **ATコマンド入力についての詳細は、各ソフトウェアメーカー、インターネットサービスプロバイダ、パソコン通信業者にお問い合わせください。**

ATコマンド形式

ATコマンドは、米国Hayes社が開発したモデムを制御するコマンドで、多くのモデムで採用されています。INSメイトFT50は、ATコマンドに準拠しており、さらに拡張コマンドを採用しています。ATコマンドで行う設定の主な項目は、設定ユーティリティをご利用になると簡単に設定することができます。（☛P114）

コマンド形式

ATコマンドは以下の形式で入力します。

A	T	コマンド	CR	LF

- 文字は半角を使用してください。
- ATは「at」でもかまいませんが、「At」や「aT」は使用しないでください。
- コマンドは最大255文字まで入力できます。256文字以上は入力できません。
- 複数のコマンドを連続して入力することもできます。
- コマンドの中には、コマンドのうしろにパラメータ（n）の必要なものもあります。
- CR（リターンキー）は復帰文字であり、コマンドの区切りを示します。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- LFは省略できます。
- LFは改行文字です。改行文字はS4レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。

リザルトコード

送出したコマンドに対して表示される本商品からの応答結果を、リザルトコードといいます。表示されるリザルトコードには、数字形式と文字（英字）形式があり、ATVコマンドで選択することができます。

〈数字形式〉

リザルトコード（数字）	CR

〈文字形式〉

CR	LF	リザルトコード（文字）	CR	LF

リザルトコード一覧（☛P194）

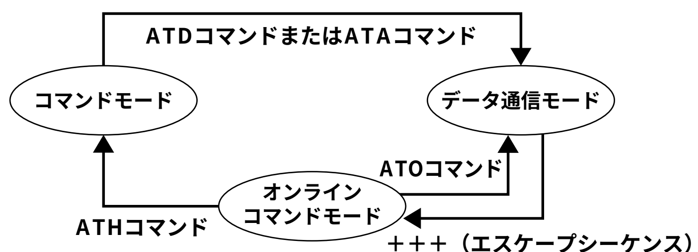
レジスタ

レジスタは、設定内容を記憶しておく場所です。INSメイトFT50のレジスタには、以下のものがあります。
Sレジスタ…データ端末の設定（☛P195）
@Aレジスタ…データ端末の設定（☛P196）

ATコマンド一覧

コマンドモードとデータ通信モード

「コマンドモード」のときは、パソコンから入力した文字はINSメイトFT50で解釈され、INSメイトFT50の制御コマンドとみなされます。データ通信モードのときは、実際にデータ通信が行われている状態で、パソコンから入力した文字はそのまま通信相手へ送信されます。パソコンから送信したデータが、INSメイトFT50を制御するデータなのか、相手に送信するデータなのかを区別するために、これら2つのモードが用意されています。INSメイトFT50は電源を入れた状態では、コマンドモードになっており、ATDコマンド（発信）でダイヤルしたあと、または着信時にATAコマンドで応答したあとに、データ通信モードに切り替わります。
データ通信モードから一時的にコマンドモードに切り替えたモードをオンラインコマンドモードと呼び、そのためのコマンドとしてエスケープシーケンス（+++）があります。
回線を切断するときは、「+++」でオンラインコマンドモードに切り替えたあと、ATHコマンドで切断します。



■ ATコマンド一覧

コマンド	説　明	保　存	参照ページ
ATA	応答します。		☛P166
ATD	パラメータで指定したアドレスに発信します。		☛P166
ATE	エコーをするか、しないかを設定します。	○	☛P166
ATH	通信を切断します。		☛P166
ATI	INSメイトFT50の製品情報を表示します。		☛P167
ATO(オー)	エスケープ状態（オンラインコマンドモード）から通信状態に移行します。		☛P167
ATQ	リザルトコードを表示するかどうかを設定します。	○	☛P167
ATV	リザルトコードの表示形式を設定します。	○	☛P167
ATW	RING（リザルトコード）にINSネット64回線から提供される情報を表示するかどうかを設定します。	○	☛P167
ATX	表示させるリザルトコードの範囲を選択します。	○	☛P167
ATZ	さまざまな情報を初期化します。		☛P168
AT&C	CD信号の動作を設定します。	○	☛P168
AT&D	ER信号がONからOFFに変わったときの動作を設定します。	○	☛P168
AT&K	フロー制御を設定します。	○	☛P168

コマンド	説　明	保　存	参照ページ
AT&M	コールバックの動作を設定します。	○	☛P169
AT&R	CS信号の動作を設定します。	○	☛P169
AT&S	DR信号の動作を設定します。	○	☛P169
AT&V	Sレジスタの内容を一覧表示します。		☛P169
AT&W	ATコマンドのパラメータとレジスタの値を保存します。		☛P169
AT#C	切断情報を表示します。		☛P170
AT#R	着信を拒否します。		☛P170
AT#M	通信モードの設定と表示を行います。	○	☛P170
AT#S	呼の確立中か否かを問い合わせます。		☛P170
AT$M	128KマルチリンクPPP通信の設定と表示を行います。	○	☛P171
AT¥Q	フロー制御を選択します。	○	☛P171
AT¥S	装置状態を表示します。		☛P171
AT¥Z	通信時に通信モードおよびデータ圧縮方式を表示するかどうかを設定します。	○	☛P172
AT@A	@Aレジスタの設定と表示を行います。	○	☛P172
ATS	Sレジスタの設定と表示を行います。	○	☛P172
AT¥H	ATコマンドのヘルプを表示します。		☛P172
A／	直前に入力したATコマンドラインを繰り返します。		☛P172
AT$I	なりわけ番号の登録と表示を行います。	◎	☛P173
AT$J	着信拒否番号の登録と表示を行います。	◎	☛P173
AT#W	契約者回線番号、ダイヤルイン番号を登録します。	◎	☛P173
AT#I	契約者回線番号、ダイヤルイン番号を表示します。		☛P174
AT!W	ｉ・ナンバーを登録します。	◎	☛P174
AT!I	ｉ・ナンバーを表示します。		☛P175
AT$G	グローバル着信をするかどうかの設定と表示を行います。	◎	☛P175
AT$D	システム共通情報の設定と表示を行います。	◎	☛P176
AT$F	回線契約設定と表示を行います。	◎	☛P177
AT$E	日付・時刻を設定します。	◎	☛P177
AT$P	電話中継の設定と表示を行います。	◎	☛P191
AT$Q	電話中継の電話転送元番号を登録します。	◎	☛P191
AT\C	ポートごとの累積料金を表示します。	◎	☛P177
AT\L	ポートごとに蓄積された着信履歴情報を表示します。	◎	☛P178
AT$A	TEL1ポートの設定と表示を行います。	◎	☛P178
AT$B	TEL2ポートの設定と表示を行います。	◎	☛P180
AT%A	無線ポート1の設定と表示を行います。	◎	☛P182
AT%B	無線ポート2の設定と表示を行います。	◎	☛P183
AT%C	無線ポート3の設定と表示を行います。	◎	☛P184
AT%D	無線ポート4の設定と表示を行います。	◎	☛P185
AT%E	無線データポート1の設定と表示を行います。	◎	☛P186
AT%F	無線データポート2の設定と表示を行います。	◎	☛P187

（次ページへ続く）

ATコマンド一覧

コマンド	説　明	保　存	参照ページ
AT%G	無線モデムポート1の設定と表示を行います。	◎	☛P192
AT%H	無線モデムポート2の設定と表示を行います。	◎	☛P192
AT$N	RS-232Cポートの設定と表示を行います。	○※	☛P188
AT$L	液晶ディスプレイのバックライトの設定と表示を行います。	◎	☛P189
AT$H	着信転送先番号、着信転送元番号、転送トーキの設定を表示します。		☛P189
AT$X	着信転送と転送トーキを設定します。	◎	☛P189
AT$Y	着信転送先アドレスを登録します。	◎	☛P190
AT$Z	着信転送元アドレスを登録します。	◎	☛P190
AT+SO	登録済み無線子機の情報を表示します。		☛P193
AT!D	CTI発信を行います。		☛P190
AT!H	CTI発信のキャンセルを行います。		☛P190
AT!C	CTI情報出力の設定を行います。		☛P193
AT￥W	マイプライベート着信設定		☛P190
AT￥I	マイプライベート着信表示		☛P191

◎は、コマンドを入力したときに保存される内容です。○は、AT&Wコマンドで保存される内容です。
※自己アドレスと自己サブアドレスはコマンド入力時に保存されます。

■ 切断理由一覧

	CAUSE=	説　明
正常クラス	001	欠番
	002	中断網ルートなし
	003	相手ルートなし
	006	チャネル不許可
	007	設定済みのチャネルへ着呼
	016	正常切断
	017	着ユーザビジー
	018	着ユーザ応答なし
	019	相手ユーザ呼び出し中、応答なし
	021	相手ユーザ通信拒否
	022	相手端末番号変更
	026	選択されなかったユーザの切断復旧
	027	相手端末故障中
	028	無効番号フォーマット（不完全番号）
	029	ファシリティ拒否
	030	状態問い合わせ応答
	031	その他

	CAUSE=	説　明
リソース使用不可クラス	034	利用可回線／チャネルなし
	038	網故障
	041	一時的故障
	042	交換機輻輳
	043	アクセス情報破棄
	044	要求チャネル利用不可
	047	その他
サービス提供不可	049	QOS利用不可
	050	要求されたファシリティ不可
	057	伝達能力不許可
	058	現在利用不可伝達能力
	063	その他
サービス未提供クラス	065	未提供伝達能力指定
	066	未提供チャネル種別指定
	069	未提供ファシリティ要求
	070	制限ディジタル情報能力のみ可能
	079	その他
無効メッセージクラス	081	無効呼番号使用
	082	無効チャネル番号使用
	083	指定された中断呼識別番号未使用
	085	中断呼なし
	086	指定された中断呼は既に切断復旧済み
	088	端末属性不一致
	091	無効中継網選択
	095	その他
手順誤りクラス	096	必須情報要素不足
	097	メッセージ種別未定義
	098	呼状態とメッセージ不一致、またはメッセージ種別未定義
	099	情報要素なし、または未定義
	100	無効情報要素内容
	101	呼状態とメッセージ不一致
	102	タイマ満了の回復
	111	その他
ｲﾝﾀﾜｰｷﾝｸﾞ	127	その他

ATコマンド詳細

INSメイトFT50本体に接続されているデータ端末からATコマンドを設定するときにご覧ください。

A	応答
機能	応答します。
書式	A
入力例	ATA

D	発信	
機能	パラメータで指定したアドレスに発信します。	
書式	D<パラメータ1>＊<パラメータ2><パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	相手アドレス（最大32桁） R：リダイヤル
	<パラメータ2>	相手サブアドレス（最大19桁） ‘＊’→区切りをアドレスとサブアドレスの間に入れる 区切りは変更可能（☛P196）
	<パラメータ3>	CB：コールバック発信 PF：PIAFS32Kモードで発信 PD：PIAFS64Kモードで発信 ［ ：ユーザデータ
入力例	ATD0312345678＊123	
補足	•アドレスとして使用できる文字は0〜9、＊、＃です。 文字は入力しても無視されます。 •<パラメータ2>では英数字の指定ができます。 •CB指定時は合わせてコールバックする（&M1＝1）にしてください。 また、発信側、着信側ともにフロー制御の設定（&K3または&K4）をしてください。 •CB指定時の相手サブアドレスは最大15桁に制限されます。 •CB、PF、PD指定発信の再発信はできません。 •CB、PF、PDは必ず最後につけてください。 •CB、PF、PDはcb、pf、pdでもかまいません。 •ユーザデータは最大128桁の英数字が使用できます。	

E	エコー制御	
機能	エコーをするか、しないかを設定します。	
書式	En	
サフィックス	n=0	エコーバックしない
	n=1	エコーバックする（初期値）
入力例	ATE1	

H	切断
機能	通信を切断します。
書式	H
入力例	ATH

I	製品情報表示	
機能	INSメイトFT50の製品情報を表示します。	
書式	In	
サフィックス	n=2	装置名
	n=3	バージョン
	n=4	装置ブランド名
入力例	ATI2	

O（オー）	通信状態復帰
機能	エスケープ状態（オンラインコマンドモード）からデータ通信状態に移行します。
書式	O（オー）
入力例	ATO

Q	リザルトコードの有無	
機能	リザルトコードを表示するかどうかを設定します。	
書式	Qn	
サフィックス	n=0	リザルトコードを表示する（初期値）
	n=1	リザルトコードを表示しない
入力例	ATQ0	

V	リザルトコードの表示形式	
機能	リザルトコードの表示形式を設定します。	
書式	Vn	
サフィックス	n=0	数字形式
	n=1	文字形式（初期値）
入力例	ATV0	

W	リザルトコード拡張	
機能	RING（リザルトコード）にINSネット64回線から提供される情報を表示するかどうかを設定します。	
書式	Wn	
サフィックス	n=0	付加情報を表示しない（初期値）
	n=2	RINGのあとに、発信者番号とユーザデータを付加する
入力例	ATW2	

X	リザルトコード選択	
機能	表示させるリザルトコードの範囲を選択します。	
書式	Xn	
サフィックス	n=0	0～4のリザルトコードを表示する（初期値）
	n=1	0～4、19、20のリザルトコードを表示する
	n=2	0～4、19、20のリザルトコードを表示する
	n=3	0～8、19、20のリザルトコードを表示する
	n=4	0～8、19、20のリザルトコードを表示する
入力例	ATX2	

ATコマンド詳細

Z	パラメータの初期化	
機能	INSメイトFT50のさまざまな情報を初期化（初期値に戻す）します。	
書式	Zn	
サフィックス	n=0	Sレジスタを初期化する
	n=1	すべてのパラメータ（保存対象パラメータ）を初期化する
	n=2	ユーザ設定に戻す（&Wで保存した値に戻す）
入力例	ATZ0	
補足	ATZ0コマンド入力後は、AT&Wコマンドで設定を保存する必要があります。	

&C	CD信号動作	
機能	回路CDの動作を設定します。	
書式	&Cn	
サフィックス	n=0	ER信号動作がONのとき、CD信号をONにする（初期値）
	n=1	相手端末と接続したとき、CD信号をONにする
入力例	AT&C1	

&D	ER信号動作	
機能	回路ERがONからOFFに変わったときのINSメイトFT50の動作を設定します。	
書式	&Dn	
サフィックス	n=0～1	ER信号を監視しない（ER信号は常時ONとみなす）
	n=2	回線を切断する（初期値）
	n=3	Sレジスタを初期化し、回線を切断する。
入力例	AT&D2	

&K	フロー制御	
機能	フロー制御を設定します。	
書式	&Kn	
サフィックス	n=0	フロー制御しない
	n=3	RS／CSでのフロー制御（初期値）
	n=4	ソフトウェアフロー制御（X-ON/X-OFF）
入力例	AT&K0	
補足	＼Qも同様の動作をします。	

＆Ｍ	コールバック制御	
機能	コールバックの動作を設定します。	
書式	＆Ｍ<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：1～3の設定内容の表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	コールバック通信選択 1=0：コールバックしない（初期値） 1=1：コールバックする
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	コールバック着信ガードタイム 2=0～255（秒）（初期値30秒）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	コールバック再発信 3=0：コールバック再発信なし（初期値） 3=1：コールバック再発信あり
入力例	AT＆M1=1	

&R	CS信号動作	
機能	回路CSの動作を設定します。	
書式	&Rn	
サフィックス	n=0	CS信号はRS信号に従う（初期値）
	n=1	CS信号は常時ONとする
入力例	AT&R1	

&S	DR信号動作	
機能	回路DRの動作を設定します。	
書式	&Sn	
サフィックス	n=0	相手端末を接続したとき、DR信号をONにする
	n=1	ER信号がONのとき、DR信号をONにする（初期値）
入力例	AT&S1	

&V	Sレジスター覧表示
機能	Sレジスタの内容を一覧表示します。
書式	&V
入力例	AT&V

&W	設定内容保存
機能	ATコマンドのパラメータとレジスタの値を保存します。
書式	&W
入力例	AT&W

ATコマンド詳細

#C	切断情報表示	
機能	切断情報を表示します。	
書式	#Cn	
サフィックス	n=1	TEL1ポート
	n=2	TEL2ポート
	n=3	無線ポート1
	n=4	無線ポート2
	n=5	無線ポート3
	n=6	無線ポート4
	n=71	RS-232Cポート
	n=72	無線データポート1
	n=73	無線データポート2
	n=76	無線モデムポート1
	n=77	無線モデムポート2
入力例	AT#C1	
補足	インディケーションとして、課金情報、切断理由をIA5キャラクタで送出します。 <通知するインディケーションの書式> <パラメータ1><パラメータ2> パラメータ1：課金情報（最大7桁のIA5キャラクタ） パラメータ2：切断理由（最大3桁のIA5キャラクタ）	

#R	着信拒否
機能	着信を拒否します。
書式	#R
入力例	AT#R
補足	本コマンドは着信中のみ有効です。

#M	通信モードの設定と表示	
機能	通信モードの設定と表示を行います。	
書式	#M=n（設定） #M?（表示）	
サフィックス	n=0	PIAFSに設定する
	n=3	同期PPPに設定する（初期値）
入力例	AT#M=3 AT#M?	

#S	状態問い合わせ
機能	呼の確立中か否かを問い合わせます。
書式	#S
入力例	AT#S

＄M	128KマルチリンクPPPの設定と表示	
機能	128KマルチリンクPPPの設定と表示を行います。	
書式	＄M<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：1〜8の設定内容表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	マルチリンク通信選択 1=0：128KマルチリンクPPP通信しない（初期値） 1=1：128KマルチリンクPPP通信する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	リソースBOD選択 2=0：リソースBODを行わない（初期値） 2=1：リソースBODを行う
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	スループットBOD選択 3=0：スループットBODを行わない（初期値） 3=1：スループットBODを行う
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	リンク追加算出時間（10秒ごと） 4=10〜60　10〜60秒（初期値30秒）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	リンク削除算出時間（10秒ごと） 5=10〜60　10〜60秒（初期値10秒）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	リンク追加しきい値設定（10 %ごと） 6=60〜90　60〜90 %（初期値70 %）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	リンク削除しきい値設定（10 %ごと） 7=10〜40　10〜40 %（初期値20 %）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	2本目接続時の認証 8=0：認証しない 8=1：認証する（初期値）
入力例	AT＄M2=1	

\Q	フロー制御選択	
機能	フロー制御を選択します。	
書式	¥Qn	
サフィックス	n=0	フロー制御なし
	n=3	RS／CSでのフロー制御（初期値）
	n=4	XON／XOFFフロー制御
入力例	AT\Q0	

\S	装置状態表示	
機能	装置状態を表示します。	
書式	\Sn	
サフィックス	n=0	装置の設定状態表示
入力例	AT\S0	

ATコマンド詳細

\Z	通信モード表示	
機能	接続時に通信モードを表示するかどうかを設定します。	
書式	\Zn	
サフィックス	n=0	通信モードを表示しない（初期値）
	n=1	通信モードを表示する
入力例	AT\Z1	

@A	@Aレジスタの設定と表示	
機能	@Aレジスタの設定と表示を行います。	
書式	@An=m（設定） @A?（表示）	
サフィックス	n=1、5、6、9	@Aレジスタの番号
	m	設定値
入力例	AT@A1=0 AT@A?	

S	Sレジスタの設定と表示	
機能	Sレジスタの設定と表示を行います。	
書式	Sn<パラメータ1>	
サフィックス	n=0～5、7、12、22、26、88	Sレジスタの番号（1、88は表示のみ有効）
パラメータ	<パラメータ1>	＝N：設定
		?：表示
入力例	ATSO=0 ATSO?	

\H	ATコマンドヘルプ	
機能	ATコマンドのヘルプを表示します。	
書式	\Hn	
サフィックス	n=0	ヘルプの説明を表示する
	n=1	ATコマンドのヘルプを表示する
	n=2	レジスタの説明を表示する
入力例	AT\H1	

A/	リピート
機能	直前に入力したATコマンドラインを繰り返します。
書式	A/（ATは不要）
入力例	A/
補足	リピートした結果、すべて正常に終了したときは最後のコマンドのリザルトコードが表示されます。 エラーが発生したときは、エラーとなったコマンドのリザルトコードが表示されます。

$I	なりわけ番号の登録と表示	
機能	なりわけ番号の登録と表示を行います。	
書式	＄In<=パラメータ1>	
サフィックス	n=0～9	なりわけ番号
	n=？	アドレスを表示する
パラメータ	<=パラメータ1>	相手アドレス（最大32桁）
入力例	AT＄I2=0312345678	

$J	着信拒否番号の登録と表示	
機能	着信拒否番号の登録と表示をします。	
書式	＄Jn<=パラメータ1>	
サフィックス	n=0～9	着信拒否番号
	n=？	アドレスを表示する
パラメータ	<=パラメータ1>	相手アドレス（最大32桁）
入力例	AT＄J2=0312345678	

#W	契約者回線番号とダイヤルイン番号の登録	
機能	契約者回線番号とダイヤルイン番号を登録します。	
書式	#Wn<=パラメータ1><,パラメータ2><,パラメータ3>～<パラメータ6>	
サフィックス	n=0	契約者回線番号
	n=1～7	ダイヤルイン番号
パラメータ	<パラメータ1>	契約者回線番号とダイヤルイン番号（最大32桁）
	<,パラメータ2>	変換後の番号（最大4桁）
	<パラメータ3>～<パラメータ6>	内線番号 1：TEL1ポート 2：TEL2ポート 3：無線ポート1 4：無線ポート2 5：無線ポート3 6：無線ポート4 9：全無線ポート（TEL1ポート、TEL2ポート、RS-232Cポート以外の全無線ポートを鳴動する場合） 71：RS-232Cポート 72：無線データポート1 73：無線データポート2 76：無線モデムポート1 77：無線モデムポート2
入力例	AT#W3=0312345678,12,2	

ATコマンド詳細

#I	契約者回線番号とダイヤルイン番号の表示	
機能	契約者回線番号とダイヤルイン番号を表示します。	
書式	#In	
サフィックス	n=0	契約者回線番号を表示する
	n=1～7	ダイヤルイン番号を表示する
	なし	契約者回線番号と全ダイヤルイン番号を表示する
入力例	AT#I3	

!W	ｉ・ナンバー登録	
機能	ｉ・ナンバーを登録します。	
書式	!Wn<=パラメータ1><,パラメータ2><,パラメータ3>～<パラメータ6>	
サフィックス	n=1～3	ｉ・ナンバー情報番号
パラメータ	<パラメータ1>	ｉ・ナンバー情報（最大32桁）
	<,パラメータ2>	変換後の番号（最大4桁）
	<パラメータ3>～ <パラメータ6>	内線番号 1：TEL1ポート 2：TEL2ポート 3：無線ポート1 4：無線ポート2 5：無線ポート3 6：無線ポート4 9：全無線ポート（TEL1ポート、TEL2ポート、RS-232Cポート以外の全無線ポートを鳴動する場合） 71：RS-232Cポート 72：無線データポート1 73：無線データポート2 76：無線モデムポート1 77：無線モデムポート2
入力例	AT!W1=0312345678,,1,2	

!I	ｉ・ナンバー表示	
機能	ｉ・ナンバーを表示します。	
書式	!In	
サフィックス	n=1	ｉ・ナンバー情報1の情報を表示する
	n=2	ｉ・ナンバー情報2の情報を表示する
	n=3	ｉ・ナンバー情報3の情報を表示する
	なし	全ｉ・ナンバー情報の情報を表示する
入力例	AT!I	

＄G	グローバル着信の設定と表示	
機能	グローバル着信をするかどうかの設定と表示を行います。	
書式	＄G=n（設定）　＄G?（表示）	
サフィックス	n=0	グローバル着信しない
	n=1	グローバル着信する（初期値）
入力例	AT＄G=0	

4
汎用的な設定方法

ATコマンド詳細

$D	システム共通情報の設定と表示	
機能	システム共通情報の設定と表示を行います。	
書式	$D<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1> <=パラメータ2>	0：11～21の設定内容の表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	優先着信設定 11=0：優先着信しない（初期値） 11=1：TEL1ポート（内線番号：1） 11=2：TEL2ポート（内線番号：2） 11=3：無線ポート1（内線番号：3） 11=4：無線ポート2（内線番号：4） 11=5：無線ポート3（内線番号：5） 11=6：無線ポート4（内線番号：6）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	データポート優先着信設定 12=1：RS-232Cポート（初期値） 12=2：無線データポート1（内線番号：72） 12=3：無線データポート2（内線番号：73）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	内線通話設定 13=0：内線通話しない 13=1：内線通話する（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ダイヤル桁間タイマ設定 14=0：5秒（初期値） 14=1：9秒 14=2：11秒 14=3：13秒
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス識別子設定 16=0：ダイヤル 16=1：サブダイヤル識別子（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ダイヤル終了識別子設定 17=0：ダイヤル 17=1：＃で発信（初期値） 17=2：＃＃で発信
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	バックライト設定 18=0：常時点灯 18=1：常時消灯 18=2：自動（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	三者通話設定 20=0：使用しない（初期値） 20=1：使用する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	通話中転送設定 21=0：使用しない（初期値） 21=1：使用する
入力例	AT$D3=1	

＄F	回線契約設定と表示	
機能	回線契約設定と表示を行います。	
書式	＄F=n（設定） ＄F?（表示）	
サフィックス	n=1	ダイヤルイン（初期値）
	n=2	i・ナンバー
入力例	AT＄F=1	

＄E	日付・時刻の設定	
機能	日付・時刻を設定します。	
書式	＄E<パラメータ1><,パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	xx：年（西暦下2桁)、yy：月（2桁)、zz：日（2桁）
	<,パラメータ2>	xx：時（24時間制)、yy：分（2桁）
入力例	AT＄E010203,1205	
補足	● 初期値は00年01月01日00時00分です。 ● 曜日は自動的に設定されます。	

＼C	ポートごとの累積料金表示	
機能	ポートごとの累積料金を表示します。	
書式	＼Cn	
サフィックス	n=0	合計料金を表示する
	n=1	TEL1ポートの料金を表示する
	n=2	TEL2ポートの料金を表示する
	n=3	無線ポート1の料金を表示する
	n=4	無線ポート2の料金を表示する
	n=5	無線ポート3の料金を表示する
	n=6	無線ポート4の料金を表示する
	n=71	RS-232Cポートの料金を表示する
	n=72	無線データポート1の料金を表示する
	n=73	無線データポート2の料金を表示する
	n=76	無線モデムポート1の料金を表示する
	n=77	無線モデムポート2の料金を表示する
	n=99	クリアする
入力例	AT＼C2	

ATコマンド詳細

\L	ポートごとの着信履歴情報表示	
機能	ポートごとに蓄積された着信履歴情報を表示します。	
書式	\Ln	
サフィックス	n=0	0～9件
	n=1	10～19件
	n=2	20～29件
	n=3	30～39件
	n=4	40～49件
	n=9	0～49件
	n=99	クリア
入力例	AT\L0	

$A	TEL1ポートの設定と表示	
機能	TEL1ポートの設定と表示を行います。	
書式	$A<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：31～55の設定内容の表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	接続機器設定 31=0：使用しない 31=1：電話機（初期値） 31=2：ファクス
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	受話音量設定 32=0：小 32=1：中（初期値） 32=2：大
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	リバース設定 33=0：送出しない 33=1：送出する（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	フッキングタイマ設定 34=0：短い 34=1：普通（初期値） 34=2：長い
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ナンバー・ディスプレイ設定 35=0：使用しない（初期値） 35=1：使用する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	キャッチホン・ディスプレイ設定 36=0：使用しない（初期値） 36=1：使用する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	モデムダイヤルイン設定 37=0：使用しない（初期値） 37=1：使用する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	停電時発着信設定 38=0：動作しない 38=1：動作する（初期値）

パラメータ	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス無し着信設定 39=0：着信しない 39=1：着信する（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	発信者番号通知設定 40=0：発信者番号通知設定しない 40=1：発信者番号通知設定する 40=2：INSネット64申込内容に従う（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス通知設定 41=0：通知しない（初期値） 41=1：通知する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス 42=<サブアドレス>（最大19桁）（初期値：1）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	INSなりわけ設定 45=0：使用しない（初期値） 45=1：使用する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	疑似なりわけ設定 46=0：使用しない（初期値） 46=1：使用する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	キャッチホン設定 47=0：使用しない（初期値） 47=1：INSキャッチホン 47=2：疑似キャッチホン
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	FAX無鳴動設定 48=0：しない（初期値） 48=1：する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	HLC設定（高位レイヤ整合性） 51=0：使用しない（初期値） 51=1：使用する 51=2：使用するが着信判定はしない
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ナンバー・ディスプレイ　発信サブアドレス指定 52=0：しない（初期値） 52=1：する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	キャッチホン・ディスプレイ　発信サブアドレス指定 53=0：しない（初期値） 53=1：する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	i・ナンバー通知情報 54=1～3：ポート番号（初期値：1）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ダイヤルイン通知情報 55=0：契約者回線番号（初期値） 55=1～7：ダイヤルイン番号
入力例	AT＄A39=1	

ATコマンド詳細

$B	TEL2ポートの設定と表示	
機能	TEL2ポートの設定と表示を行います。	
書式	$B<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：31～55の設定内容の表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	接続機器設定 31=0：使用しない 31=1：電話機（初期値） 31=2：ファクス
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	受話音量設定 32=0：小 32=1：中（初期値） 32=2：大
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	リバース設定 33=0：送出しない 33=1：送出する（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	フッキングタイマ設定 34=0：短い 34=1：普通（初期値） 34=2：長い
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ナンバー・ディスプレイ設定 35=0：使用しない（初期値） 35=1：使用する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	キャッチホン・ディスプレイ設定 36=0：使用しない（初期値） 36=1：使用する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	モデムダイヤルイン設定 37=0：使用しない（初期値） 37=1：使用する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	停電時発着信設定 38=0：動作しない（初期値） 38=1：動作する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス無し着信設定 39=0：着信しない 39=1：着信する（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	発信者番号通知設定 40=0：発信者番号通知設定しない 40=1：発信者番号通知設定する 40=2：INSネット64申込内容に従う（初期値）

パラメータ	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス通知設定 41=0：通知しない（初期値） 41=1：通知する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス 42=<サブアドレス>（最大19桁）（初期値：2）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	INSなりわけ設定 45=0：使用しない（初期値） 45=1：使用する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	疑似なりわけ設定 46=0：使用しない（初期値） 46=1：使用する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	キャッチホン設定 47=0：使用しない（初期値） 47=1：INSキャッチホン 47=2：疑似キャッチホン
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	FAX無鳴動設定 48=0：しない（初期値） 48=1：する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	HLC設定の設定（高位レイヤ整合性） 51=0：使用しない（初期値） 51=1：使用する 51=2：使用するが着信判定はしない
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ナンバー・ディスプレイ　発信サブアドレス指定 52=0：しない（初期値） 52=1：する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	キャッチホン・ディスプレイ　発信サブアドレス指定 53=0：しない（初期値） 53=1：する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	i・ナンバー通知情報 54=1～3：ポート番号（初期値：2）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ダイヤルイン通知情報 55=0：契約者回線番号（初期値） 55=1～7：ダイヤルイン番号
入力例	AT＄B39=1	

%A	無線ポート1の設定と表示	
機能	無線ポート1の設定と表示を行います。	
書式	%A<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：40～50の設定内容の表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	発信者番号通知設定 40=0：発信者番号通知設定しない 40=1：発信者番号通知設定する 40=2：INSネット64申込内容に従う（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス通知設定 41=0：通知しない（初期値） 41=1：通知する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス 42=<サブアドレス>（最大19桁）（初期値：3）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	キャッチホン設定 47=0：使用しない（初期値） 47=1：INSキャッチホン 47=2：疑似キャッチホン
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	データ通信モード設定 50=0：PIAFS透過 50=1：PPP変換（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	i・ナンバー通知情報 54=1～3：ポート番号（初期値：1）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ダイヤルイン通知情報 55=0：契約者回線番号（初期値） 55=1～7：ダイヤルイン番号
入力例	AT%A50=0	

%B	無線ポート2の設定と表示	
機能	無線ポート2の設定と表示を行います。	
書式	%B<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：40～55の設定内容の表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	発信者番号通知設定 40=0：発信者番号通知設定しない 40=1：発信者番号通知設定する 40=2：INSネット64申込内容に従う（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス通知設定 41=0：通知しない（初期値） 41=1：通知する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス 42=<サブアドレス>（最大19桁）（初期値：4）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	キャッチホン設定 47=0：使用しない（初期値） 47=1：INSキャッチホン 47=2：疑似キャッチホン
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	データ通信モード設定 50=0：PIAFS透過 50=1：PPP変換（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	i・ナンバー通知情報 54=1～3：ポート番号（初期値：1）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ダイヤルイン通知情報 55=0：契約者回線番号（初期値） 55=1～7：ダイヤルイン番号
入力例	AT%B40=1	

ATコマンド詳細

%C	無線ポート3の設定と表示	
機能	無線ポート3の設定と表示を行います。	
書式	%C<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：40～55の設定内容の表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	発信者番号通知設定 40=0：発信者番号通知設定しない 40=1：発信者番号通知設定する 40=2：INSネット64申込内容に従う（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス通知設定 41=0：通知しない（初期値） 41=1：通知する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス 42=<サブアドレス>（最大19桁）（初期値：5）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	キャッチホン設定 47=0：使用しない（初期値） 47=1：INSキャッチホン 47=2：疑似キャッチホン
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	データ通信モード設定 50=0：PIAFS透過 50=1：PPP変換（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	i・ナンバー通知情報 54=1～3：ポート番号（初期値：1）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ダイヤルイン通知情報 55=0：契約者回線番号（初期値） 55=1～7：ダイヤルイン番号
入力例	AT%C42=123	

%D	無線ポート4の設定と表示	
機能	無線ポート4の設定と表示を行います。	
書式	%D<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：40〜55の設定内容の表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	発信者番号通知設定 40=0：発信者番号通知設定しない 40=1：発信者番号通知設定する 40=2：INSネット64申込内容に従う（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス通知設定 41=0：通知しない（初期値） 41=1：通知する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス 42=<サブアドレス>（最大19桁）（初期値：6）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	キャッチホン設定 47=0：使用しない（初期値） 47=1：INSキャッチホン 47=2：疑似キャッチホン
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	データ通信モード設定 50=0：PIAFS透過 50=1：PPP変換（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	i・ナンバー通知情報 54=1〜3：ポート番号（初期値：1）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ダイヤルイン通知情報 55=0：契約者回線番号（初期値） 55=1〜7：ダイヤルイン番号
入力例	AT%D47=2	

ATコマンド詳細

%E	無線データポート1の設定と表示	
機能	無線データポート1の設定と表示を行います。	
書式	%E<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：40～55の設定内容の表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	発信者番号通知設定 40=0：発信者番号通知設定しない 40=1：発信者番号通知設定する 40=2：INSネット64申込内容に従う（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス通知設定 41=0：通知しない（初期値） 41=1：通知する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス （初期値：72）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	データ通信モード設定 50=0：PIAFS透過 50=1：PPP変換（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	i・ナンバー通知情報 54=1～3：ポート番号（初期値：1）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ダイヤルイン通知情報 55=0：契約者回線番号（初期値） 55=1：ダイヤルイン番号
入力例	AT%E50=0	

%F	無線データポート2の設定と表示	
機能	無線データポート2の設定と表示を行います。	
書式	%F<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：40〜55の設定内容の表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	発信者番号通知設定 40=0：発信者番号通知設定しない 40=1：発信者番号通知設定する 40=2：INSネット64申込内容に従う（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス通知設定 41=0：通知しない（初期値） 41=1：通知する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス 42=<サブアドレス>（最大19桁）（初期値：73）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	データ通信モード設定 50=0：PIAFS透過 50=1：PPP変換（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	i・ナンバー通知情報 54=1〜3：ポート番号（初期値：1）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ダイヤルイン通知情報 55=0：契約者回線番号（初期値） 55=1：ダイヤルイン番号
入力例	AT%F50=0	

ATコマンド詳細

＄N	RS-232Cポートの設定と表示	
機能	RS-232Cポートの設定と表示を行います。	
書式	＄N<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：1～55の設定内容の表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	発信者番号通知設定 1=0：発信者番号通知設定しない 1=1：発信者番号通知設定する 1=2：INSネット64申込内容に従う（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス通知設定 2=0：通知しない（初期値） 2=1：通知する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	マルチリンクPPP通信設定 3=0：マルチリンクPPP通信しない（初期値） 3=1：マルチリンクPPP通信する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ACCM設定 4=0：付加しない 4=1：付加する（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	無通信監視タイマ設定 5=0：監視しない 5=1～10：1～10分（初期値：10分）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	強制切断タイマ設定 6=0：切断しない 6=1～10：1～10時間（初期値：10時間）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	コールバック設定 7=0：コールバックしない（初期値） 7=1：コールバックする
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	RS-232CポートPIAFS発信設定 8=0：PIAFS32K 8=1：PIAFS64K（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	CTI呼出種別設定 9=0：送出しない 9=1：第1呼出信号（初期値） 9=2：第2呼出信号
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	CTI呼出時間 10=15～180：15～180秒（初期値：60秒）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス 12=<自己サブアドレス>（最大19桁）（初期値：71）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	HLC設定（高位レイヤ整合性） 51=N：使用しない 51=0～127

パラメータ	<パラメータ1> <=パラメータ2>	i・ナンバー通知情報 54=1～3：ポート番号（初期値：1）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ダイヤルイン通知情報 55=0：契約者回線番号（初期値） 55=1～7：ダイヤルイン番号
入力例	AT＄N5=2	

＄L	液晶ディスプレイのバックライトの設定と表示	
機能	液晶ディスプレイのバックライトの設定と表示を行います。	
書式	＄L=n（設定） ＄L?（表示）	
サフィックス	n=0	常時点灯
	n=1	常時消灯
	n=2	自動（初期値）
入力例	AT＄L=2	

＄H	着信転送の設定表示
機能	着信転送先番号、着信転送元番号、転送トーキの設定を表示します。
書式	＄H
入力例	AT＄H

＄X	着信転送と転送トーキの設定	
機能	着信転送と転送トーキを設定します。	
書式	＄X<=パラメータ1><,パラメータ2>	
パラメータ	<=パラメータ1>	着信転送設定 0：使用しない（初期値） 1：INS着信転送 2：疑似着信転送
	<,パラメータ2>	転送トーキサービス設定 0：転送トーキなし、転送元トーキなし 1：転送トーキあり、転送元トーキなし 2：転送トーキなし、転送元トーキあり 3：転送トーキあり、転送元トーキあり（初期値）
入力例	AT＄X=1,1	

ATコマンド詳細

＄Y	着信転送先アドレス登録	
機能	着信転送先アドレスを登録します。	
書式	＄Y<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0～2：転送先番号
	<=パラメータ2>	転送先アドレス（最大32桁）
入力例	AT＄Y1=0312345678	
補足	アドレスとして使用できる文字は0～9です。	

＄Z	着信転送元アドレス登録	
機能	着信転送元アドレスを登録します。	
書式	＄Z<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0～2：転送元番号
	<=パラメータ2>	転送元アドレス（最大32桁）
入力例	AT＄Z1=0312345678	
補足	アドレスとして使用できる文字は0～9です。	

!D	CTI発信	
機能	パラメータで指定したアドレスに対し、CTI発信を行います。	
書式	!D<パラメータ1>；<パラメータ2>／<パラメータ3>	
パラメータ	<パラメータ1>	発信ポート内線番号
	<パラメータ2>	相手アドレス（最大32桁）
	<パラメータ3>	相手サブアドレス（最大19桁）
入力例	AT!D2；0312345678/123	
補足	アドレスとして使用できる文字は“0～9”で、そのほかの文字は入力しても無視します。	

!H	CTI発信拒否	
機能	CTI発信のキャンセルを行います。	
書式	!H<パラメータ1>	
パラメータ	<パラメータ1>	発信ポートの内線番号
入力例	AT!H2	

￥W	マイプライベート着信番号の登録	
機能	マイプライベート着信番号を登録します。	
書式	￥Wn <=パラメータ1><,パラメータ2>～<パラメータ5>	
サフィックス	n=0～9	マイプライベート着信番号
パラメータ	<=パラメータ1>	相手アドレス（最大32桁）
	<パラメータ2>～<パラメータ6>	内線番号（全無線ポート鳴動の場合は9を設定）
入力例	AT￥W3=0312345678,2	

¥I	マイプライベート着信番号の表示	
機能	登録したマイプライベート着信番号の電話番号を表示します。	
書式	￥In	
サフィックス	n=0～9	マイプライベート着信番号
	なし	すべてのマイプライベート着信番号
入力例	AT￥I3	

＄P	電話中継の設定と表示	
機能	電話中継を設定します。	
書式	＄P=<パラメータ1＞	
サフィックス	＄P=0～1	設定
	＄P?	設定値の表示
パラメータ	<=パラメータ1>	転送の設定 0：中継しない（初期値） 1：中継する
入力例	AT＄P=1	

＄Q	電話中継元アドレスの設定と表示	
機能	電話中継元のアドレスの設定と表示を行います。	
書式	＄Q<パラメータ1＞＝＜パラメータ2＞	
サフィックス	＄Qn=0～9	電話転送元番号
	＄Q?	全対地表示
パラメータ	<パラメータ1>	0～9：電話転送元番号
	<=パラメータ2>	電話中継元アドレス（最大32桁）
入力例	AT＄Q1=0462284008	
補足	アドレスとして使用できる文字は0～9です。	

ATコマンド詳細

%G	無線モデムポート1の設定と表示	
機能	無線モデムポート1の設定と表示を行います。	
書式	%G<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：40～55の設定内容の表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	発信者番号通知設定 40=0：発信者番号通知設定しない 40=1：発信者番号通知設定する 40=2：INSネット64申込内容に従う（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス通知設定 41=0：通知しない（初期値） 41=1：通知する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス 42=＜自己サブアドレス＞（最大19桁）（初期値：76）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	i・ナンバー通知情報 54=1～3：ポート番号（初期値：1）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ダイヤルイン通知情報 55=0：契約者回線番号（初期値） 55=1：ダイヤルイン番号
入力例	AT%G50=0	

%H	無線モデムポート2の設定と表示	
機能	無線モデムポート2の設定と表示を行います。	
書式	%H<パラメータ1><=パラメータ2>	
パラメータ	<パラメータ1>	0：40～55の設定内容の表示
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	発信者番号通知設定 40=0：発信者番号通知設定しない 40=1：発信者番号通知設定する 40=2：INSネット64申込内容に従う（初期値）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス通知設定 41=0：通知しない（初期値） 41=1：通知する
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	サブアドレス 42=＜自己サブアドレス＞（最大19桁）（初期値：77）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	i・ナンバー通知情報 54=1～3：ポート番号（初期値：1）
	<パラメータ1> <=パラメータ2>	ダイヤルイン通知情報 55=0：契約者回線番号（初期値） 55=1～7：ダイヤルイン番号
入力例	AT%H50=0	

+SO	登録済み無線子機の情報の表示
機能	登録済み無線子機の情報を表示します。
書式	+SO
入力例	AT+SO

!C	CTI情報出力の設定と表示	
機能	CTI情報出力の設定と表示を行います。	
書式	!Cn<パラメータ1><=パラメータ2><,パラメータ3>～<=パラメータ11><,パラメータ12>	
サフィックス	n=0 n=1 n=2 n=3 n=4 n=5 n=6 n=7 n=8	全ポート指定（初期値） TEL1ポート TEL2ポート 無線ポート1 無線ポート2 無線ポート3 無線ポート4 無線モデムポート1 無線モデムポート2
	!c?	設定値表示
パラメータ	<=パラメータ2>～<パラメータ12>	0：着信を出力しない（初期値） 1：着信を出力する
入力例	AT!C1=1,2=0,3=1	

リザルトコード一覧

数字	文字	意味
0	OK	ATコマンドが正しく実行されました
	OK T	CTI動作時、ATコマンドが正しく実行されました
1	CONNECT	発着信の結果、相手と通信状態になりました データ通信モードへ復帰しました
	CONNECT T	CTI動作時、発着信の結果、相手と通信状態になりました
2	RING	着信がありました（X…は発信者番号とユーザデータ） 発信者番号表示の有無は、Wコマンドで設定します（☛P167）
	RING（X…）	
3	NO CARRIER	回線が切断されました
	NO CARRIER T	CTI動作時、回線が切断されました
4	ERROR	コマンドフォーマットエラー コマンド状態エラー
	ERROR T	CTI動作時のコマンド状態エラー
6	NO DIALTONE	回線異常です
7	BUSY	相手が使用中です
	BUSY T	CTI動作時、相手が使用中です
8	ER OFF T	CTI動作時、ER信号OFFでCTI発信要求しました
19	CONNECT 64000	64000 bit/sで接続しました
20	CONNECT 32000	32000 bit/sで接続しました
21	ENGAGED	状態問い合わせ（＃S）入力に対して、回線が接続されています
22	FREE	状態問い合わせ（＃S）入力に対して、回線が切断されています
82	PROTOCOL:PIAFS	PIAFSで接続しました

レジスター覧

■Sレジスタ＜データ端末の設定＞

レジスタ	説明	
S0	自動応答	
	設定値：0～255　初期値：1	
	0	自動応答しない
	1～255	設定値の数だけRING（リザルトコード）を送出後、自動応答する “ RING ” 送出間隔は約1秒
S1	RING送出回数（参照専用、設定不可）	
S2	エスケープ文字	
	設定値：0～127　初期値：43	
	0	エスケープ文字なし
	1～127	設定した文字をエスケープとする（IA5キャラクタコード）
S3	復帰文字	
	設定値：0～31、127　初期値：13	
	0～31、127	設定した文字を復帰文字とする（IA5キャラクタコード）
S4	改行文字	
	設定値：0～31、127　初期値：10	
	0～31、127	設定した文字を改行文字とする（IA5キャラクタコード）
S5	後退文字	
	設定値：0～31、127　初期値：8	
	0～31、127	設定した文字を後退文字とする（IA5キャラクタコード）
S7	発信時相手応答待ち時間	
	設定値：1～58　初期値：58	
	1～58	発信のとき、設定時間（秒）以内に応答がない場合は切断する
S12	エスケープガード時間	
	設定値：0～255　初期値：20	
	0	タイマ値を設定しない
	1～255	設定値×0.05秒をガード時間とする
S22	ER「OFF」切断時間	
	設定値：0～255　初期値：1	
	0～255	設定値×0.1秒以上回路ERが「OFF」すると回線を切断する
S26	CS遅延時間	
	設定値：5、10　初期値：10	
	5、10	回路RSが「OFF」から「ON」になったとき、設定値×0.01秒 回路CSを遅延させて「ON」にする
S88	切断理由表示（参照専用、設定不可）	

■@Aレジスタ＜データ端末の設定＞

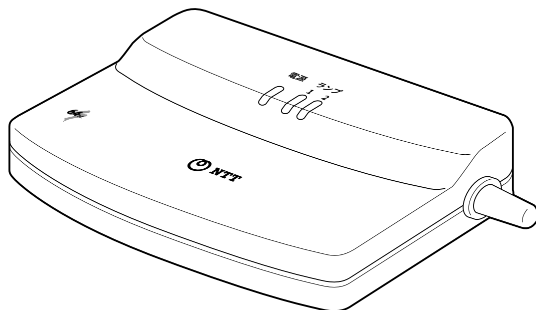
レジスタ	説明	
@A1	発着信手順	
	0	ATコマンド（初期値）
	2	着信専用
@A5	データ端末設定（起動時のみ）	
	0	データ長7ビット、奇数パリティ
	1	データ長7ビット、偶数パリティ
	2	データ長8ビット、パリティなし（初期値）
@A6	ストップビット（起動時のみ）	
	1	1ビット（初期値）
	2	2ビット
@A9	サブアドレス区切り	
	0	/
	1	＊（初期値）
	2	〈

付録

オプション品をご利用になるには

INSメイトFT50のオプションとして、増設用のワイヤレスパソコンアダプタ等を別売しています。
増設は2台まで登録することができます。
増設登録につきましては、局番なしの116番または当社の営業所等へご相談ください。

■ ワイヤレスパソコンアダプタ（オプション）（W-PADP）



故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったときは、修理に出す前に次の点をご確認ください。

■ 接続

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
動作しない	電源が入っていない	電源を入れてください	☛P28
	接続方法が間違っている	正しく接続してください	☛P32
	電源アダプタがコンセントから抜けている	電源アダプタを正しく差し込んでください	☛P32
「カイセン　イジョウ」と表示される	INSネット64と接続する前に電源を入れた	INSネット64と接続してから電源を入れてください	☛P32
	極性が反転している	極性切替（スイッチ）を「RVS」に切り替えてください	☛P30

■ 電話をかける／受ける

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
POWERランプが速い点滅をして、発信、着信ができない	回線接続端子（LINE）とINSネット64回線用モジュラジャックがしっかり接続されていない	付属品の電話機コードでしっかり接続してください	☛P32
アナログ通信機器の発信、着信ができない	アナログポートにアナログ通信機器が正しく接続されていない	正しく接続してください	☛P32
	回線接続端子（LINE）とINSネット64回線用モジュラジャックがしっかり接続されていない	付属の電話機コードでしっかり接続してください	☛P32
	ダイヤル式（DP）のアナログ通信機器を接続している	ダイヤル式（DP）のアナログ通信機器は使用できません	－
	「接続機器設定」が「使用しない」に設定されている	「接続機器」を「電話」に設定してください	☛P73、137
アナログ通信機器の着信ができない	着信拒否に設定されている	「着信拒否」を「しない」設定をしてください	－
	「サブアドレス無し着信設定」が「着信しない」に設定されている	「着信する」に設定してください	☛P73、140

（次ページへ続く）

故障かな？と思ったら

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
ファクスの通信ができない	通信相手がG４タイプのファクスを使用している	アナログポートに接続したファクスでは、G３モードに対応していないG４タイプのファクスとは通信できません	－
	ファクスの回線自動選択機能が「ON」に設定されている	ファクスの回線自動選択機能は使用できません。手動でしてください	－
INSネット６４用通信機器の発信、着信ができない	S/T端子にINSネット６４用通信機器が正しく接続されていない	正しく接続してください	☛P３２
	終端抵抗が正しく設定されていない	終端抵抗を正しく設定してください	☛P３６
電話をかけるとき、相手につながるまで時間がかかる	「ダイヤル桁間タイマー設定」の設定により発信するまで時間がかかる	故障ではありません 電話番号を押したあと、㊯ボタンを押すとすぐに発信します	－
LCR内蔵の電話機から電話がかけられない	「ダイヤル桁間タイマー設定」の秒数が短い	「ダイヤル桁間タイマー」を９秒以上に設定してください	☛P７１、１３２
なりわけ着信音が鳴り、応答するとモデム音が聞こえる	ナンバー・ディスプレイ未対応の電話機が接続されている状態で、「ナンバーディスプレイ」を「する」に設定されている	「ナンバーディスプレイ」を「しない」に設定してください またはナンバー・ディスプレイに対応した電話機を接続してください	☛P７３、１３７
電話がかけられない	疑似キャッチホン、疑似着信転送中である	疑似キャッチホン、疑似着信転送中はBチャネルを２本使用するので、アナログ通信機器の発信はできません	☛P５８、６０
	１２８KマルチリンクPPP通信中である	１２８KマルチリンクPPP通信中はBチャネルを２本使用するので、アナログ通信機器の発信はできません 「リソースBOD」を設定してください	☛P１０２

■ PHS対応電話機で電話をかける／受ける

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
PHS対応電話機のアンテナマークが表示されない	INSメイトFT50の電源が入っていない	電源を入れてください	☛P32
	PHS対応電話機の登録が済んでいない	登録してください	–
	PHS対応電話機がINSメイトFT50から離れすぎている	INSメイトFT50に近づいてください	–
	PHS対応電話機の待受モードが間違っている	オフィスモードに変更してください	–
	2台以上のPHS対応電話機を同時に使用している	他のPHS対応電話機の通話が終了するのを待ってください	–
電話がかけられない	近くで複数のPHS対応電話機を使用している	近くでPHS対応電話機を使っている場合は、電話がかからないことがあります。しばらく待ってからかけてください	–
	相手がお話し中	しばらく待ってからかけてください	–
	電話番号を押したあとに(#)ボタンを押してから、通話ボタンを押した	電話番号を押してから通話ボタンを押すときは、電話番号のあとに(#)ボタンを押さないでください	–

2 こんなときは

故障かな？と思ったら

■ インターネット／データ通信

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
設定ユーティリティが開けない	INSメイトFT50とパソコンの端末速度が合っていない	INSメイトFT50の設定スイッチを切り替えてください	☛P122
設定ユーティリティで「COMポートがオープンできません」と表示される	設定ユーティリティの「通信ポートの設定」が間違っている	「通信ポートの設定」を正しく設定してください	☛P122
インターネットに接続できない	INSメイトFT50とパソコンの端末速度が合っていない	INSメイトFT50の設定スイッチを切り替えてください	☛P30
	RS-232Cケーブルが正しく接続されていない	付属のRS-232Cケーブルを正しく接続してください	☛P33
	通信ポートの設定が間違っている	INSメイトFT50を接続したポートを正しく設定してください	☛P122
	電話回線用のアクセスポイントに接続しようとしている	INSネット64のアクセスポイントに接続してください	－
	ユーザ名、パスワード、サーバの設定が間違っている	インターネットサービスプロバイダ等にお問い合わせのうえ、正しく設定してください	－
	ソフトウェアの設定が間違っている	ソフトウェアの設定項目を確認し、正しく設定してください。また、インターネットサービスプロバイダからの通知された契約内容を確認してください	－
	ソフトウェアがインストールされていない	ソフトウェアをインストールしてください	－
	接続先の電話番号が間違っている	接続先電話番号を正しく設定してください	－
パソコン内蔵のモデムが使えない	パソコンの電話回線接続ジャックに電話回線を接続していない	パソコンの電話回線接続ジャックをINSメイトFT50のアナログポートに接続してください	☛P33

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
PHS対応電話機で発信、着信ができない	INSメイトFT50の電源が入っていない	電源を入れてください	☛P32
	PHS対応電話機がINSメイトFT50から離れすぎている	INSメイトFT50に近づいてください	—
	近くで複数のPHS対応電話機を使用している	近くでPHS対応電話機を使っている場合は、電話がかからないことがあります。しばらく待ってからかけてください	☛P107
	相手がお話し中	しばらく待ってからかけてください	—

●停電モード

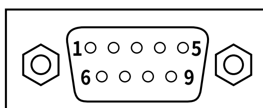
こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
POWERランプが点滅しない	単3アルカリ乾電池がセットされていない	単3アルカリ乾電池を正しくセットしてください	☛P38
	電池の残量がなくなった	新しい単3アルカリ乾電池と交換してください	☛P38
	電源が入っていない	電源を入れてください	☛P32

●その他

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
パソコンの電源を切っても「RDY」が消えない	パソコンの機種によっては電源を切ってもER信号がOFFにならない場合があります	いったんRS-232Cケーブルを引き抜いてから再度接続し直してください	—

RS-232Cポートインタフェース（INSメイトFT50）

●**コネクタ形状**
9ピンコネクタ（オス型）



パソコンインタフェースの信号線

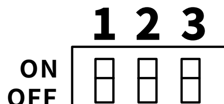
ピン番号		信号方向 パソコン　本商品	名　称	機　能
1	CD	←	キャリア検出	INSメイトFT50が、パソコンにデータ受信を要求していることを示します ON ：パソコンにデータ受信を要求します OFF：パソコンにデータ受信を要求しません
2	RD	←	受信データ	INSメイトFT50からパソコンへ送られるデータです
3	SD	→	送信データ	パソコンからINSメイトFT50へ送られるデータです
4	ER	→	データ端末レディ	パソコンの動作準備ができているかどうかを示します ON ：パソコンが、データの授受の準備ができていることを示します OFF：パソコンが、データの授受の準備ができていないことを示します
5	SG		信号用接地	相互接続回路に基準電位をあたえます
6	DR	←	データセットレディ	INSメイトFT50の動作準備ができているかどうかを示します ON ：パソコンとデータの授受を行う準備ができていることを示します OFF：パソコンとデータの授受を行う準備ができていないことを示します
7	RS	→	送信要求	データ送信許可を要求します ON ：データ送信許可を要求します OFF：データ送信許可を要求しません
8	CS	←	送信可	データ送信可能かどうかを示します ON ：データ送信が可能です OFF：データ送信してはいけません
9	CI	←	被呼表示	パソコンに着信していることを示します ON ：着信があることを示します OFF：着信がないことを示します

設定記入シート

保守上で必要となる重要なものです。設置時に記入のうえ、大切に保管してください。
下線は初期値です。

商品名（INSメイトFT50）

■ 設定スイッチ



■ 回線契約設定

○ダイヤルイン　○ｉ・ナンバー

ダイヤルイン

グローバル着信 ○利用する ○利用しない		変換後の番号	着信するポート アナログ 1	2	RS-232C	無線 3	4	5	6	72	73	76	77
契約者回線番号			□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
ダイヤルイン番号1			□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
ダイヤルイン番号2			□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
ダイヤルイン番号3			□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
ダイヤルイン番号4			□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
ダイヤルイン番号5			□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
ダイヤルイン番号6			□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
ダイヤルイン番号7			□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

ｉ・ナンバー

		変換後の番号	着信するポート アナログ 1	2	RS-232C	無線 3	4	5	6	72	73	76	77
ｉ・ナンバー情報1			□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
ｉ・ナンバー情報2			□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
ｉ・ナンバー情報3			□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

設定記入シート

■ 通知情報

	通知情報	サブアドレス
アナログポート1		
アナログポート2		
無線ポート1（3）		
無線ポート2（4）		
無線ポート3（5）		
無線ポート4（6）		
無線データポート1（72）		
無線データポート2（73）		
無線モデムポート1（76）		
無線モデムポート2（77）		

■ システム共通登録

アナログポート優先着信	○優先しない	○アナログポート1	○アナログポート2
	○無線ポート1	○無線ポート2	
	○無線ポート3	○無線ポート4	
データポート優先着信	○RS-232C	○無線データポート1	○無線データポート2
内線通話設定指定	○しない	○する	
ダイヤル桁間タイマー	○5秒　○9秒	○11秒　○13秒	
サブアドレス識別子	○アドレス	○サブアドレス識別子	
ダイヤル終了識別子	○ダイヤル	○#で発信	○##で発信
バックライト	○常時点灯	○常時消灯	○自動
三者通話	○使用しない	○使用する	
通信中転送	○使用しない	○使用する	
着信転送	○使用しない	○INS着信転送	○疑似着信転送

■ 着信転送

着信転送先番号	着信転送元番号	着信転送先番号
着信転送先番号（0）		
着信転送先番号（1）		
着信転送先番号（2）		

転送トーキサービス

○転送トーキなし、転送元トーキなし　○転送トーキあり、転送元トーキなし
○転送トーキなし、転送元トーキあり　○転送トーキあり、転送元トーキあり

■ なりわけ番号

0		5	
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	

電話中継 ◯使用しない ◯使用する

■ 電話中継元番号

0		5	
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	

■ マイプライベート着信

マイプライベート着信		着信するポート										
		アナログ		RS-232C	無線							
		1	2		3	4	5	6	72	73	76	77
マイプライベート着信番号1		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
マイプライベート着信番号2		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
マイプライベート着信番号3		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
マイプライベート着信番号4		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
マイプライベート着信番号5		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
マイプライベート着信番号6		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
マイプライベート着信番号7		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
マイプライベート着信番号8		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
マイプライベート着信番号9		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
マイプライベート着信番号10		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

■ 着信拒否番号

0		5	
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	

設定記入シート

■ アナログポート1

接続機器	○使用しない	○電話	○ファクス
発信者番号通知	○INSネット64申込内容に従う	○発信者番号通知判定する	
	○発信者番号通知設定しない		
キャッチホン	○使用しない	○INSキャッチホン	○疑似キャッチホン
フッキングタイマー	○短い	○普通	○長い
受話音量	○小	○中	○大
ナンバーディスプレイ	○しない	○する	
サブアドレス付加	○付加する	○付加しない	
キャッチホンディスプレイ	○しない	○する	
サブアドレス付加	○付加する	○付加しない	
モデムダイヤルイン	○する	○しない	
INSなりわけ	○使用しない	○使用する	
疑似なりわけ	○使用しない	○使用する	
FAX無鳴動着信	○しない	○する	
サブアドレス通知	○しない	○する	
サブアドレス無し着信	○着信する	○着信しない	
停電時発着信	○しない	○する	
リバースパルス	○送出しない	○送出する	
HLC設定	○使用しない	○使用する	○使用するが着信判定はしない

■ アナログポート2

接続機器	○使用しない	○電話	○ファクス
発信者番号通知	○INSネット64申込内容に従う	○発信者番号通知設定する	
	○発信者番号通知設定しない		
キャッチホン	○使用しない	○INSキャッチホン	○疑似キャッチホン
フッキングタイマー	○短い	○普通	○長い
受話音量	○小	○中	○大
ナンバーディスプレイ	○しない	○する	
サブアドレス付加	○付加する	○付加しない	
キャッチホンディスプレイ	○しない	○する	
サブアドレス付加	○付加する	○付加しない	
モデムダイヤルイン	○しない	○する	
INSなりわけ	○使用しない	○使用する	
疑似なりわけ	○使用しない	○使用する	
FAX無鳴動着信	○しない	○する	
サブアドレス通知	○しない	○する	
サブアドレス無し着信	○着信する	○着信しない	
停電時発着信	○しない	○する	
リバースパルス	○送出しない	○送出する	
HLC設定	○使用しない	○使用する	○使用するが着信設定はしない

■ RS-232Cポート登録

発信者番号通知　○INSネット64申込内容に従う　○発信者番号通知設定する
　○発信者番号通知設定しない
サブアドレス通知　○しない　○する
データ通信モード設定　○PIAFS透過通信　○PPP変換通信
無通信時間を監視する　○しない　○する　タイマー監視時間（　）分
強制切断タイマー　○しない　○する　強制切断時間（　）時間

■ PPP通信の設定

○制御キャラクタ（ACCM）をデータ端末へ送信する

■ マルチリンクPPPの設定

○128 kbpsマルチリンクPPP通信をする
○リソースBODを選択する
○スループットBODを選択する
　リンク追加算出時間　（　）秒
　リンク削除算出時間　（　）秒
　リンク追加しきい値　（　）%
　リンク削除しきい値　（　）%
○2本目接続時の認証をする

■ 信号線の設定

CD信号動作
○ER信号動作ONのとき、CD信号をONにする
○相手端末を接続したとき、CD信号をONにする
ER信号動作
○ER信号を監視しない
○ER信号がONからOFFに変わったとき、回線を切断する
○ER信号が常時ONからOFFに変わったとき、Sレジスタを初期化し、回線を切断する
CS信号動作
○CS信号は、RS信号にしたがう
○CS信号は、常時ONにする
DR信号動作
○相手端末を接続したとき、DR信号をONにする
○ER信号がONのとき、DR信号をONにする

■ フロー制御の設定

○フロー制御しない　○RS／CSでフロー制御　○ソフトウェアフロー制御

設定記入シート

■ コールバック動作の設定

○コールバックする　着信ガードタイム　（　　　　　）秒　○再発信あり

■ CTI機能の設定

CTI呼出種別
○送出しない　○第1呼出信号　○第2呼出信号
CTI呼出時間（　　　　　）秒
CTI情報出力
○アナログポート1への着信を出力する
○アナログポート2への着信を出力する　○無線ポート1への着信を出力する
○無線ポート2への着信を出力する　○無線ポート3への着信を出力する
○無線ポート4への着信を出力する　○無線モデムポート1への着信を出力する
○無線モデムポート2への着信を出力する

■ 無線ポート1設定（内線番号3）

発信者番号通知　○INSネット64申込内容に従う　○発信者番号通知設定する
○発信者番号通知設定しない
サブアドレス通知　○しない　○する
データ通信モード　○PIAFS透過通信　○PPP変換通信
キャッチホン　○使用しない　○INSキャッチホン　○疑似キャッチホン

■ 無線ポート2設定（内線番号4）

発信者番号通知　○INSネット64申込内容に従う　○発信者番号通知設定する
○発信者番号通知設定しない
サブアドレス通知　○しない　○する
データ通信モード　○PIAFS透過通信　○PPP変換通信
キャッチホン　○使用しない　○INSキャッチホン　○疑似キャッチホン

■ 無線ポート3設定（内線番号5）

発信者番号通知　○INSネット64申込内容に従う　○発信者番号通知設定する
○発信者番号通知設定しない
サブアドレス通知　○しない　○する
データ通信モード　○PIAFS透過通信　○PPP変換通信
キャッチホン　○使用しない　○INSキャッチホン　○疑似キャッチホン

■ 無線ポート4設定（内線番号6）

発信者番号通知	○INSネット64申込内容に従う　○発信者番号通知設定する ○発信者番号通知設定しない
サブアドレス通知	○しない　○する
データ通信モード	○PIAFS透過通信　○PPP変換通信
キャッチホン	○使用しない　○INSキャッチホン　○疑似キャッチホン

■ 無線データポート1設定（内線番号72）

発信者番号通知	○INSネット64申込内容に従う　○発信者番号通知設定する ○発信者番号通知設定しない
サブアドレス通知	○しない　○する
データ通信モード	○PIAFS透過通信　○PPP変換通信

■ 無線データポート2設定（内線番号73）

発信者番号通知	○INSネット64申込内容に従う　○発信者番号通知設定する ○発信者番号通知設定しない
サブアドレス通知	○しない　○する
データ通信モード	○PIAFS透過通信　○PPP変換通信

■ 無線モデムポート1

発信者番号通知	○INSネット64申込内容に従う　○発信者番号通知設定する ○発信者番号通知設定しない
サブアドレス通知	○しない　○する

■ 無線モデムポート2

発信者番号通知	○INSネット64申込内容に従う　○発信者番号通知設定する ○発信者番号通知設定しない
サブアドレス通知	○しない　○する

自己診断

自己診断を行うと、INSメイトFT50のハードウェアに異常がないかをチェックすることができます。

自己診断機能

INSメイトFT50は、電源アダプタを電源コンセントに差し込み電源スイッチを「ON」にすると、自動的に自己診断を行います。
自己診断中は、POWERランプが緑色で速く点滅し、液晶ディスプレイに「ジコシンダンチュウ」と表示されます。
自己診断修了したあとでもPOWERランプが速い点滅のままのときは、機器に異常があります。
液晶ディスプレイに以下のような項目が表示されます。

項目	表示	内容
DWL	Error DWL	ダウンロードエラー
DTE	Error DTE	データ通信ユニット異常
RAM	Error RAM	RAMの読み込み／書き込みが異常
RFU	Error RFU	無線ユニット異常

お知らせ

- POWERランプが緑色で速く点滅し、液晶ディスプレイに「カイセン イジョウ」と表示したときは、INSネット64回線が接続されているか確認してください。
- 液晶ディスプレイに異常項目が表示されているときは、当社のサービス取扱所にご連絡ください。
- INSネット64回線が接続されていても「カイセン イジョウ」が表示される場合はINSメイトFT50背面の極性切替（スイッチ）（☛P28）を切り替えてください。それでも「カイセン　イジョウ」が表示されている場合は当社のサービス取扱所までご連絡ください。

索引

数字

128KマルチリンクPPP …… 99
3人でお話しする …… 86

アルファベット

ATコマンド
　一覧 …… 162,205
　形式 …… 161,204
　詳細 …… 166,206
　入力する …… 159,202
Aレジスタ …… 196
BOD機能 …… 100
CTI機能の設定をする …… 149
CTI機能の設定画面 …… 149
CTI着信 …… 112
CTI発信 …… 109
　設定する …… 149
DSU切離スイッチ …… 29,30
FG端子 …… 28
i・ナンバー …… 78
　登録する …… 130
INSキャッチホン …… 84
INSなりわけサービス …… 95
INSナンバー・ディスプレイ …… 80
INSネット64サービス …… 75
INSネット64の接続 …… 35
INSネット64用通信機器の接続 …… 35
INSボイスワープ …… 96
INSボイスワープセレクト …… 96
INSマジックボックス …… 98
INSメイトFT50利用形態 …… 24
LINE …… 28
MSGランプ …… 26
PHS対応電話機をコードレス電話機として利用する …… 106
PIAFS透過通信 …… 103
PIAFS/同期PPP変換 …… 103
PIAFSモード …… 102
　データ通信を行う …… 102
POWERランプ …… 26
PPP通信の設定をする …… 144
PPP通信の設定画面 …… 144
RDランプ …… 26
RS-232C …… 28
RS-232Cポート …… 28
　RS-232Cポートに接続したパソコンからかける …… 109
　インターネットへ接続する …… 99
　インタフェース …… 204
RS-232Cポート登録画面 …… 142
SDランプ …… 26
S/T端子 …… 28
Sレジスタ …… 195
TEL1/TEL2ポート …… 28

五十音

【ア行】

アースの接続 …… 33,35
アナログポート …… 28
　アナログポートを設定する …… 131,137
　アナログポート登録画面 …… 137
　アナログポートに通知した着信情報をRS-232Cポートに通知する …… 112
アンテナ …… 26
インストール
　Mac OS …… 119
　Windows® 95/Windows® 98/Windows® Me/Windows® 2000/Windows NT® 4.0 …… 114
　モデム情報 …… 119
インターネットへ接続する …… 99,103
液晶ディスプレイ …… 26
　見かた …… 27
オプション品 …… 198

【カ行】

回線接続端子 …… 28

2 こんなときは

索引

【ナ行】

【ハ行】

【マ行】

【ラ行】

【ワ行】

2 こんなときは

仕様

■INSメイトFT50仕様

適用回線		INSネット64（ISDN基本インタフェース）
接続コネクタ		6ピンモジュラジャック
適用インタフェース形態		P－MP接続
起動方式		呼毎起動
交換種別		Bチャネル回線交換
無線部	通信規格	PIAFS準拠
	通信方式	全二重
	通信速度（kbit/s）	最大58.4（無線区間実効速度）
	エラー訂正	PIAFS準拠
	無線区間インタフェース	RCR STD-28 第3版準拠
RS-232Cポート	ポート数	1
	インタフェース	V.24／V.28
	通信速度（kbit/s）	同期 64／128
	端末速度（kbit/s）	非同期 4.8/9.6/14.4/19.2/38.4/57.6/115.2/230.4
	接続手順	ATコマンド
アナログポート	ポート数	2
	電気的条件	2線式アナログ電話インタフェース
	受信選択信号	PB信号のみ
	給電電圧	約48 V（端末開放時）
	接続コネクタ	6ピンモジュラジャック
S／T	ポート数	1
	接続コネクタ	8ピンモジュラジャック
	適用インタフェース形態	P－MP接続
診断機能		自己診断機能
使用電源		AC100 V±10 V（50/60 Hz）＊ 停電時：アルカリ単3乾電池6本にて動作可能（アナログポート）
消費電力		最大約8 W
外観	寸法（mm）	約55（W）×150（H）×138（D）（アンテナ含まず）
	質量（g）	約500

＊INSメイトFT50に使用可能な電源アダプタは、91-55550（定格 入力：AC 100 V 30 VA 50/60 Hz 出力：DC13 V 1 A）です。

保守サービスのご案内

● **保証について**

保証期間（1年間）中の故障につきましては、「保証書」の記載にもとづき当社が無償で修理いたしますので、「保証書」は大切に保管してください。
（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

● **保守サービスについて**

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。
当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしています。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	● 毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	● 修理に要した費用をいただきます。 （修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用・部品代をいただきます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。） ● 当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要になります。

● **故障の場合は**

故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。

● **お話し中調べは**

お話し中調べは局番なしの114番へご連絡ください。

● **その他**

定額保守サービスの料金については、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：0120-109217（トークニイーナ）

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

● **補修用部品の保有期間について**

本商品の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、7年間保有しています。

MEMO

MEMO

この取扱説明書は、森林資源保護のため、再生紙を使用しています。

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報やバージョンアップサービスなどを提供しています。
本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

当社ホームページ：http://www.ntt-east.co.jp/ced/
http://www.ntt-west.co.jp/kiki/

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：0120－109217（トークニイーナ）

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

本2159-1（2000.10）
INSメイトFT50ホンタイトリセツ